

令和6年度

(2024年度)

植物防疫事業成績書

(年 報)

令和7年3月

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

は じ め に

大分県における病害虫発生予察業務は、平成 22 年度の組織改正以降、農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームを中心に、葉根菜類・茶業チーム、果樹グループ及び花きグループと共同で実施しています。主要業務として、病害虫発生予察情報の発表、侵入調査事業の実施及び病害虫診断業務等を行い、各種の情報や調査データを「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」とともに、随時ホームページにて公表しております。

昨年の梅雨入りは平年よりも 13 日遅い 6 月 17 日、梅雨明けは 2 日早い 7 月 17 日となり、同時期の降水量は平年比 107%と平年並で推移しました。そのため、同時期に注意報等に繋がる顕著な病害の発生は見られませんでした。一方、暖冬等による越冬虫の増加や、夏秋期の高湿乾燥により、果樹カメムシ類、アザミウマ類、トマトキバガ及びハスモンヨトウ等が、春期の高湿多雨により麦類赤かび病がそれぞれ多く発生しました。

このため、果樹カメムシ類について、5 月 9 日及び 7 月 5 日に 2 回注意報を発出して啓発を行いました。また、麦類赤かび病、トビイロウンカ、アザミウマ類、斑点米カメムシ類、トマトキバガ、ハスモンヨトウ及びピーマン斑点病を対象に注意報や技術情報を発出し、注意を促しました。さらに、微小害虫やウイルス病対策のため、JPP-NET 病害虫発生予測データベース（日本植物防疫協会）によるトビイロウンカの防除適期予測や、薬剤感受性検定に基づいた防除指導に加え、雑草管理及び残渣処理等による耕種的防除や、天敵及び防虫ネットの利用等、防除だけでなく予防や発生予察にも重点を置いた総合防除（IPM）による指導を、関係機関との連携により進めてまいりました。

その結果、水稻は、一部地域で斑点米カメムシ類による品質低下が見られたものの、穂いもちやトビイロウンカ等の発生が少なく、作況指数 101 と県域での顕著な被害には至りませんでした。また、園芸品目では、ピーマン黄化えそ病の発生株数が、前年比 44%と昨年に引き続き減少し、全国的に問題となったトマトキバガ及び果樹カメムシ類の被害も散発的なものに留まりました。さらに、サツマイモ基腐病やミカンコミバエについては、九州唯一の未発生県を維持するなど、現地での適切な防除対策が実を結びつつあります。反面、農薬に対する耐性や抵抗性の発達した病害虫の蔓延に加え、ナシ火傷病の中国での発生により、国内への侵入が懸念されるなど、難防除病害虫の防除対策は道半ばであります。以上の状況から、生産現場との防除意識の共有を図りつつ、発生情報の把握や伝達方法の改善など、防除指導体制の一層の強化を進めてまいります。

近年の地球温暖化等に端を発した気象変動や国際的な人流及び物流の増加に伴い、病害虫の発生動向も変容しており、国は令和 3 年 7 月に、2050 年までに化学農薬の使用量 50%低減等を目標とする「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」を施行しました。また、県では昨年 9 月に、自ら考え・動き・皆で実現する元気な農林水産業を基本目標に、「新たな大分県農林水産業振興計画」を策定するとともに、令和 5 年 4 月における「植物防疫法」改正に伴い、昨年 3 月に「大分県病害虫総合防除計画」を施行しました。

このような情勢を踏まえ、今後も、化学農薬への過度な依存を伴わない総合防除体系を、園芸品目を中心に確立・推進してまいります。また、防除暦を始めとする従来の統一的な防除対策に加え、生産者自らが、それぞれの産地や圃場における栽培環境や微気象に応じて防除時期や手段を調製できるカスタムメイド型の防除対策への転換に向けて、発生予察の改善や防除判断基準の構築を図るとともに、少子高齢化に伴う慢性的な担い手不足に対応するため、スマート農業技術を活用した防除手段の省力化も進めることで、県農業の再生や農作物の安定供給に寄与したいと考えております。

ここに、関係機関、団体およびフェロモントラップ調査員各位のご協力を得て、令和 6 年度に実施した植物防疫事業の実績を取りまとめましたので、ご活用頂ければ幸いです。

令和 7 年 3 月
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部長 藤原 博文

目 次

I 組織

1 職員の配置と活動状況	
（1）職員の状況	1
（2）活動状況	1
（3）重点指導事項	1
（4）病虫害発生予察調査員	2

II 管轄区域

1 管轄市町村	3
2 管轄市町村位置図	3
3 対象耕地面積	4

III 事業実施概要

1 実施状況	5
2 病虫害発生予察事業	
（1）発生を認めた病虫害	7
（2）新たに発生が認められた病虫害等	10
（3）病虫害診断依頼結果	10
（4）農作物有害動植物に対する薬剤感受性検定実施状況	11
（5）発生予察情報	15
（6）防除対策推進上の問題点及びその対策	39
（7）主要作物の生育概況	41
（8）普通作物病虫害の発生及び防除状況	43
（9）果樹・茶病虫害の発生及び防除状況	50
（10）野菜病虫害の発生及び防除状況	52
（11）予察圃場等に関する調査	54
3 侵入調査事業	73

IV 参考資料

1 令和6年気象概況	
（1）月別気象概況（大分地方気象台観測）	77
（2）大分地方気象台における気象表	79
（3）農業研究部における半旬別気象表	80
2 大分県における令和5年産主要作物の栽培面積	82

I 組 織

1 職員の配置と活動状況

(1) 職員の状況

職 名	氏 名	担当部門等	摘要
農業研究部 部長	藤原 博文	病虫害防除所長	兼務
病虫害対策チーム 専門研究員 (TL)	山崎 修一	病虫害総括	兼務
主任研究員	岡本 潤	野菜	兼務
主任研究員	玉野井 昭	病害・野菜	兼務
研究員	平木 薫	虫害・野菜	兼務
研究員	津田 裕樹	虫害・野菜	兼務
研究員	石本 侑梨	病害・野菜・果樹	兼務
研究員	下見 悠輔	普通作・野菜	兼務
再雇用非常勤	玉嶋 勝範	普通作	兼務
業務技師	小田 宏幸	普通作・野菜	兼務
葉根菜類・茶業チーム 研究員	川口 揚豊	茶	兼務
果樹グループ 温州ミカンチーム 研究員	永松 麻友香	常緑果樹	兼務
カボス・中晩柑チーム 再雇用非常勤	檜原 稔	常緑果樹	兼務
落葉果樹チーム 主任研究員	野村 雄太	落葉果樹	兼務
花きグループ 花きチーム 主幹研究員 (TL)	米田 恵美	花き	兼務
主任研究員	濱野 琴美	花き	兼務

(2) 活動状況 (病虫害対策チーム)

植物 検疫	防除 企画	防除指導 及び協力	発生 予察	侵入 調査	その他防除 関係事項※	計	備考
人日	人日	人日	人日	人日	人日	人日	※病虫害防除対策 にかかる試験研究 用務、農薬登録に かかる薬効薬害試 験用務等
150	100	200	550	150	1,300	2,450	
%	%	%	%	%	%	%	
6.1	4.1	8.2	22.4	6.1	53.1	100	

(3) 重点指導事項

- ア 病虫害発生予察事業の充実と情報伝達の迅速化、多様化
- イ 適期防除の推進及び農薬適正使用の徹底
- ウ 新規病虫害、侵入警戒有害動植物及び検疫有害動植物を含む重要病虫害防除の徹底
- エ 改正植物防疫法に基づく総合防除の推進
- オ みどりの食料システム法に基づく環境と調和のとれた食料システムの推進

(4) 病虫害発生予察調査員

各地のフェロモントラップの誘殺状況については「大分県病虫害発生予察調査業務」として業務委託契約を締結した。契約期間は令和6年4月1日から11月29日までとし、5日毎の誘殺状況について10日に1回報告を受けた。

ア 振興局別配置状況 (20 名)

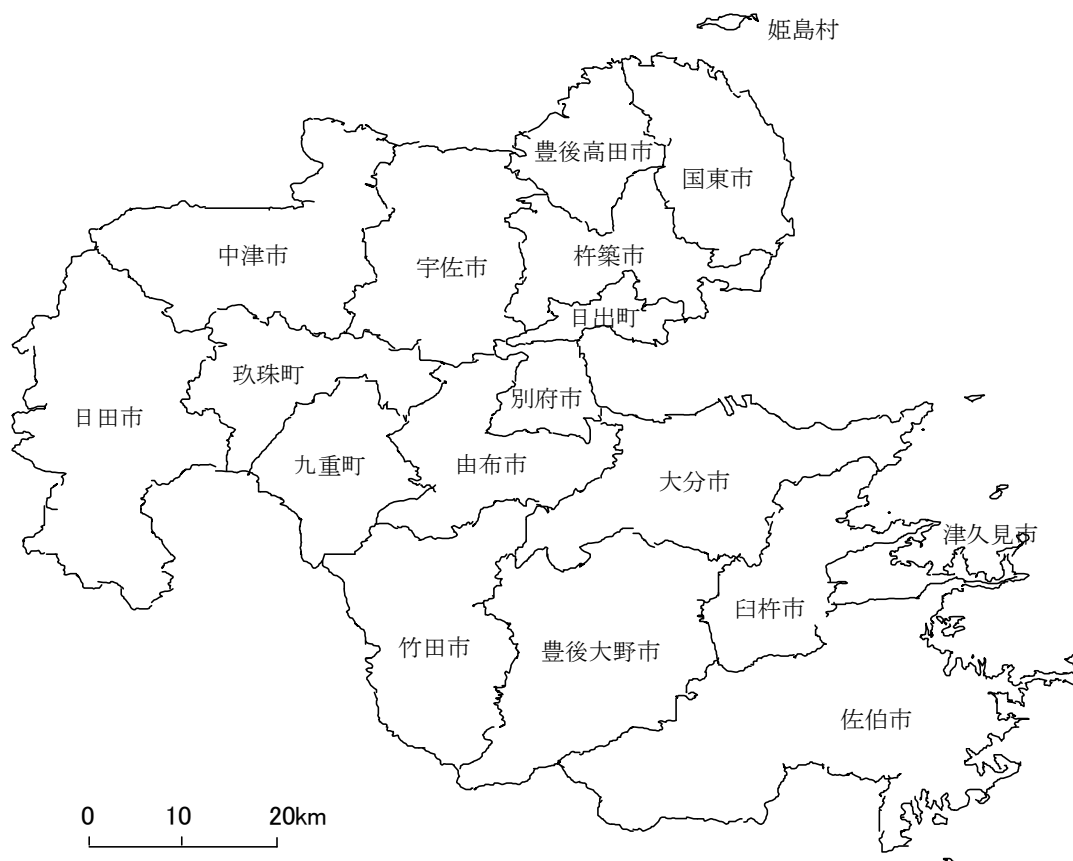
振興局名	市町村名	氏 名	担 当 作 目	対 象 害 虫
東 部	国 東 市	大塚 正征	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	国 東 市	伊東 理	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	日 出 町	谷 俊幸	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	杵 築 市	(株) カヤノ農産	特用作物(チャ)	チャノホソガ
中 部	由 布 市	土師 則昭	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
	臼 杵 市	染矢 健一	野菜(ピーマン)	タバコガ類
	由 布 市	さざんか(農)	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
南 部	佐 伯 市	井上 真二	花き(キク)	ハスモンヨトウ
	佐 伯 市	永田 祐介	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
豊 肥	豊後大野市	福井 敏之	野菜(ピーマン)	タバコガ類
西 部	九 重 町	井上 徹	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	日 田 市	(農)大肥郷ふるさと	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	日 田 市	穴井 睦治	果樹(ナシ)	シンクイムシ類
北 部	豊後高田市	藤本 弘治	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	豊後高田市	沖本 康輔	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ
	中 津 市	松田 秀治	普通作(ダイズ)	ハスモンヨトウ
	中 津 市	松枝 茂	果樹(ナシ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	首藤 敦彦	野菜(イチゴ)	ハスモンヨトウ
	宇 佐 市	井上 敏宏	果樹(カンキツ)	果樹カメムシ類
	宇 佐 市	藤原 和巳	野菜(ネギ)	シロイチモジヨトウ

Ⅱ 管轄区域

1 管轄市町村

振興局名	市町村数	市 町 村 名
東 部	5	別府市、杵築市、国東市、日出町、姫島村
中 部	4	大分市、臼杵市、津久見市、由布市
南 部	1	佐伯市
豊 肥	2	竹田市、豊後大野市
西 部	3	日田市、九重町、玖珠町
北 部	3	中津市、豊後高田市、宇佐市
計	18	

2 管轄市町村位置図



3 対象耕地面積(令和6年度)

単位：ha

振興局名	区分 市町村名	田	畑	計
東 部	別 府 市	266	73	339
	杵 築 市	2,470	903	3,380
	国 東 市	2,800	823	3,620
	日 出 町	432	279	711
	姫 島 村	6	26	32
	計	5,974	2,104	8,082
中 部	大 分 市	2,640	1,010	3,640
	臼 杵 市	1,150	1,180	2,330
	津久見市	0	284	284
	由 布 市	2,470	683	3,150
	計	6,260	3,157	9,404
南 部	佐 伯 市	1,330	524	1,860
	計	1,330	524	1,860
豊 肥	豊後大野市	4,060	1,990	6,040
	竹 田 市	4,370	2,090	6,460
	計	8,430	4,080	14,360
西 部	日 田 市	1,740	1,520	3,260
	九 重 町	1,270	713	1,990
	玖 珠 町	1,510	535	2,040
	計	4,520	2,768	7,290
北 部	中 津 市	2,960	811	3,770
	豊後高田市	1,780	1,220	3,000
	宇 佐 市	6,780	1,120	7,890
	計	11,520	3,151	14,660
県 計		38,034	15,784	53,796

注) ラウンドのため計と内訳は一致しない場合がある。

(出典：令和6年度農林水産省作物統計（市町村別データ）)

Ⅲ 事業実施概要

1 実施状況

病害虫の発生予察は、植物防疫事業実施要綱に基づき、病害虫、環境条件及び農作物の体質等に関する調査結果、並びに気象予報及び作物の生産予想等の情報に基づいて行なった。

病害虫の発生調査は、定点及び巡回による調査を普通作物、野菜類、果樹及び茶樹について実施した。定点における調査は、県予察圃場、予察灯及びフェロモントラップ等によって行なった。また、巡回による調査は毎月中旬に1回実施するとともに、水稻では8月上旬に追加調査を行なった。調査対象病害虫は、指定有害動植物を中心に大分県で重要な病害虫とした。

侵入調査事業にかかる各種トラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

令和2年度から病害虫防除員を廃止して「病害虫発生予察調査業務」の受託者を公募し、フェロモントラップの誘殺データ収集を行なった。

各種調査結果に基づき、発生予察情報（発生予報、警報、注意報、特殊報及び病害虫防除技術情報）を発表し、県ホームページに各種情報を掲載した。特に、注意報等の重要な情報は、マスコミを通じて広く周知を図った。

「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」にかかる対象病害虫の発生生態及び防除対策の記載内容について、大分県総合防除計画の策定に併せて抜本的に改訂した。

なお、発生予察調査に基づく病害虫発生現況については、農林水産省あてに発生予察集計プログラムを用いて報告し、併せて（一社）日本植物防疫協会が運用している「植物防疫情報総合ネットワーク（JPP-NET）」に加入し、関係機関に情報を提供した。加えて、令和元年度より2年間に於けるトビイロウンカによる甚大な被害を受け、令和3年度より、JPP-NET 病害虫発生予測データベース及びアメダスデータに基づいた防除適期予測を開始した。

農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム ホームページ

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>

大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針

普通作、果樹類、茶

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/list22117-27969.html>

野菜類、花き類

アドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/list22117-28115.html>

（1）県予察圃場及び予察灯

ア 県予察圃場

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8

対象作物：水稻、麦類、大豆

イ 予察灯

設置場所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8

対象害虫：セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

光源：60W 白熱灯

（2）巡回調査の地点数及び圃場数

区分 振興局名	水稻		早期水稻		麦類		大豆		果樹・茶		野菜		計	
	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場	地点	圃場
東 部	3	6	2	4	3	3	1	1	6	6	2	2	17	22
中 部	3	6			2	2			10	10	7	7	22	25
南 部	1	2	2	4					2	2	2	2	7	10
豊 肥	5	10			2	2	2	2	4	4	16	16	29	34
西 部	3	6							8	8	8	8	19	22
北 部	5	10	1	2	15	16	6	7	10	10	10	10	47	55
県 計	20	40	5	10	22	23	9	10	40	40	45	45	141	168

(3) 調査対象病虫害

ア 指定病虫害

区 分	対象作物名	病 害 虫 名
普 通 作 物	水 稲	いもち病、紋枯病、ばか苗病、稲こうじ病、もみ枯細菌病、縞葉枯病、ごま葉枯病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、斑点米カメムシ類(ミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ)、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、イネミズゾウムシ
	麦 類 大 豆	うどんこ病、赤かび病、さび病類(赤さび病、黄さび病、小さび病) 紫斑病、アブラムシ類(ダイズアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ
果樹類・茶	か ん き つ	そうか病、黒点病、かいよう病、ハダニ類(ミカンハダニ)、アブラムシ類(ミカンクロアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、黒星病、赤星病、ハダニ類(ミカンハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、アブラムシ類(ナシアブラムシ、ナシミドリオオアブラムシ、ワタアブラムシ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ)、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、カイガラムシ類(ナシマルカイガラムシ)
	ぶ ど う 茶	べと病、灰色かび病、晩腐病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)炭疽病、ハダニ類(カンザワハダニ)、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、チャノホソガ、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)、カイガラムシ類、チャトゲコナジラミ、チャノミドリヒメヨコバイ
野 菜 類	ト マ ト	疫病、灰色かび病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、黄化葉巻病、アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ)、コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)、オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、オオタバコガ、ハスモンヨトウ
	ね ぎ	さび病、べと病、黒斑病、アブラムシ類(ネギアブラムシ)、アザミウマ類(ネギアザミウマ)、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	い ち ご	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ、コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)

(4) 発生予察情報の種類

発生予報：病虫害の発生予想を定期的に発表するものであり、「病虫害発生予察情報」として月に1回発表する。

警 報：重要な病虫害が大発生することが予想され、かつ早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

注 意 報：警報を発表するほどではないが、重要な病虫害が多発することが予想され、かつ早目に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表する。

特 殊 報：新規に病虫害を発見した場合及び重要な病虫害の発消長に特異な現象が認められた場合に発表する。

病虫害防除技術情報：植物防疫事業実施要領に定められていない県独自の情報で、注意すべき病虫害の発生が見られる場合や作物栽培上重要となる防除対策を啓発する場合などに発表する。

(5) 侵入調査事業

侵入警戒有害動植物のうち25種についてトラップ調査、圃場調査及び情報収集を実施した。

2 病害虫発生予察事業

(1) 発生を認めた病害虫

作 目 名		病 害 虫 名
普 通 作	水 稲	〈育苗期〉 (病害) もみ枯細菌病、苗立枯病、苗いもち、ばか苗病 (害虫) ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ 〈本田〉 (病害) 縞葉枯病、萎縮病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、いもち病（葉いもち、穂いもち）、紋枯病、ばか苗病、ごま葉枯病、稲こうじ病、心枯線虫病 (害虫) セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（イネカメムシ含む）、イネクロカメムシ、イネゾウムシ、イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）、イネミズゾウムシ、イネツトムシ（イチモンジセセリ）、コブノメイガ、イネアオムシ（フタオビコヤガ）、イナゴ類、スクミリンゴガイ、ニカメイガ
	麦 類	(病害) 小麦 縞萎縮病、赤かび病、赤さび病、黄さび病、裸黒穂病、黄斑病、うどんこ病 大麦 縞萎縮病、黒節病、小さび病、うどんこ病、赤かび病、斑葉病、裸黒穂病、網斑病 (害虫) アブラムシ類、ハモグリバエ類
	大 豆	(病害) モザイク病、紫斑病、べと病、さび病、炭疽病、葉焼病 (害虫) ハダニ類、アブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類、フタスジヒメハムシ、ウコンノメイガ、ミツモンキンウワバ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ダイズサヤタマバエ、ネキリムシ類、シロイチモジマダラメイガ、マメシンクイガ、ハモグリガ類

作 目 名		病 害 虫 名
果 樹 類	かんきつ類	(病害) そうか病、黒点病、小黒点病、かいよう病、緑かび病、青かび病、灰色かび病、炭疽病、褐色腐敗病 (害虫) ミカンハダニ、ミカンサビダニ、チャノホコリダニ、カンザワハダニ、ミカンハモグリガ、ゴマダラカミキリ、ミカンバエ、アザミウマ類、アブラムシ類、カイガラムシ類、吸蛾類、果樹カメムシ類、アゲハ類、ヨコバイ類、ハマキムシ類、ケシキスイ類、コアオハナムグリ、クワゴマダラヒトリ、ミカンナガタマムシ、カネタタキ、アオバハゴロモ、クワノミハムシ、ナメクジ類、カタツムリ類、ヒゲナガゾウムシ
	な し	(病害) 黒斑病、黒星病、赤星病、輪紋病、うどんこ病、炭疽病、胴枯病 (害虫) ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、ハダニ類、ニセナシサビダニ、カイガラムシ類、果樹カメムシ類、ナシチビガ、アブラムシ類、吸蛾類
	ぶ ど う	(病害) 晩腐病、さび病、褐斑病、黒とう病、べと病、灰色かび病、うどんこ病、枝膨病 (害虫) ハダニ類、サビダニ類、ハマキムシ類、ブドウトラカミキリ、フタテンヒメヨコバイ、アザミウマ類、コガネムシ類、吸蛾類、カイガラムシ類、ブドウスカシバ、クビアカスカシバ、コウモリガ、ブドウトリバ、サルハムシ類
茶	茶	(病害) 炭疽病、もち病、輪斑病、新梢枯死症 (害虫) チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシ、カメムシ類、チャトゲコナジラミ、マダラカサハラハムシ、チャノナガサビダニ、アオバハゴロモ、コミカンアブラムシ

作 目 名		病 害 虫 名
野 菜 類	ト マ ト	(病害) モザイク病、黄化葉巻病、黄化萎縮病、黄化病、青枯病、かいよう病、斑点細菌病、茎えそ細菌病、軟腐病、萎凋病、疫病、菌核病、うどんこ病、灰色かび病、葉かび病、斑点病、輪紋病、根腐萎凋病、褐色輪紋病、すすかび病、褐色根腐病黒点根腐病、フザリウム株腐病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ヒラズハナアザミウマ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメハモグリバエ、トマトハモグリバエ、トマトサビダニ、ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ、クロテンコナカイガラムシ、ハモグリバエ類 ジャガイモヒゲナガアブラムシ
	ピーマン (夏秋)	(病害) モザイク病、黄化えそ病、えそ輪点病、青枯病、軟腐病、斑点細菌病、うどんこ病、疫病、菌核病、白絹病、灰色かび病、斑点病、黒枯病、立枯病、炭疽病、萎凋病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、カンザワハダニ、ナミハダニ、チャノホコリダニ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、タバコガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、イラクサギンウワバ、チャハマキ、アズキノメイガ、クロモンキノメイガ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、ホオズキカメムシ、チャバネアオカメムシ、コガネムシ類、ナメクジ類 アブラムシ類、カメムシ類
	い ち ご	(病害) 萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、灰色かび病輪斑病、芽枯病、疫病、根腐病、黒色根腐病 (害虫) ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、コガネムシ類、チャノホコリダニ、イチゴハムシ、ヒラズハナアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、ナミハダニ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、イチゴメセンチュウ、クルミネグサレセンチュウ、チバクロバネキノコバエ ヨコバイ類、コナジラミ類、アザミウマ類
	ね ぎ (夏) (秋) (冬)	(病害) 軟腐病、黒斑病、さび病、白色疫病、ボトリチス葉枯症、疫病、べと病、白斑葉枯病、苗立枯病、根腐病、白絹病、黄斑病、紅色根腐病、萎凋病、黒腐菌核病、褐色腐敗病 (害虫) ネギアブラムシ、シロイチモジヨトウ、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ、ネギコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、ロビンネダニ、ネダニモドキ属の一種

(2) 新たに発生が認められた病害虫等

作物名	病害虫名	発生 面積	初確認時期	発生傾向、被害の概要等

(3) 病害虫診断依頼結果

表1 各作物の原因別診断結果(令和6年1月～12月)

作目		診断依頼 件数	原因別診断依頼件数						
			ウイルス	細菌	糸状菌	線虫	害虫	生理障害等	原因不明
普通 作物	水稲	2	0	0	1	0	0	0	1
	小麦	1	0	0	0	0	0	1	0
	大麦	0	0	0	0	0	0	0	0
	大豆	2	0	0	0	0	1	0	1
	他	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	5	0	0	1	0	1	1	2
野菜 類	イチゴ	8	0	0	4	0	0	3	1
	トマト	7	2	0	1	0	0	3	2
	ミニトマト	1	0	0	1	0	0	0	0
	ネギ	13	0	5	6	0	0	2	2
	(白ネギ)	13	0	4	6	0	0	2	3
	(小ネギ)	1	0	1	0	0	0	0	0
	ピーマン	8	2	0	1	0	0	5	0
	ニラ	2	0	2	0	0	0	0	0
	他	20	0	5	7	0	1	3	5
	小計	61	4	12	20	0	1	16	11
その他		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		65	4	12	21	0	2	17	13

注) 1件で2つ以上原因のある依頼が存在するため、診断依頼件数と原因別診断件数の合計は一致しない。

表2 月別診断依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
診断件数	2	1	3	7	7	7	8	11	3	10	4	2	65

イ 害虫

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
トマト	オンシツコナジラミ	アクリナトリン水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫41% 幼虫77% 個体群b: 成虫0% 幼虫66%	竹田市久住町(個体群a)および豊後大野市三重町(場内圃場)(個体群b)で採取した計2個体群で感受性検定を行った。供試薬剤は、常用濃度(登録範囲の最高濃度)に希釈した薬液にポリエチレングリコールオクチルフェニルエーテル(製品名: トリトンX-100)を2,000倍となるよう加用して調製した。成虫については、調製した薬液にインゲンマメ初生葉を10秒間浸漬し、風乾した後、小型ガラス瓶にて水挿した状態でプラスチックカップ容器内に配置し、供試成虫を放飼し、蓋で密閉し、25℃16L8D条件下に静置した。96時間後に生死の判定を行い、補正死虫率を算出した。試験は3反復で行った。幼虫については、調製した薬液に幼虫が寄生したインゲンマメ苗の初生葉を10秒間浸漬し、風乾した後、インゲンマメ苗をゲージ内に配置し、蓋で密閉し、25℃16L8D条件下に静置した。生死の判定は3週間後に行い、補正死虫率を算出した。試験は2反復で行った。	効果の低下している薬剤に関しては圃場での防除効果が得られていない可能性があるため、使用する際は注意する。	・検定結果の周知	
トマト	オンシツコナジラミ	ニテンピラム水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫98% 幼虫99% 個体群b: 成虫56% 幼虫98%				
トマト	オンシツコナジラミ	ジノテフラン水溶剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫100% 幼虫93% 個体群b: 成虫85% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	アセタミプリド水溶剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫93% 幼虫80% 個体群b: 成虫69% 幼虫59%				
トマト	オンシツコナジラミ	チアクロプリド水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫62% 幼虫82% 個体群b: 成虫0% 幼虫57%				
トマト	オンシツコナジラミ	スルホキサフロル水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫92% 幼虫100% 個体群b: 成虫100% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	スピネトラム水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫100% 幼虫99% 個体群b: 成虫100% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	スピノサド水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫100% 幼虫99% 個体群b: 成虫100% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	レピメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫98% 幼虫100% 個体群b: 成虫100% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	エマメクチン安息香酸塩乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫100% 幼虫92% 個体群b: 成虫67% 幼虫90%				
トマト	オンシツコナジラミ	アバメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫88% 幼虫100% 個体群b: 成虫99% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	ミルベメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫0% 幼虫100%				
トマト	オンシツコナジラミ	ピリフルキナゾン水和剤	(補正死虫率) 個体群a: 成虫43% 幼虫35% 個体群b: 成虫73% 幼虫72%				

トマト	オンシツコナジラミ	ピメトロジン水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫11% 幼虫0% 個体群b：成虫17% 幼虫0%				
トマト	オンシツコナジラミ	クロルフェナピル水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫100% 幼虫95% 個体群b：成虫95% 幼虫89%				
トマト	オンシツコナジラミ	フルフェノクスロン乳剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫4% 幼虫62% 個体群b：成虫0% 幼虫56%				
トマト	オンシツコナジラミ	ルフェヌロン乳剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫0% 幼虫81%				
トマト	オンシツコナジラミ	フェンピロキシメート/ プロフェジン水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫9% 幼虫97% 個体群b：成虫24% 幼虫96%				
トマト	オンシツコナジラミ	スピロメシフェン水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫0% 幼虫99% 個体群b：成虫4% 幼虫100%				
トマト	オンシツコナジラミ	シアントラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫47% 幼虫78% 個体群b：39% 幼虫100%				
トマト	オンシツコナジラミ	テトラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群b：成虫7% 幼虫84%				
トマト	オンシツコナジラミ	クロラントラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫0% 幼虫19%				
トマト	オンシツコナジラミ	フロニカミド水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫25% 幼虫44% 個体群b：成虫20% 幼虫92%				
トマト	オンシツコナジラミ	フルキサメタミド乳剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫100% 幼虫99% 個体群b：成虫100% 幼虫				
トマト	オンシツコナジラミ	フロメトキン水和剤	(補正死虫率) 個体群a：成虫26% 幼虫66% 個体群b：成虫89% 幼虫80%				

作物名	病害虫名	薬剤名	検定結果	検定方法	防除効果	指導状況	備考
トマト	タバココナジラミ	アクリナトリン水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫0% 個体群②：幼虫0%	竹田市久住町（個体群a）および豊後大野市三重町（場内圃場）（個体群b）で採取した計2個体群で感受性検定を行った。 供試薬剤は、常用濃度（登録範囲の最高濃度）に希釈した薬液にポリエチレングリコールオクチルフェニルエーテル（製品名：トリトンX-100）を2,000倍となるよう加用して調製した。成虫については、調製した薬液にインゲンマメ初生葉を10秒間浸漬し、風乾した後、小型ガラス瓶にて水挿しした状態でプラスチックカップ容器内に配置し、供試成虫を放飼し、蓋で密閉し、25℃16L8D条件下に静置した。96時間後に生死の判定を行い、補正死虫率を算出した。試験は3反復で行った。 幼虫については、調製した薬液に幼虫が寄生したインゲンマメ苗の初生葉を10秒間浸漬し、風乾した後、インゲンマメ苗をゲージ内に配置し、蓋で密閉し、25℃16L8D条件下に静置した。生死の判定は3週間後に行い、補正死虫率を算出した。試験は2反復で行った。	効果の低下している薬剤に関しては圃場での防除効果が得られていない可能性があるため、使用する際は注意する。	・検定結果の周知	
トマト	タバココナジラミ	ニテンピラム水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫96.2% 個体群②：成虫87.7% 幼虫86.9%				
トマト	タバココナジラミ	ジノテフラン水溶剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫74% 個体群②：成虫84.4% 幼虫69.8%				
トマト	タバココナジラミ	アセタミプリド水溶剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫89.5% 個体群②：成虫74.3% 幼虫88.4%				
トマト	タバココナジラミ	チアクロプリド水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫21.1% 個体群②：成虫11.1% 幼虫66%				
トマト	タバココナジラミ	スルホキサフロル水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫92.9% 個体群②：成虫98% 幼虫86.3%				
トマト	タバココナジラミ	スピネトラム水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫99% 個体群②：成虫100% 幼虫99.2%				
トマト	タバココナジラミ	スピノサド水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫100% 個体群②：成虫100% 幼虫100%				
トマト	タバココナジラミ	レピメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫99.1% 個体群②：成虫99% 幼虫97%				
トマト	タバココナジラミ	エマメクチン安息香酸塩乳剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫95.1% 個体群②：成虫65.2% 幼虫64.5%				
トマト	タバココナジラミ	アバメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫100% 個体群②：成虫100% 幼虫100%				
トマト	タバココナジラミ	ミルベメクチン乳剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫45.4% 個体群②：幼虫100%				

トマト	タバココナジラミ	ピリフルキナゾン水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫89.3% 個体群②：成虫60.1 幼虫 65.2%				
トマト	タバココナジラミ	ピメトロジン水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫30.4% 個体群②：幼虫0%				
トマト	タバココナジラミ	クロルフェナピル水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫49.4% 個体群②：成虫57.1% 幼虫 23.7%				
トマト	タバココナジラミ	フルフェノクスロン乳剤	(補正死虫率) 個体群②：幼虫52.5%				
トマト	タバココナジラミ	ルフェヌロン乳剤	(補正死虫率) 個体群②：幼虫28.3%				
トマト	タバココナジラミ	フェンピロキシメート/ プロフェジン水和剤	(補正死虫率) 個体群②：成虫1.7% 幼虫 80.6%				
トマト	タバココナジラミ	スピロメシフェン水和剤	(補正死虫率) 個体群②：幼虫74.2%				
トマト	タバココナジラミ	シアントラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫88.8% 個体群②：成虫14.4% 幼虫 93.9%				
トマト	タバココナジラミ	テトラニリプロール水和剤	(補正死虫率) 個体群②：成虫8.4% 幼虫 9.1%				
トマト	タバココナジラミ	フロニカミド水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫35.8% 個体群②：成虫5.6% 幼虫 30.1%				
トマト	タバココナジラミ	フルキサメタミド乳剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫90.9% 個体群②：成虫84.5% 幼虫 100%				
トマト	タバココナジラミ	フロメトキン水和剤	(補正死虫率) 個体群①：成虫61.4% 個体群②：成虫32.4% 幼虫 91.5%				

(4) 発生予察情報

ア 発表状況

情報の種類	発行回数	発行部数	情報提供先
予報	12	2,772	農林水産省関係機関、国立研究法人、九州各 県病虫害防除所、九州各県農業試験場、県農林 水産部関係機関、県振興局、県内市町村、農業 関係団体（農業協同組合）、各共済組合、農薬 卸商組合、農薬小売組合、病虫害発生予察調査 員、報道機関等。
警報	0	0	
注意報	9	2,079	
特殊報	0	0	
技術情報	5	1,155	
その他	0	0	
計	26	6,006	

注) 平成 23 年度から情報発信の一部を E メールにて行っている。

イ 警報、注意報、特殊報等の内容

注意報

情報号数	発表年月日	対象作物	対象病虫害
第 1 号	令和 6 年 4 月 26 日	麦類	赤かび病
第 2 号	令和 6 年 5 月 8 日	果樹全般	果樹カメムシ類
第 3 号	令和 6 年 6 月 20 日	早期水稻・普通期水稻	トビイロウンカ
第 4 号	令和 6 年 6 月 20 日	白ネギ	ネギアザミウマ
第 5 号	令和 6 年 7 月 5 日	果樹全般、果菜類	果樹カメムシ類
第 6 号	令和 6 年 7 月 30 日	ピーマン	アザミウマ類
第 7 号	令和 6 年 8 月 2 日	普通期水稻	斑点米カメムシ類
第 8 号	令和 6 年 9 月 6 日	トマト・ミニトマト	トマトキバガ
第 9 号	令和 6 年 9 月 25 日	大豆	ハスモンヨトウ

病虫害防除技術情報

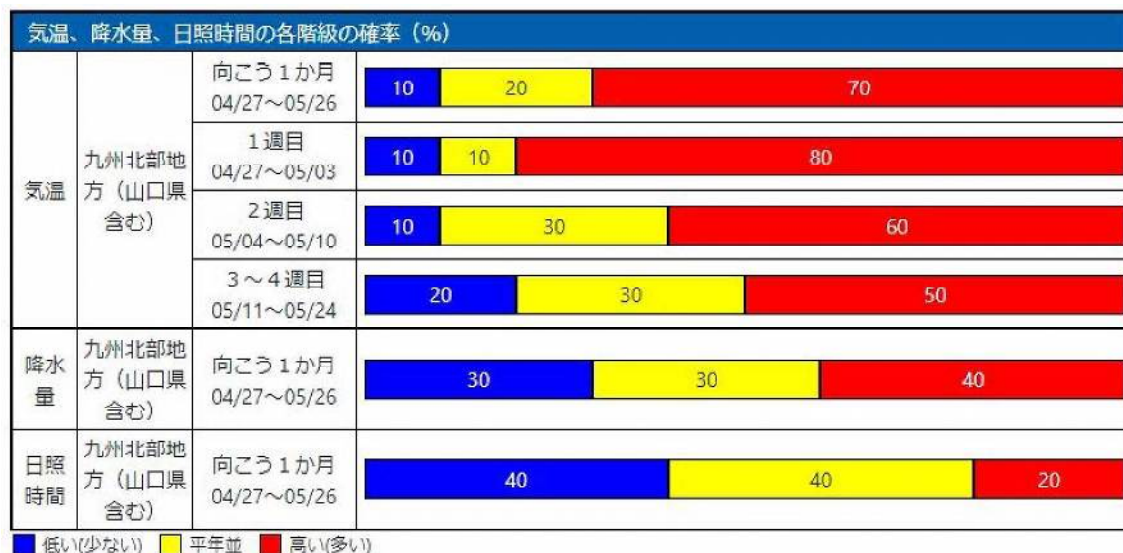
情報号数	発表年月日	対象作物	対象病虫害
第 1 号	令和 6 年 4 月 1 日	麦類	赤かび病・小麦黄斑病 大麦網斑病
第 2 号	令和 6 年 7 月 8 日	水稻	トビイロウンカ
第 3 号	令和 6 年 7 月 30 日	ピーマン	斑点病
第 4 号	令和 6 年 8 月 7 日	トマト・ミニトマト	トマトキバガ
第 5 号	令和 6 年 9 月 6 日	大豆・野菜類・花き類	ハスモンヨトウ
第 6 号	令和 7 年 3 月 3 日	イチゴ	アザミウマ類

令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第1号

令和6年4月26日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 麦類赤かび病
- 2 対象作物 麦類
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- (1) 県内の麦類主要産地である北部地域において、赤かび病の甚発生圃場が確認されており、出穂後2回防除を実施している圃場でも本病の多発生が認められ、例年になく発生量が多い状況である。また、他地域においても本病の発生が多いという情報が寄せられている。
- (2) 本病の感染は開花期から乳熟期が主であり、菌の孢子形成、飛散は雨により助長されるので、この時期に曇天や降雨が続くと多発する恐れがある。また、発病後は病斑上の分生子で伝染する。
- (3) 4月25日に福岡管区气象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（4月27日から5月26日まで）は以下のとおりで、高温傾向で推移する可能性が高く、降水量も多いと予想され、本病の好適条件が続くと考えられる。
福岡管区气象台のホームページ (http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/109_00.html) より抜粋。



7 防除対策

- (1) 本病の防除は、出穂後2回の農薬散布を基本としているが、発生が多い場合にはさらに3回目の農薬散布を検討してください。
- (2) 本病はかび毒（デオキシニバレノール：DON）を生成することが知られているので、農薬による防除を徹底する。

- (3) 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



図1 小麦赤かび病



図2 大麦赤かび病

令和 6 年度 病害虫発生予察 注意報 第 2 号

令和 6 年 5 月 8 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

- 1 対象病害虫 果樹カメムシ類（チャバネアカカメムシ、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシ）
- 2 対象作物 果樹全般（特にナシ、ウメ、スモモ等の落葉果樹）
- 3 対象地域 県内全域（特に県北部、東部、南部）
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- （1）本年 1 月に実施した果樹カメムシ類（チャバネアカカメムシ）の越冬量調査では、県内 6 地点の平均越冬量は 0.78 頭/㎡と、過去 10 年間で最も多く確認されている。
- （2）県果樹試験場（津久見市）に設置している集合フェロモントラップへの誘殺数は、5 月 1 半旬以降、急激に増加しており、平年および直近の多発年である令和 2 年（2020 年）よりも多い（図 1）。
- （3）県内 7 か所に設置している集合フェロモントラップへの誘殺数は、日出町、国東市、佐伯市、宇佐市で 5 月 1 半旬以降急激に増加しており、平年および直近の多発年である令和 2 年（2020 年）よりも多い（図 2）。
- （4）福岡管区気象台が 5 月 2 日に発表した九州北部地方 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高い確率 60%と予測されており、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

7 防除対策

- （1）園地への飛来時期や飛来量は、地域や園地によって異なるので、園地の見回りを徹底する。特に、山間部や山沿いの園地は被害を受けやすいので、注意する。また、飛来が多く認められた場合は一斉防除を実施する。
- （2）果樹カメムシ類の個体数が非常に多い場合は、常緑果樹（カンキツ類等）でも落果が助長されるなどの被害が発生する可能性があるため、飛来を警戒する。

- (3) 薬剤散布は、果樹カメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時から日没直後に行ない、虫に直接薬剤がかかるようにする。
- (4) ピレスロイド系殺虫剤は、有用天敵等への影響が大きくハダニ類の発生を助長することがあるので、最小限の使用にとどめる。
- (5) 作物によって使用できる薬剤が異なるので、防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」
(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)
を参照する。



なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ
<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



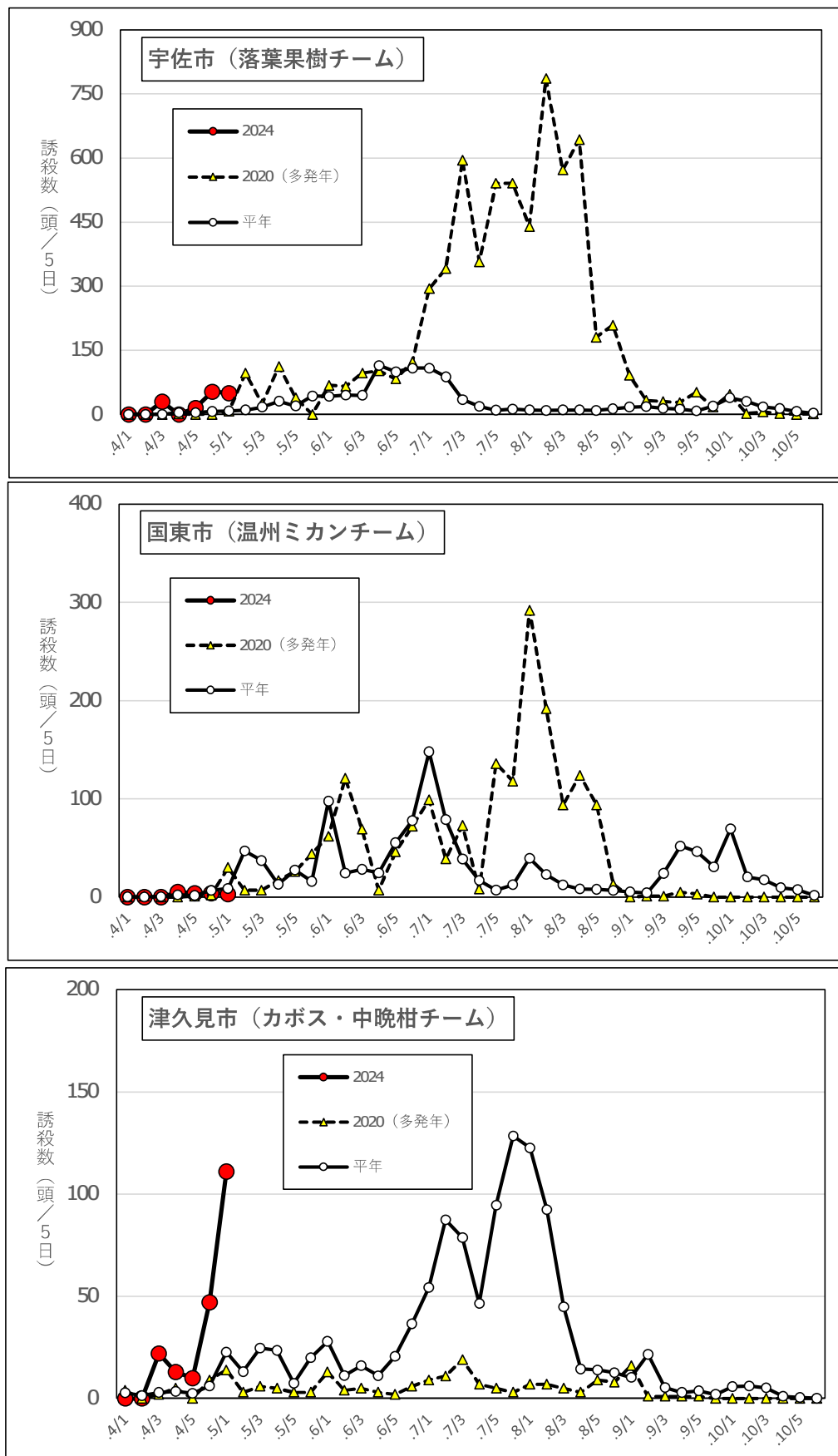


図1 県果樹試験場3か所に設置した集合フェロモントラップへの誘殺状況

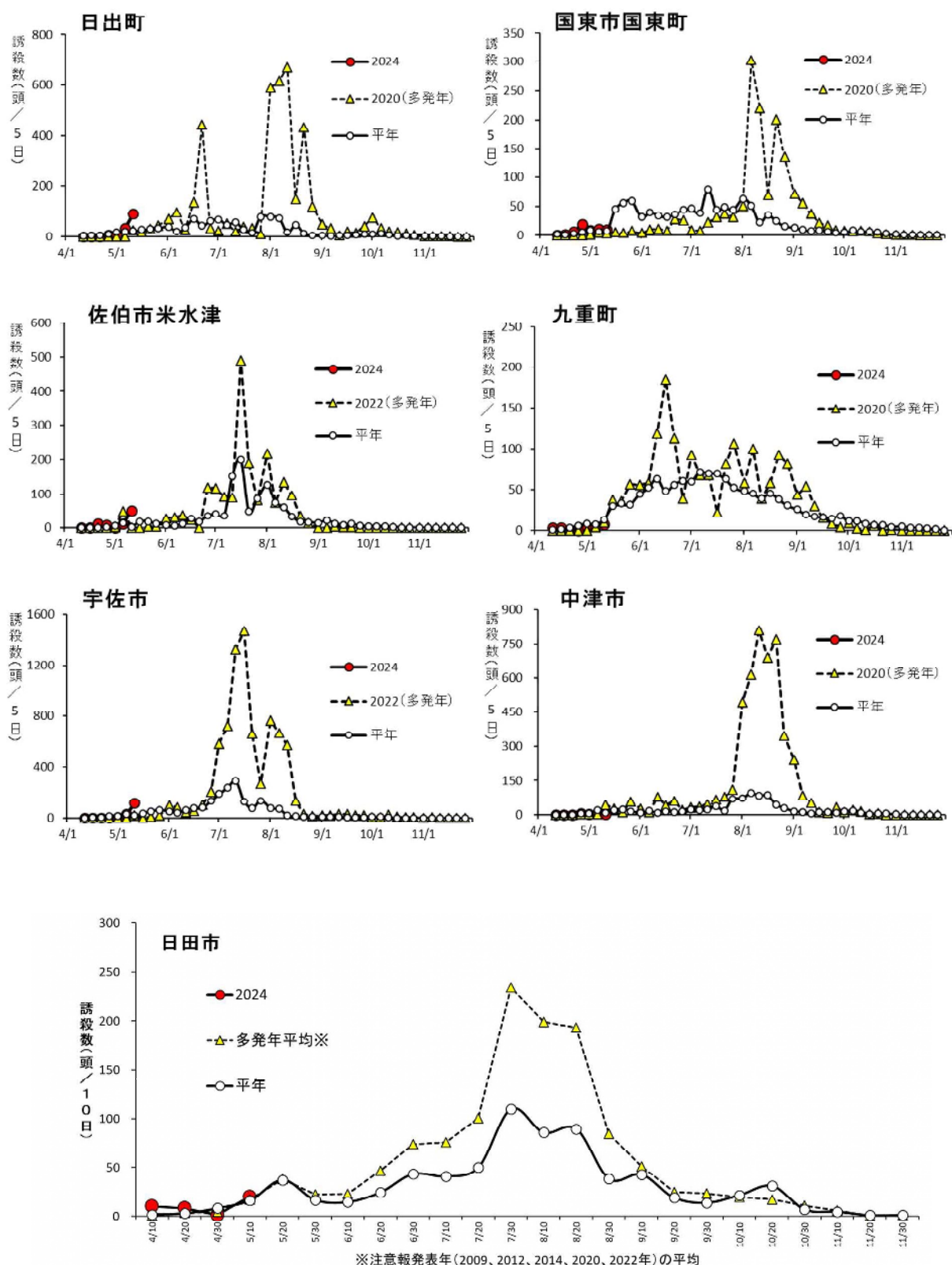


図2 県内7か所に設置した集合フェロモントラップへの誘殺状況

日田市以外は5月5日までのデータ

日田市の5/10は5月6日までのデータ

令和6年度 病害虫発生予察 注意報第3号

令和6年6月20日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トビイロウンカ
- 2 対象作物 早期水稲、普通期水稲の早植地域
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い

6 注意報発表の根拠

- (1) 6月12～18日の巡回調査では、県北部において早期水稲10圃場中2圃場でトビイロウンカの終齢幼虫を含む幼虫を確認した。幼虫の齢数から5月下旬に海外から飛来した可能性がある。過去10年間でこの時期にトビイロウンカが確認されたことはなく、平年より1か月ほど早い発生であるため、早期水稲においても坪枯れが発生する可能性がある。

早期水稲における発生状況

発生圃場率 : 10.0% (平年 : 0%、前年 : 0%)

株当たり虫数 : 0.1頭 (平年 : 0頭、前年 : 0頭)

- (2) トビイロウンカと同じ海外飛来性のセジロウンカは、県北部と南部において早期水稲10圃場中3圃場で終齢幼虫を含む幼虫を確認した。また、県西部において普通期水稲8圃場中1圃場でセジロウンカの若齢幼虫を確認したことから、県内全域でトビイロウンカが飛来した可能性がある。
- (3) 福岡管区気象台が6月13日に発表した向こう1か月の気象予報によれば、気温は高い確率50%、平年並40%、降水量は多い確率40%、平年並40%と予想されており、トビイロウンカの増殖好適条件が続くと考えられる。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に到達するように散布する。また、畦畔よりも水田の中央部に発生しやすいので水田内をよく確認する。
- (2) 地域によって本虫の飛来時期は異なる場合があるので、本虫の発生を認めた場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 早期水稲においては、出穂期前後の基幹防除に本虫の対象薬剤を選択して防除の徹底を図る。
- (4) 動力散粉機や噴霧機を所有していない農家においては、粒剤散布が簡便で坪枯れ防止には有効である。なお、粒剤散布時には湛水状態とする。
- (5) 箱苗用の長期残効薬剤を施用した場合は2～3か月の効果が期待できるが、降雨が多い場合は残効が短くなる可能性もあるので、本田における発生状況を確認する。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病害虫対策チームホームページ

[https:// www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/](https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/)



令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第4号

令和6年6月20日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 ネギアザミウマ
- 2 対象作物 白ネギ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

【平坦地】

- (1) 6月14日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった(図1)。

発生圃場率：100% (平年：90.0%、前年：100%)
平均被害度：30.0 (平年：19.4、前年：26.3)

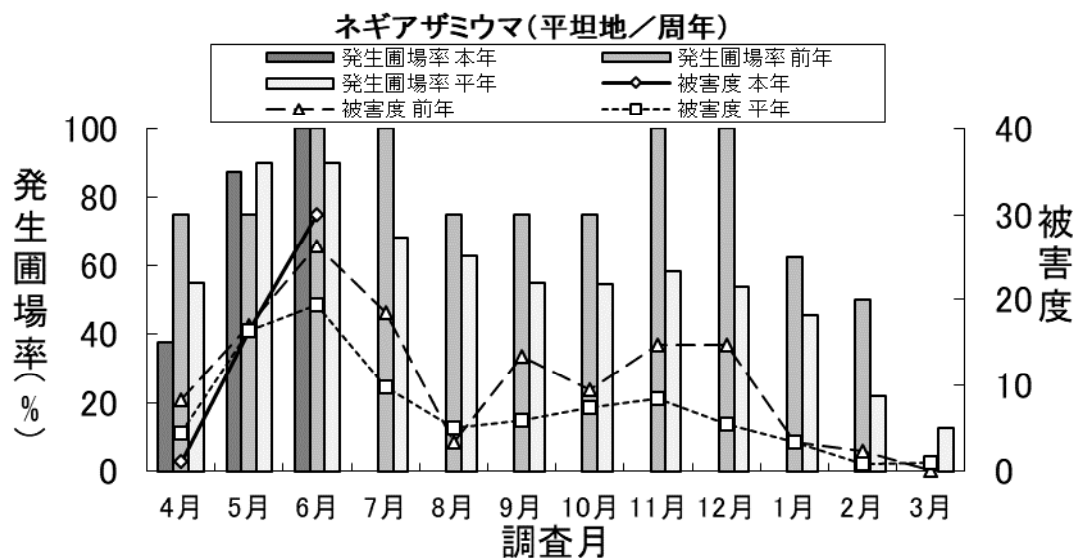


図1 病害虫発生予察巡回調査での白ネギにおけるネギアザミウマの発生推移
(平坦地)

【中山間】

- (2) 6月12～17日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった(図2)。

発生圃場率：100% (平年：78.6%、前年：87.5%)

平均被害度：17.3 (平年：9.8、前年：5.2)

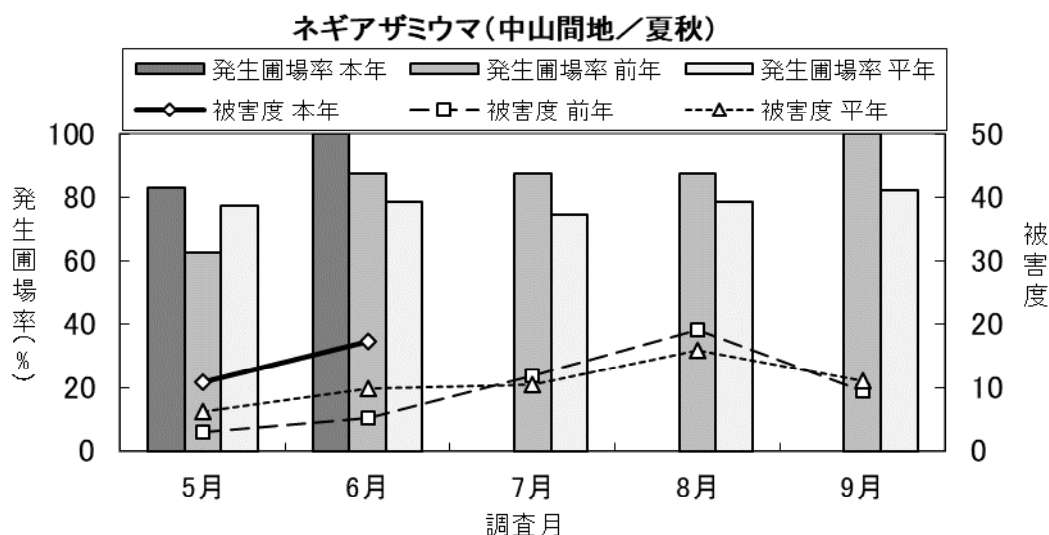


図2 病虫害発生予察巡回調査での白ネギにおけるネギアザミウマの発生推移
(中山間地)

- (3) 一部地域では、本虫が媒介するえそ条斑病 (IYSV) が発生している。
- (4) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区気象台が6月13日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並20%、高い確率70%、降水量は少ない確率20%、平年並40%と予測されており、気温が高い条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) ネギアザミウマの薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)の「ねぎ」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病虫害対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



- (2) 圃場内および周辺の雑草はネギアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、圃場外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、圃場内の白ネギに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特に圃場の風上側の除草を心がける。
- (3) 次作以降のネギアザミウマや本虫が媒介するえそ条斑病（IYSV）の蔓延を防ぐため、残渣の処分や圃場周辺の除草を徹底する。
- (4) ネギアザミウマは、白ネギ以外にもユリ科、アブラナ科、ウリ科、ナス科、キク科及びバラ科など多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。

令和 6 年度 病害虫発生予察 注意報 第 5 号

令和 6 年 7 月 5 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

- 1 対象病害虫 果樹カメムシ類（チャバネアカカメシ、ツヤアカカメシ、クサギカメシ）
- 2 対象作物 果樹全般（ナシ、柑橘等）、果菜類（ピーマン等）
- 3 対象地域 県内全域（特に県北部、東部、南部、西部）
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- （1）本年 5 月、果樹カメムシ類の多発生が認められたため、5 月 8 日に果樹全般に対して「注意報第 2 号」を発表した。しかし 6 月中旬以降トラップへの誘殺がさらに増加し多発生が継続しているため、これまで主に注意を喚起してきた落葉果樹に加え、柑橘類やピーマン等の果菜類も被害を受ける恐れが高まっている。
- （2）県果樹試験場（宇佐市、国東市、津久見市）に設置している集合フェロモントラップへの誘殺数は、6 月中旬以降急激に増加しており、平年値および直近の多発年である令和 2 年（2020 年）よりも多い（図 1）。また、宇佐市は多発年である令和 2 年度と同様に推移し、津久見市は多くなっている。一方、国東市は同年よりも約 1 ヶ月早く誘殺数の増加を迎えている。
- （3）県内 7 か所に設置している集合フェロモントラップへの誘殺数は、日出町、九重町、宇佐市、中津市及び日田市で 6 月中旬以降急激に増加しており、平年および直近の多発年である令和 2 年（2020 年）よりも多い（図 2）。
- （4）福岡管区气象台が 7 月 4 日に発表した九州北部地方 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高い確率 70%と予測されており、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

7 防除対策

- （1）園地への飛来時期や飛来量は、地域や園地によって異なるので、園地の見回りを徹底する。特に、山間部や山沿いの園地は被害を受けやすいので、注意

する。また、飛来が多く認められた場合は一斉防除を実施する。

- (2) 果樹カメムシ類の個体数が非常に多い場合は、常緑果樹（カンキツ類等）や果菜類（ピーマン等）でも被害が発生する可能性があるため、飛来を警戒する。
- (3) 薬剤散布は、果樹カメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時から日没直後に行ない、虫に直接薬剤がかかるようにする。
- (4) ピレスロイド系殺虫剤は、有用天敵等への影響が大きくハダニ類の発生を助長することがあるので、最小限の使用にとどめる。
- (5) 作物によって使用できる薬剤が異なるので、防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある

「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)

を参照する。



なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



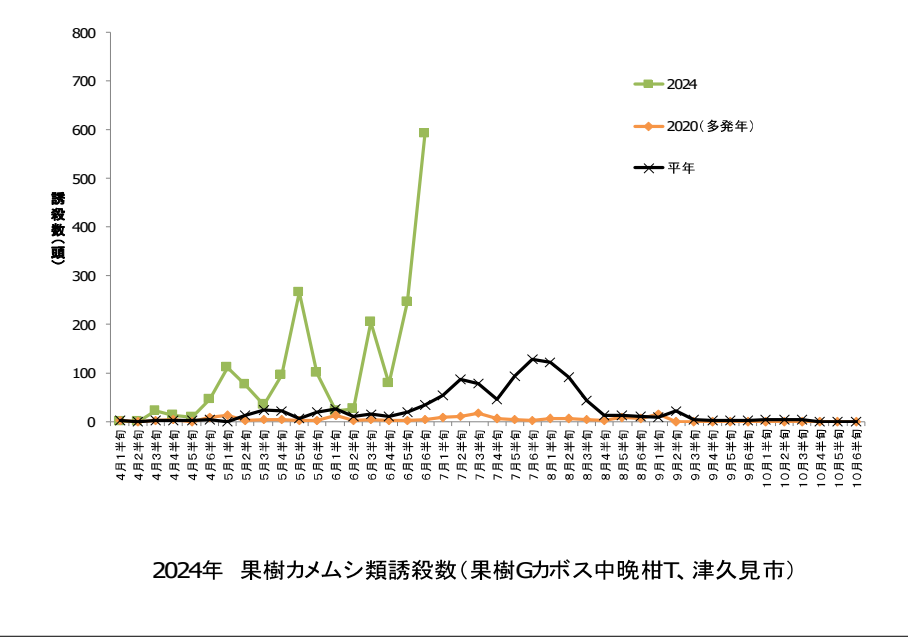
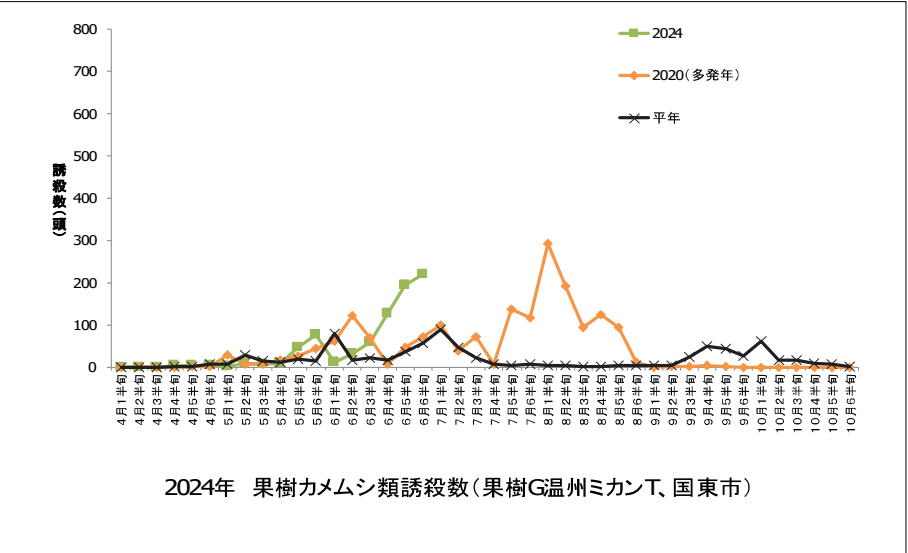
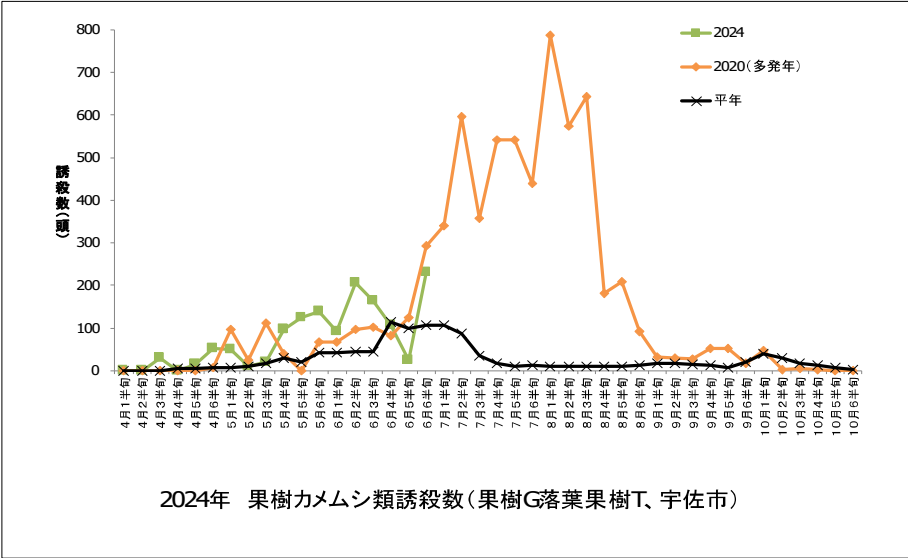


図1 県果樹試験場3か所に設置した各種トラップへの誘殺状況

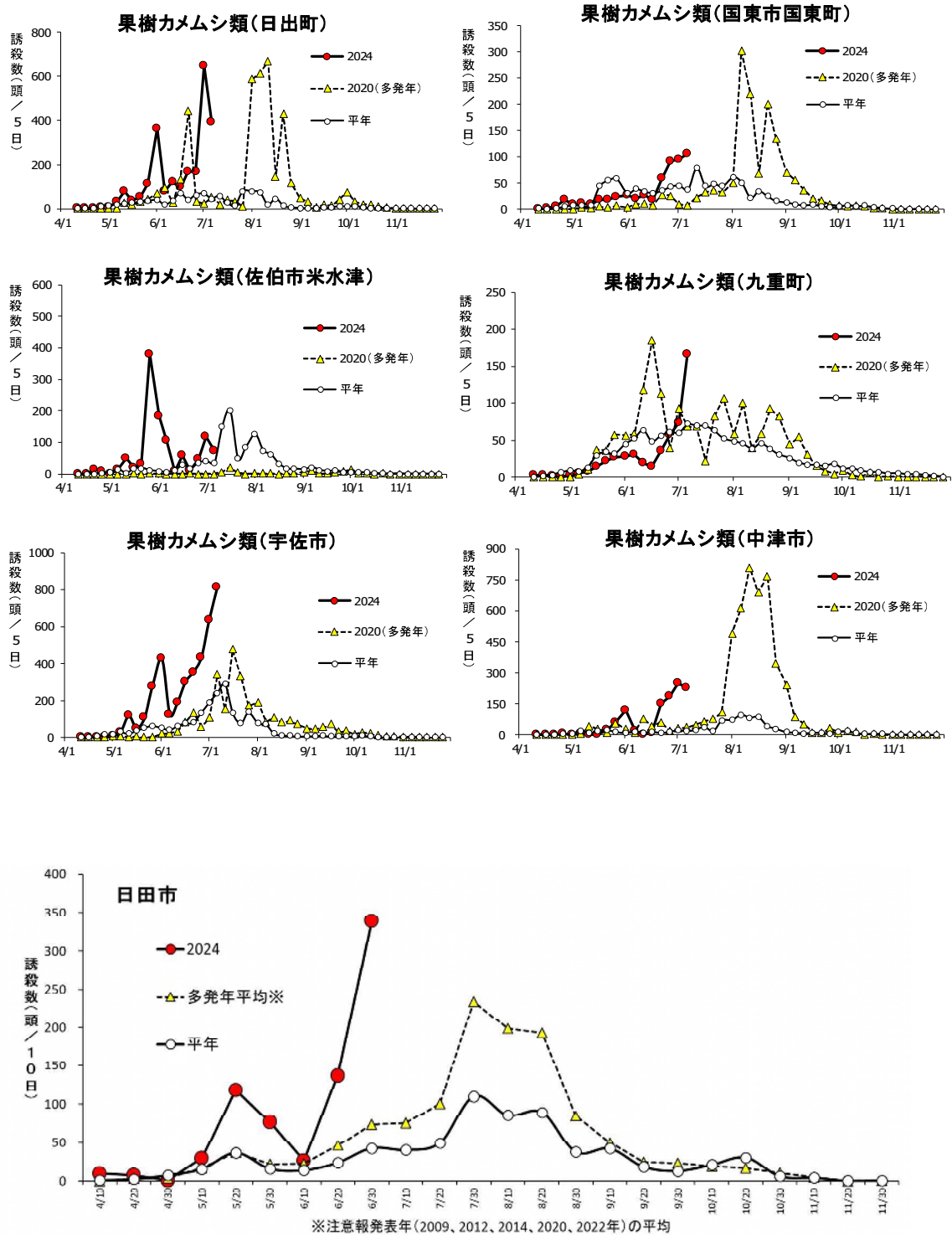


図2 県内7か所に設置した集合フェロモントラップへの誘殺状況

6月30日までのデータ

令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第6号

令和6年7月30日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）
- 2 対象作物 ピーマン
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

（1）7月11～16日に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに
平年より高く（図1）、過去10年間で最も高かった昨年とほぼ同じである。

発生圃場率：88.9%（平年：41.0%、前年：87.5%）

平均寄生花率：29.8%（平年：8.2%、前年：32.0%）

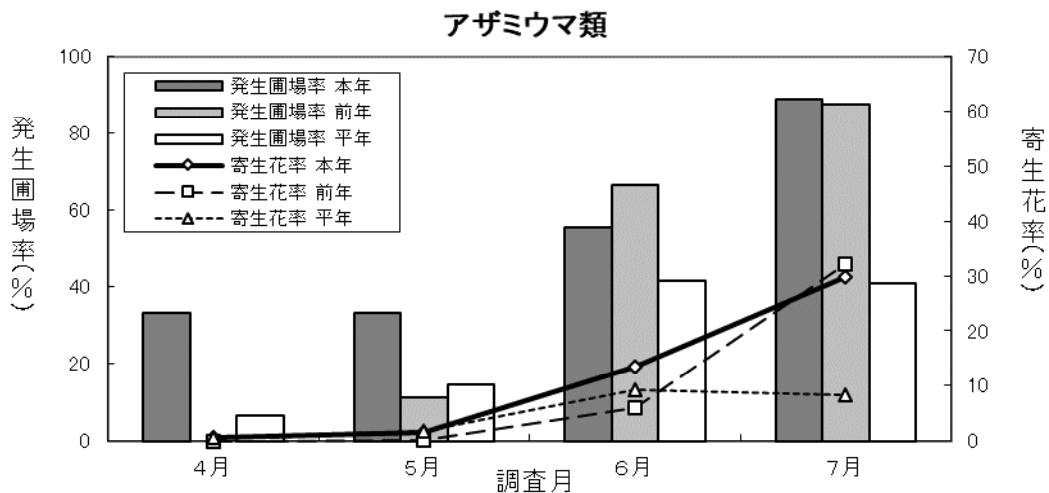


図1 病害虫発生予察巡回調査でのピーマンにおけるアザミウマ類の発生推移
（令和6年4月～7月）

- （2）本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区気象台が7月25日に
発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、平年並10%、高い確
率80%、降水量は少ない確率40%、平年並30%と予測されており、引き続
き好適条件が続く可能性がある。

7 防除対策

- (1) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)の「ピーマン」項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



- (2) ヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマはピーマン黄化えそ病 (TSWV) を媒介するため、発病株は抜き取り、圃場外に持ち出して埋設するなど適切に処分する。また、TSWV は汁液伝染するため、発病株の抜き取りなどは作業の最後に行なうとともに手洗いを励行する。
- (3) 圃場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、施設外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、施設内のピーマンに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。収穫残渣についてもアザミウマ類の増殖源となるため、埋設するなど適切に処分する。
- (4) アザミウマ類は、ピーマン以外にも花き類、トマト、イチゴなど、多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (5) 次作以降のアザミウマ類及び黄化えそ病 (TSWV) の蔓延を防ぐため、ピーマンの収穫終了後、年内までに残渣の処分や施設周辺の除草を徹底する。

令和6年度 病虫害発生予察 注意報 第7号

令和6年8月2日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病虫害 斑点米カメムシ類
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い
- 6 発表の根拠

- (1) 7月29日～8月1日に実施した普通期水稻(40圃場)の巡回調査において、畦畔雑草のすくい取りを行った結果、斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類)は1か所あたり成幼虫計13.1頭で平年(同2.8頭)と比較してかなり多く、過去10年間で最も多かった。
- (2) 近年増加傾向にあるイネカメムシは、県北東部を中心に確認されている。また、畦畔のイネ科雑草の穂に成虫並びに幼虫が確認されたことから、イネ科雑草で増殖している可能性がある。
- (3) 斑点米カメムシ類は高温乾燥条件で多発するが、福岡管区气象台が8月1日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が多く、気温は平年並10%、高い確率80%と予測されており、発生の好適条件が続く可能性が高い。

7 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類は、水稻の出穂前に圃場周辺に生育するイネ科雑草の穂で増殖するため、出穂の2週間前までに圃場周辺の草刈りを行い、出穂直前の草刈りは斑点米カメムシ類が圃場に侵入するのを助長するので避ける。また、すくい取り調査時の観察からイネカメムシも草刈りの効果が期待できる。
- (2) 斑点米カメムシ類は、水稻の出穂後に成虫が圃場に侵入して穂を加害するとともに、成虫が産卵しふ化した幼虫による穂の加害により斑点米が発生する。農薬は、穂揃期とその7～10日後の2回散布を基本とする。
- (3) イネカメムシは出穂前から圃場に侵入する個体もあるが、出穂直後に侵入する個体が多いため、本種の発生が確認されている地域では、防除効果の高い出穂直後に1回目の農薬散布を行いその7～10日後に2回目の散布を行う。
- (4) 周辺の圃場より出穂が早い圃場においては、斑点米カメムシ類の圃場への侵入が特に多くなるので、防除を徹底する。
- (5) 1回目の農薬散布は、出穂期前後の基幹防除を有効に活用する。
- (6) 防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/boujoshishin.html>)を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病虫害対策チームホームページ

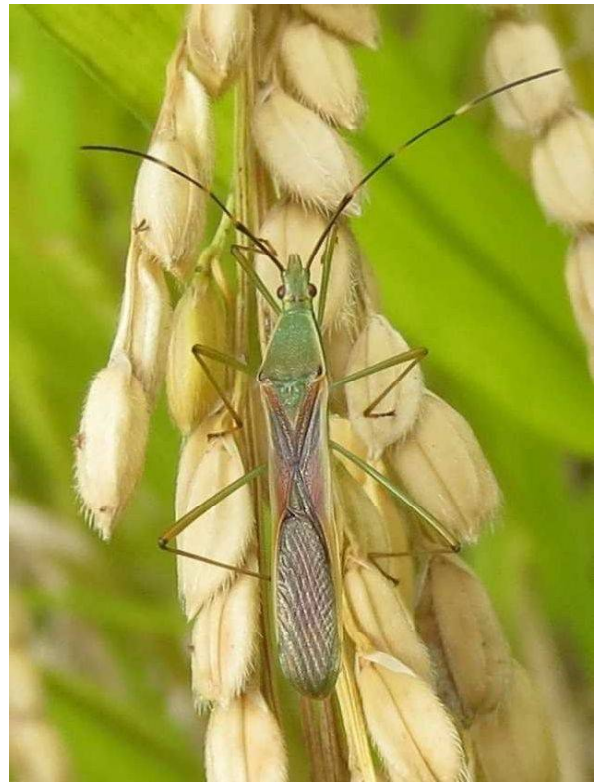
<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>



主な斑点米カメムシ類と斑点米



ホソハリカメムシ成虫



クモヘリカメムシ成虫



イネ科雑草穂上のイネカメムシ成虫と幼虫



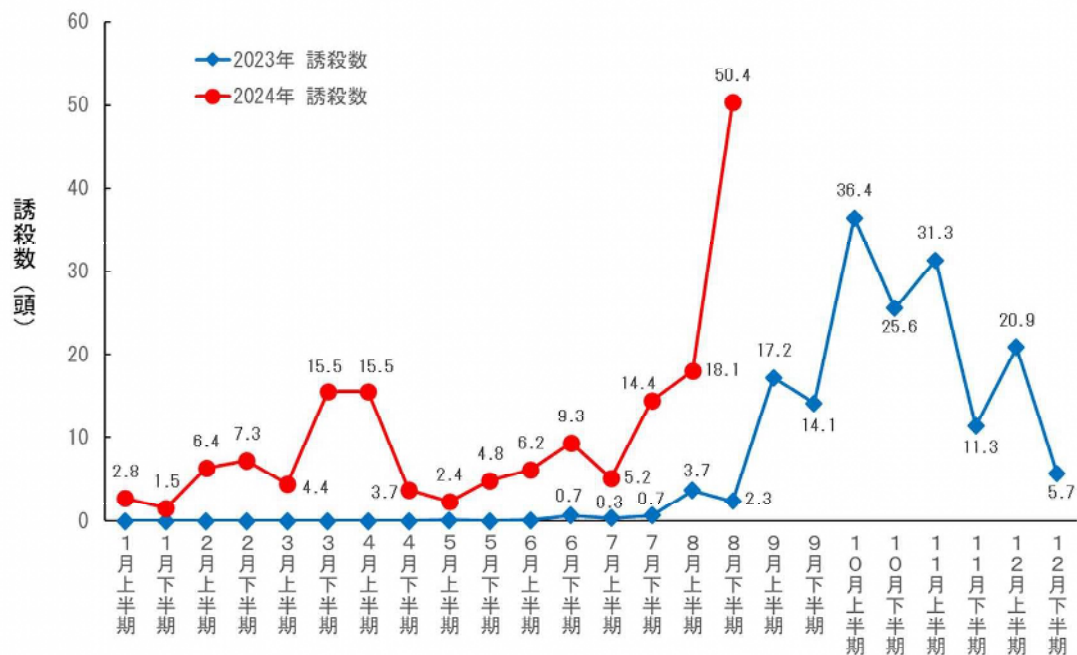
斑点米（カメムシによる吸汁痕）

令和6年度 病害虫発生予察 注意報 第8号

令和6年9月6日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 トマトキバガ
- 2 対象作物 トマト、ミニトマト
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 前年よりやや多い
- 5 発生量 前年より多い（フェロモントラップ調査結果に基づく）
- 6 発表の根拠

- (1) トマト及びミニトマト圃場において、本虫による葉及び果実への加害が確認されている。
- (2) 8月14日～8月28日に県内18地点で実施したフェロモントラップによる1地点あたり雄成虫誘殺数は50.4頭で、前年の2.3頭（9地点の平均）よりかなり多く、10月上半期に記録した最高誘殺数36.4頭より多い。



トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数（2023～2024年）

- (3) 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、福岡管区気象台が9月5日に発表した1か月予報では、平均気温は、高い確率 80%、降水量は、少ない確率 30%、平年並 30%と予想されており、引き続き好適条件が続く可能性が高い。

7 防除対策

- (1) トマトとミニトマトにおいて、トマトキバガに対する登録農薬は別添表 1 のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRAC コードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (2) 一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。
- (3) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (4) 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。
- (5) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。トマト及びミニトマト以外の農作物に本虫が発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

8 その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているので、別添の「トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

病虫害対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】

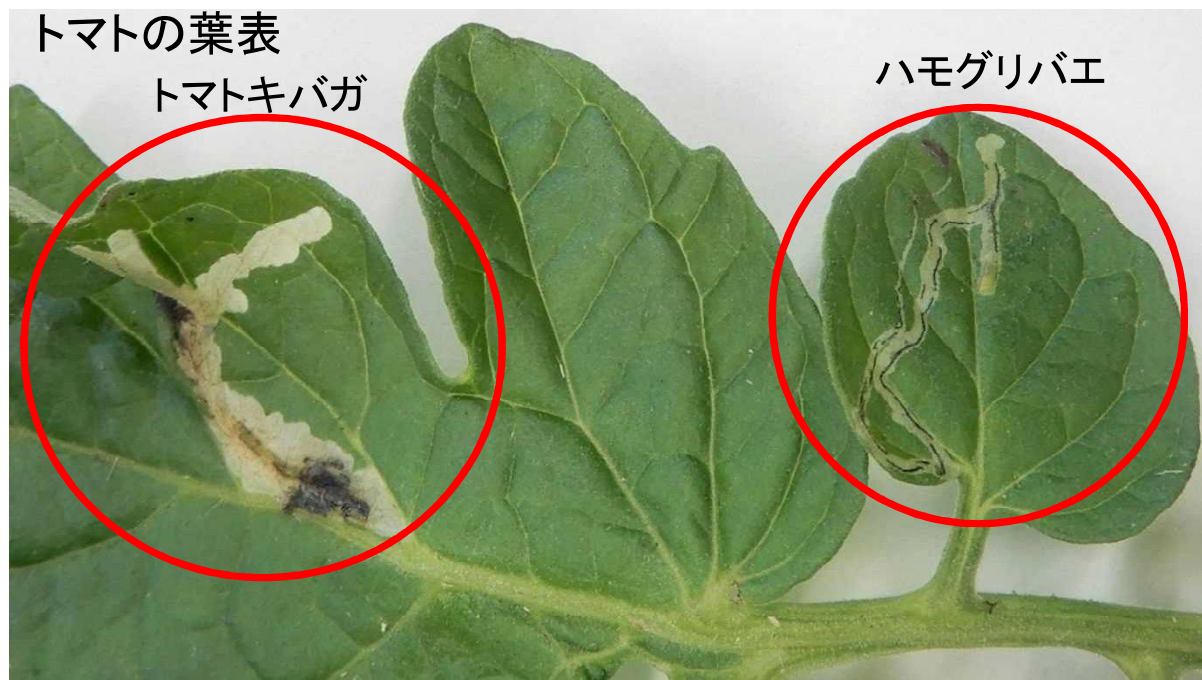


図1 左側：トマトキバガの食害（孔道の中で食害し、巣に戻って糞（下の方の黒い部分）をする）
右側：ハモグリバエの食害（食入直後は食害痕が細く、前進しながら食害し糞が線状となる）

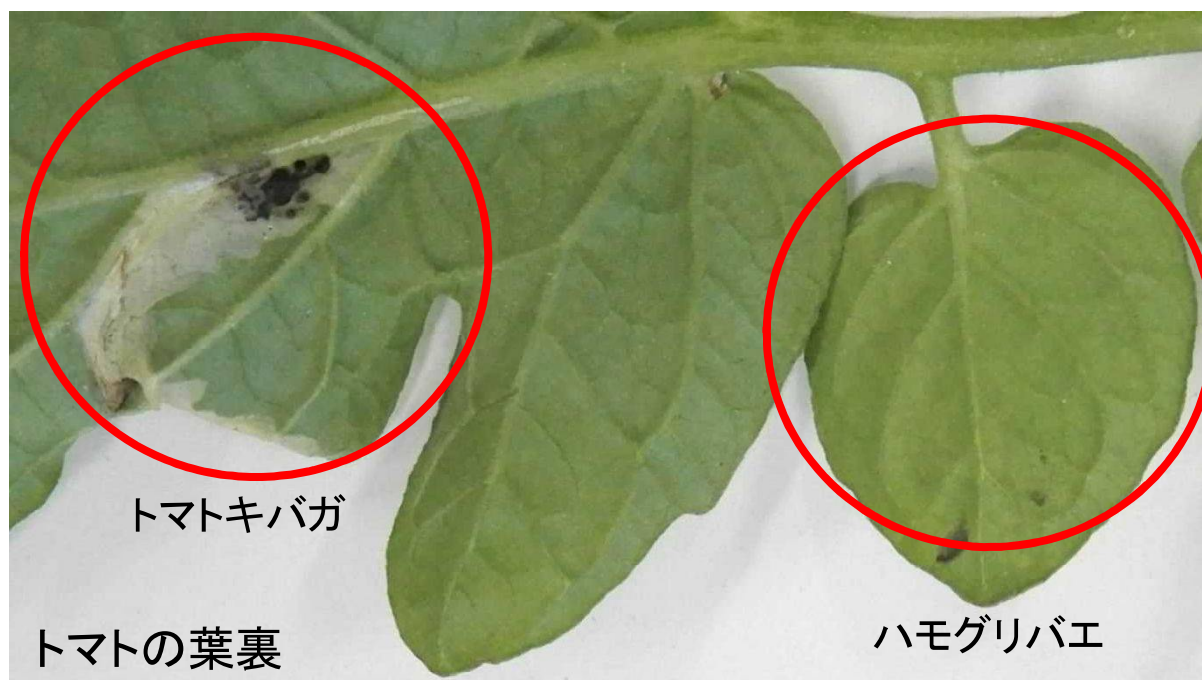


図2 左側：トマトキバガの食害（葉裏も食害痕が透けて確認できる）
右側：ハモグリバエの食害（葉裏は食害痕が確認できない）

表1 トマトキバガ登録農薬 (2024年8月1日現在)

作物名 (登録有無)	IRAC コード	農薬名 (商品名)	一 般 名 (成分名)	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
トマト	ミニトマト						
○	○	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	ディアナSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	○	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	
○	○	アフアーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	5回以内
○	×	アグリメック	アバメクチン乳剤	散布	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	エスマルクDF	B T水和剤	散布	1000倍	発生初期 但し、収穫 前日まで	—
○	○	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	×	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	×	ファイントリムDF	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	
○	○	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	ベリマークSC	シアントラニリプロール水和剤	灌注	400株当たり25ml	育苗期後半～定植当日	合計1回以内
○	○	ブリロソソ粒剤	シアントラニリプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	ブリロソソ粒剤オメガ	シアントラニリプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	ベネビアOD	シアントラニリプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	散布	2500倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内

令和 6 年度 病害虫発生予察 注意報第 9 号

令和 6 年 9 月 25 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

- 1 対象病害虫 ハスモンヨトウ
- 2 対象作物 大豆
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い

6 注意報発表の根拠

- (1) 9 月 9～12 日の巡回調査では、発生圃場率、食害度ともに平年より高かった。

大豆における発生状況

発生圃場率 : 100% (平年: 67.2%、前年: 100%)

食害度 : 23.7 (平年: 9.8、前年: 27.2)

- (2) 大豆予察圃場におけるハスモンヨトウの発生は 9 月 13 日までは少なく推移していたが、現時点では白変葉が多くなっている。
- (3) 農業研究部でのフェロモントラップによる雄成虫誘殺数は、8 月 1 半旬から 9 月 3 半旬までは平年の 58% で少なく推移していたが、9 月 4 半旬は 167 頭と平年 (68.7 頭) の 2.4 倍と多くなっている。
- (4) 病害虫発生予察調査員 (県がフェロモントラップ調査を委託) の報告によれば、ハスモンヨトウの雄成虫誘殺数は、9 月 4 半旬において 7 か所中 5 か所で急激に増加している。
- (5) 福岡管区气象台が 9 月 19 日に発表した向こう 1 か月の気象予報によれば、気温は高い確率 80% と予想されており、10 月に入ってもハスモンヨトウの増殖好適条件が続くと考えられる。

7 防除上注意すべき事項

- (1) ふ化直後の幼虫は葉裏に集合して加害するため初期発生に注意し、分散前の幼虫が群生する葉(白変葉)を認めたら、早急に防除を行う。
- (2) 老齢幼虫には薬剤防除効果が十分でないため、薬剤散布にあたっては圃場の見回りを行い、若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
- (3) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病害虫対策チームホームページ

[https:// www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/](https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/)



(6) 防除対策推進上の問題点及びその対策

農作物名	病害虫名	問題点	対 策
水稻	スクミリンゴガイ	① 薬剤防除および移植後3週間の水管理の不徹底	① メタアルデヒド剤、燐酸第二鉄粒剤の本田施用、溝切り、浅水管理等による耕種的防除
	いもち病	① 種子消毒および本田期防除の不徹底 ② 無人ヘリやドローンを用いた一斉防除が増え、天候により防除が遅れたり、異なる品種が同一地域に栽培されていることから、適期に防除できない圃場が散在する ③ 平成24年度にQoI剤耐性菌の発生が県内全域で確認され、代替薬剤を含めて防除効果は引き続き検証する必要がある ④ 「つや姫」「モミロマン」を侵すレースが確認されている	① BLASTMIによる感染好適条件の情報発信 ② 穂ばらみ期防除の必要性を研修会等で説明し、品種ごとに適期防除を行うよう促す ③ QoI剤の感受性低下が認められる地域では、他の薬剤の使用を推進する ④ いもち病を含めた苗箱施薬剤の使用を推進する
	紋枯病	① 苗箱施薬剤は普及しているが、近年夏季の気温が高く、中山間地を含め、8月中下旬に垂直進展する事例が見られる	① フルトラニル、バリダマイシン剤等による苗箱施薬の徹底と追加防除の徹底
	稲こうじ病	① 近年発生が多い病害であるが、昨年に引き続き本年は発生が少なかった ② 近年土壌伝染することが解明され、発病には穂ばらみ期以降の気温、降水量等天候が関係している	① 発生の多い圃場では銅剤やシメコナゾール剤の使用を推進する ② 出穂20～10日前に銅剤による防除を徹底する
	トビイロウンカ	① 複数の薬剤で感受性低下が発生している ② 長期残効のトリフルメゾピリムを含有している苗箱施薬剤が普及しているが、価格が高いこともあり一部で使用されていない ③ 無人ヘリ等の防除では、慣行防除以外の追加防除が行われていない場合がある ④ 新規需要米の普及によって防除を行わない場合があり、品種によっては増殖しやすいものがある ⑤ 海外飛来性の害虫であり、年により発生時期が異なるが、本年は発生が少なく、トリフルメゾピリム剤を使用していないごく一部の圃場で評価が確認された	① チアメトキサム、クロチアニジン、エチプロロール、ジノテフラン剤では薬剤感受性をモニタリングする ② トリフルメゾピリム剤の使用を推進する ③ 防除の徹底を周知する ④ 各振興局に対し情報提供するとともに、新規需要米においても苗箱施薬剤の使用を推進する ⑤ 本種の飛来状況について、各振興局に対し情報発信する
麦類	赤かび病	① 防除薬剤の中には効果の低いものがあり、かび毒の低減効果の高い薬剤が求められている ② 本病の感染時期は開花期後の葎の抽出時期であり、防除適期はごく短期間であり、天候により防除適期に薬剤散布ができない場合がある	① 防除効果の高い薬剤の情報提供および新規薬剤の登録試験 ② 防除適期の情報提供を行う 防除効果が高く、収穫前使用日数の短い剤の探索・農薬登録
	紫斑病	① カメムシに重点を置いた同時防除により、防除適期を逸する事例がある ② 追加防除の判断が困難である	① 適正防除時期の情報発信 ② 2回散布を基本に防除の徹底を図る
大豆	ハスモンヨトウ	① 発生は平年より多く推移し、8月6半旬に襲来した台風10号によると思われる海外飛来と9月1半旬以降の高温の影響により、その後も発生が続いた	① 薬剤感受性低下の発生前に有効な薬剤の探索 ハスモンヨトウの老齢幼虫は薬剤の効果が悪いため、8月下旬～9月に卵塊や若齢幼虫による被害葉（白変葉）が確認されたら防除するように指導
トマト	すすかび病	① 本病に対する有効な薬剤が少ない。	① 5～7月に予防殺菌剤を中心とした体系の構築 ② 薬剤感受性モニタリングの実施、有効な薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 登録薬剤が少ない。	① 発生前からの予防散布の実施 ② 新規薬剤の登録促進、薬剤感受性モニタリングの実施
	かいよう病	① 土壌消毒を行っていない圃場を中心に発生がある。 ② 本病に有効な登録薬剤が少ない。	① 土壌消毒、残さ処理、発病株の除去、マルチ等による物理的防除 ② カスガマイシン剤の散布
	青枯病	① 連作と土壌消毒の不徹底。 ② 高い抵抗性を示す台木を使用しても発生が認められた。	① 土壌消毒の実施 ② 管理作業による媒介防止
	ネコブセンチュウ	① 土壌消毒の不徹底。 ② 本虫を対象に土壌消毒を実施したにもかかわらず、作期後半の秋期に発生が認められる事例がある。 ③ 台木の抵抗性が打破されていることが明らかとなった。	① 土壌消毒の実施 ② 殺センチュウ剤の処理、新規薬剤の登録促進 ③ 抵抗性台木による耕種的防除
ピーマン	軟腐病	① タバコガ類被害と併発する恐れがある。 ② 登録薬剤が少ない。	① タバコガ類の薬剤防除と防虫ネット被覆、圃場内清掃の徹底 ② 新規薬剤の登録促進
	うどんこ病	① 内部寄生菌のため、薬剤による治療効果が低い。	① 発病前から硫黄粉剤の定期的な予防散布
	ワタアブラムシ	① 防除不足による圃場での発生が見受けられた。	① 適期の防除を実施 ② 新規薬剤の登録促進 ③ 有効な薬剤の探索
	ミカンキイロアザミウマ	① スピノサド剤を含め薬剤全般での感受性低下。 ② TSWVおよびCSNVを媒介する。特にTSWVは定植直後に多発生したことから、防除の徹底が必要。	① 新規薬剤の登録促進、有効な薬剤の探索 ② スワルスキーカブリダニの普及 ③ 越冬場所となる残さ処理の徹底
	ヒラズハナアザミウマ	① スピノサド剤を含め薬剤全般での感受性低下。 ② TSWVおよびCSNVを媒介する。	① 新規薬剤の登録促進、有効な薬剤の探索 ② スワルスキーカブリダニの普及 ③ 越冬場所となる残さ処理の徹底
	タバコガ類	① 期間を通して、平年よりも発生が少なかった。 ② 防虫ネットを設置していない圃場や露地栽培を中心に発生。	① 次年度の越冬蛹を残さないよう圃場の清掃 ② 防虫ネットの全面被覆および部分展張被覆の普及

	病害虫名	問題点	対 策
ネギ	軟腐病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 春期に定植する栽培体系で多発する。 ③ 発生は年次変動が大きく、夏期に台風・長雨に遭遇すると発生が急増するため、適期防除が困難である。	① 排水対策の実施 ② プロベナゾール粒剤の有効活用とオキシリニック酸の追加防除 ③ 薬剤の登録促進
	小菌核腐敗病	① 生育期における発病の確認が難しく、発生初期の防除が困難である。 ② 秋期～冬期に多雨で経過すると発病が促進される。	① 土寄りのイプロジオン剤の処理の周知 ② 収穫残さ処理の徹底
	白絹病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 県内主要産地でフルトラニル耐性菌が発生している。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除薬剤の見直し
	べと病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 発生予測が困難である。	① 新規薬剤の登録促進、防除体系や防除時期の見直し ② 他県が開発したネギべと病発生予測モデルの適合性確認 ③ 発病前のマンゼブ剤予防散布の実施
	さび病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 暖冬傾向の年では発病好適期間が長くなる傾向にある。	① 新規薬剤の登録促進 ② 防除体系や防除時期の再検討、発生前からの予防散布の実施
	ネダニ類	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② ロビンネダニとネダニモドキ属の2種が発生しており、発生実態については不明な点が多い。 ③ 土壌病害対策も含めた有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 防除体系や防除時期の見直し
イチゴ	うどんこ病	① 発生前の予防散布や発生初期防除が遅れた圃場において発生し、特に春期において多発する。	① 発病前からの予防散布の実施 ② 育苗期における防除の徹底
	萎黄病	① 健全苗への更新が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 健全苗の確保 ② 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	炭疽病	① 育苗時の防除が不十分な場合に発生がある。 ② 高設栽培における培土消毒が不十分な場合に発生がある。	① 原苗供給段階での全株簡易検定の実施等による健全苗の確保 ② 育苗時の雨よけ栽培や底面給水施設の利用、防除の徹底 陽熱処理や薬剤による培土消毒の徹底
	ハダニ類	① 育苗期の防除が不十分なために本圃に持ち込む事例が多く認められる。 ② 薬剤感受性が低下しやすく、効果的な薬剤が少ない。	① 薬剤感受性試験の実施、新規薬剤の登録促進 ② ミヤコカブリダニ剤、チリカブリダニ剤などの天敵資材、気門封鎖剤を活用した密度抑制 ③ 育苗期～収穫開始期における防除体系の構築
	チバクロバネ キノコバエ	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 収穫開始期に多発し、生態は不明な点が多い。 ③ 有効な体系防除が確立されていない。	① 新規薬剤の登録促進 ② 有効な薬剤のスクリーニング ③ 育苗期～定植初期における防除体系の見直し
柑橘類	かいよう病	① 効果的な登録薬剤が少ない。 ② 薬剤防除と併せて防風対策と罹病枝除去が有効だが、生産者の高齢化により十分な対応が困難。 ③ 台風などの強風雨に遭遇すると発生が急増するが、効果が高いとされる襲来前の防除は時間的余裕がなく事実上困難。	① 発芽前および新梢伸長期など初期防除の徹底 ② 罹病性の低い品種でも多発圃場周辺では発生に注意 ③ 防風対策と台風襲来前防除の徹底 ④ 伝染源となる罹病枝(特に夏秋枝)の除去 ⑤ 効果的な薬剤の登録促進
	黒点病	① 幼果期以降に降雨が多いと発病が増加。 ② 温暖化による秋期の気温上昇、降水量の増加により後期黒点病の発生が多くなっている。9月以降の発生が懸念される場合、秋季防除の実施が必要。 ③ 生産者の高齢化により、管理不徹底園が増加し、伝染源となる枯れ枝が多くなっている。 ④ マンゼブ剤、マンネブ剤ともに「かんきつ」登録での使用時期が収穫90日前までとなっており、収穫時期の早い露地カボスでは使用できる薬剤が少ない。	① マンゼブ、マンネブ、フルアジナム、クレソキシムメチル、テブコナゾール・トリフロキシストロビン、有機銅剤による定期防除 ② 枯れ枝剪除の徹底 ③ 前回防除からの累積降水量250mm前後または散布後1ヵ月を目安に次回防除を実施 ④ 効果的な薬剤の登録促進
ナシ	黒星病	① DMI 剤、ストロビリン系薬剤、SDHI剤の使用回数を制限しているが、発生が多い年は制限を超える場合がある。 ② 登録薬剤や使用回数不足している。 ③ 発病が拡大すると薬剤防除では抑えられないため、生育初期の予防散布が重要である。	① 適期防除の実施 ② 薬剤の登録促進と効果的な防除体系の再検討 ③ 精度の高い発生予測技術の確立 ④ 薬剤耐性菌検定の実施
果樹類	果樹カメムシ類	① 多発生時は地域内一斉防除が効果的だが、実施は困難。 ② 飛来が多数回の場合、使用回数等の関係から農薬の選択が難しい。 ③ 地域による飛来時期や程度の差が大きく、発生予測が困難であり、生産者の高齢化により、十分な対応が取れない。	① 園内の見回り徹底および飛来の早期発見 ② 越冬量調査、フェロモントラップやライトトラップによるモニタリング調査、ヒノキ毬果の口針鞘数調査等、発生予測に役立つ情報の迅速提供 ③ 効果的な発生予測方法の確立 ④ 効果的かつ省力的な防除技術の開発、薬剤の登録促進
チャ	炭疽病	① 普及している乗用型防除機の噴口では、葉層内部まで薬液が届かず防除効果が低い ② 生産者の高齢化により管理不徹底園が増加し伝染源となっている	① 有効な体系防除技術の確立、土着天敵等を活かした防除体系の検討 ② 深刈り更新やすそ刈りによる寄生葉の除去を指導 荒廃園の伐採、抜根対策
	チャトゲ コナジラミ	① 葉裏へ十分薬剤がかからないと防除効果があがらない ② 県内では分布域が拡大しており、荒廃園で発生した場合防除対策が困難である	① 有効な体系防除技術の確立、土着天敵等を活かした防除体系の検討 ② 荒廃園の伐採、抜根対策
マイナー作物	一般的な病害虫(全般)	① 登録薬剤数が少ないか無く、薬剤の選定に苦慮している	① 農薬の登録拡大 ② IPMによる防除対策の検討

(7) 主要作物の生育概況

ア 水稻

7月下旬以降天候に恵まれ全もみ数は「やや多い」となったものの、出穂期以降の高温や台風第10号による影響により、登熟が「やや不良」となったことから、10a当たり収量は、491kg（作況指数101）となり、この結果、収穫量（子実用）は8万8,400tとなった。また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、8万7,400tとなった。（九州農政局、令和6年産水稻の収穫量（九州）から抜粋）。

イ 麦類

本年度の作柄は、令和5年11月21日播種の適期播では、大麦が平年比27と平年より少なく、小麦は平年比78と平年より少なかった。令和5年12月24日播種の晩播では、大麦が平年比60と低収、小麦は平年比70と低収であった。適期播では、大麦は一穂粒数が平年よりやや多かったが、千粒重は平年より軽く屑麦重歩合が平年より高かったため、子実重は平年より低くなった。小麦は千粒重が平年よりやや軽かったが、一穂粒数が平年並だったため、子実重は平年より低くなった。晩播では大麦は穂数、一穂粒数が平年並だったが、千粒重は平年より軽く、屑麦重歩合が平年より高かったため低収となった。小麦は穂数が平年並、一穂粒数が平年より少なく、千粒重は平年並であったため低収となった。（水田農業グループ資料から抜粋）。

ウ 大豆

7月5日播種の標準播区は、出芽は湿害による出芽不良が見られた。出芽期は7月15日で平年より1日早かった。開花期は8月22日で平年並であった。成熟期は11月25日で平年より14日遅かった。成熟期の主茎長は平年より低く、主茎節数はやや少なく、分枝数は少なかった。稔実莢数は少なく百粒重は平年並であり、子実重は20.7kg/a（平年比76）で平年より軽かった。7月23日播種の晩播区は、播種2日後に降雨があったが以後は、無降雨の日が続いたため灌水を行ったものの出芽は不均一であった。出芽期は8月1日であった。開花期は9月2日で平年より2日早かった。成熟期は11月22日で平年より3日遅かった。成熟期の主茎長は平年より短く、主茎節数は少なく、分枝数は少なかった。稔実莢数は同程度であり百粒重は平年並であり、子実重は20.1kg/a（平年比112）で平年と同程度であった。（水田農業グループ資料から抜粋）。

エ カンキツ

発芽期、開花期は平年より3～6日ほど早くなった。着花量、着果量は少なくなった。生育期間中の降水量は平年より少なかったが、着果量が少ないこともあり、大玉傾向となり、10月以降は曇天が多かったため、果実品質（Brix）は平年並みであった。また、夏季に気温が高く推移したため、果実品質（酸）は平年以下となり、日焼け果も多くなった。病害虫については、黒点病、ミカンハダニの発生、夜蛾類の被害が目立った。

オ ブドウ

発芽期は平年よりも巨峰で10日、ピオーネで4日、デラウェアで5日、シャインマスカットで7日早かった。開花盛期はデラウェアで平年であったが、巨峰、ピオーネ、シャインマスカットは平年に比べ2～4日早かった。開花期間中は比較的天候に恵まれたため、着果は良好であった。また、夏期（7～9月）の異常高温により巨峰やピオーネなどの黒色系品種で著しい着色不良となった。果実肥大はいずれの品種も平年並であった。病害虫の発生は概ね平年並みであった。

カ ナシ

発芽期はいずれの品種とも1～3日早くなった。3月下旬以降平均気温が平年より高く推移したため、開花盛期は幸水（4月2日）、豊水（3月31日）、あきづき（3月31日）、新高（3月27日）とも平年より6～8日早かった。夏期（7～9月）の異常高温により新高を中心に日焼け果や果肉障害が平年より多く発生した。果実肥大、果実品質は概ね平年並みであった。病害虫の発生は、カメムシ類の越冬世代成虫が著しく多かったが、園地への飛来は一部で被害は最小限に抑えることができた。

キ 茶

本年は3月第1～5半旬までの気温が平年より低かったため、やぶきたの萌芽期は4月5日で前年より7日遅く、平年よりも6日遅かった。一番茶の摘採日は5月4日で、前年より7日遅く、平年より4日遅かった。生葉収量は、918kg/10aで平年対比161%であった。本年の梅雨入りは6月17日で、平年よりも13日遅く、降水量は平年より少なかった。二番茶の摘採日は6月21日で、前年、平年より5日遅く、生葉収量は、484kg/10aで平年比74%であった。

ク トマト

南西部では令和6年3月下旬から6月に定植が行われた。5月は平年よりも夜温が低く推移したことから、生育が停滞し、出荷開始も遅れが見受けられた。7月下旬以降の酷暑により花とびが発生した。9月以降も夜温が下がらず、果実が小玉となり、収量は例年の8割程度であった。

西部では令和6年5月に定植が行われた。南西部と同様に定植直後の夜温が低く推移したことから、初期生育が停滞した。7月下旬以降の酷暑により花とびが多く、8月以降は裂果や軟果が発生した。また、期間を通じて小玉傾向であり、収量は例年の8割程度であった。

ケ 夏秋ピーマン（令和6年3月～10月）

定植は、中間地では令和6年3月中旬から4月中旬にかけて、山間地域では4月上旬から4月下旬にかけて行われた。前年度の栽培終了後の片付け対策や定植後の防除により、栽培期間を通してTSWVの発生が少なく、TSWVによる生育不良の株は少なかった。

コ ネギ（令和6年4月～令和7年3月）

平坦地の白ネギでは、春先の降雨で計画的な定植ができず、また、7月以降は高温少雨の影響により定植後の苗の枯死と生育停滞が見受けられた。その中でネギアザミウマの発生が助長された。8月の台風による風雨の影響により一部で軟腐病が拡大し被害が見られた。中山間地の白ネギでは、令和6年4月から5月にかけて定植が行われた。平坦地と同様に、6月にネギアザミウマが増加し、ウイルス病の発生も見受けられた。高温の影響により県内全体で収穫時期が1か月ほど遅れた傾向にあった。

サ いちご（令和5年7月～令和6年5月）

育苗は令和5年6月上旬から9月上旬にかけて行われた。8月以降は高温が続き、その影響で花芽分化のばらつきがやや見受けられた。また、8月中旬の台風の影響により、苗の病気が増加した。定植は9月中旬から行われた。定植後は9月下旬から10月上旬にかけて平年より平均気温が高く、第一次腋花房の分化までに果房間葉数が多くなっている傾向が見受けられた。比較的暖冬傾向で、生育は順調だったが、2月下旬から、曇雨天日が続く、草勢の低下による花数の減少や灰色かび病の発生が見受けられた。

(8) 普通作物病害虫の発生及び防除状況

ア 普通作物病害虫発生程度別面積

病害虫名	栽培 面積	発生程度別面積					発生 面積率	実防除 面積	延防除 面積	被害 面積	平年比	発生 概評	平年発生 面積	平年発生 面積率
		少	中	多	甚	計								
水稻（育苗期）	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
苗立枯病	17,800	77	5	0	0	82	0.5	17,800	17,900	5	60.9	やや少	153.9	0.8
もみ枯細菌病	17,800	2	0	0	0	2	0.0	17,800	17,800	0	100.0	並	2.0	0
苗いもち	17,800	10	0	0	0	10	0.1	17,800	17,900	0	6.6	少	176.1	0.9
ばか苗病	17,800	20	0	0	0	20	0.1	17,800	17,800	0	3.4	少	680.7	3.3
水稻（本田）	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
葉いもち	17,800	8,000	500	30	1	8,531	47.9	17,800	19,580	31	81.6	並	11,873.8	58.7
穂いもち	17,800	2,500	20	1	0	2,521	14.2	17,800	19,580	21	63.9	並	4,492.4	22.2
紋枯病	17,800	9,000	200	10	1	9,211	51.7	13,350	16,020	211	108.1	並	9,619.1	47.9
白葉枯病	17,800	30	1	0	0	31	0.2	890	890	1	7.2	少	495.0	2.4
ばか苗病	17,800	20	1	0	0	21	0.1	0	0	1	3.2	少	755.8	3.7
心枯線虫病	17,800	30	0	0	0	30	0.2	0	0	0	4.1	少	841.2	4.1
ごま葉枯病	17,800	1,000	10	1	0	1,011	5.7	17,800	19,580	1	74.8	並	1,532.2	7.6
縞葉枯病	17,800	100	0	0	0	100	0.6	—	—	0	67.7	少	168.0	0.8
萎縮病	17,800	20	0	0	0	20	0.1	—	—	0	7.6	やや少	299.0	1.5
もみ枯細菌病	17,800	3	0	0	0	3	0.0	890	890	0	81.2	並	4.2	0.0
稲こうじ病	17,800	1,400	30	0	0	1,430	8.0	178	178	30	81.2	並	1,993.9	9.9
ニカメイガ（1化）	17,800	0	0	0	0	0	0.0	17,800	17,800	0	—	少	0.9	0.0
ニカメイガ（2化）	17,800	4,500	20	1	0	4,521	25.4	5,933	5,933	21	65.2	少	7,887.0	38.9
ゼンロウカ	17,800	3	0	0	0	3	0.0	17,800	17,800	0	79.3	少	4.3	0.0
トビイロウンカ	17,800	30	0	0	0	30	0.2	17,800	26,700	0	62.2	少	55.4	0.3
ヒメトビウンカ	17,800	30	0	0	0	30	0.2	17,800	17,800	0	54.3	少	63.7	0.3
ツマクロコハイ	17,800	200	10	3	0	213	1.2	17,800	17,800	3	5.0	少	4,969.0	24.0
イネミスゾウムシ	17,800	100	5	2	1	108	0.6	17,800	17,800	3	3.0	少	4,170.3	20.5
斑点米カメシ類	17,800	600	10	2	0	612	3.4	16,020	17,622	2	69.2	並	1,027.0	5.0
イネツトムシ	17,800	300	0	0	0	300	1.7	5,933	5,933	0	14.6	少	2,390.0	11.5
フタホトコヤガ	17,800	90	0	0	0	90	0.5	5,933	5,933	0	25.3	少	412.0	2.0
コブノメイガ	17,800	50	0	0	0	50	0.3	17,800	17,800	0	34.0	並	170.0	0.8
スクミリンゴガイ	17,800	40	0	0	0	40	0.2	17,800	17,800	0	46.3	並	99.0	0.5

イ 普通期水稻主要病害虫の巡回調査結果

いもち病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	8.6	24.6	30.6	0.5	1.7	2.3
8月上旬	27.5	40.0	47.5	1.8	5.0	5.8
8月中旬	17.5	45.6	45.0	3.1	4.4	4.7
9月中旬	0.0	13.2	15.4	0.1	0.6	0.7

紋枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.3	0	0.0	0.0	0.0
8月上旬	0	2.4	2.5	0.0	0.1	0.0
8月中旬	7.5	13.1	7.5	0.9	0.7	0.2
9月中旬	15.4	28.4	30.8	1.1	2.8	3.4

白葉枯病

	発生圃場率			発病度		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.2	0	0	0.0	0
8月上旬	0	0.0	0	0	0.0	0
8月中旬	0	0.3	0	0	0.0	0
9月中旬	0	0.2	0	0	0.0	0

セジロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	7.6	0	0.08	0.3	0.02
8月上旬	3	18.2	0	0.17	0.6	0.01
8月中旬	3	23.7	0	0.09	0.9	0.06
9月中旬	0	2.6	0	0.02	0.2	0.01

トビイロウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.0	0	0	0.00	0
8月上旬	0	0.3	0	0	0.03	0
8月中旬	0	2.7	0	0	0.13	0
9月中旬	0.0	10.9	5	0.0	3.34	0.64

ヒメトビウンカ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	0.3	3	0.04	0.04	0.11
8月上旬	3	0.5	0	0.07	0.08	0.13
8月中旬	0	0.2	0	0.05	0.09	0.12
9月中旬	0	0	3	0.04	0.04	0.13

ツマグロヨコバイ

	発生圃場率			株当たり虫数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	0	2.5	0	0.01	0.09	0.00
8月上旬	3	6.2	0	0.11	0.21	0.02
8月中旬	0	4.9	0	0.03	0.25	0.02
9月中旬	0	1.9	0	0.01	0.08	0.01

コブノメイガ

	発生圃場率			25株当たり被害苞数		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7月中旬	14.3	9.4	8	0.3	0.5	0
8月上旬	22.5	16.0	0	0.5	1.2	0
8月中旬	37.5	31.1	7.5	5.8	4.9	0.1
9月中旬	17.9	11.3	11	10.0	2.6	1.2

エ 水稻すくい取り調査結果

(ア) 普通期水稻のウンカ・ヨコバイ類すくい取り調査結果（2024 年 4 月）

調査場所	調査 月 日	ツマグロヨコバイ				ヒメトビウンカ				備 考
		成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	成虫 (雄)	成虫 (雌)	幼虫	計	
国東市安岐町中園	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
速見郡日出町真那井	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
杵築市新庄	4/18				0				0	
	4/18				0				0	ホソハリカメムシ2
太分市川添	4/11				0				0	
	4/11				0				0	
臼杵市家野	4/19				0				0	シラホシカメムシ類1
	4/19				0				0	
臼杵市野津町菅無田	4/19				0				0	
	4/19				0				0	
佐伯市弥生山梨子	4/19				0				0	
	4/19				0				0	
豊後大野市千歳町前田	4/17				0				0	
	4/17				0				0	ホソハリカメムシ2
豊後大野市三重町芦刈	4/19				0				0	
	4/19				0				0	
豊後大野市緒方町上自在	4/11				0				0	
	4/11				0				0	
竹田市倉木	4/11				0				0	
	4/11				0				0	
竹田市荻町政所	4/11				0				0	ホソハリカメムシ1
	4/11				0				0	
玖珠郡九重町恵良	4/11				0				0	シラホシカメムシ類1
	4/11				0				0	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	4/11				0				0	
	4/11				0				0	
日田市求来里	4/11				0				0	
	4/11				0				0	
豊後高田市払田	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
中津市湯屋	4/11				0				0	イチモンジカメムシ1
	4/11				0				0	
宇佐市安心院町古市・上市	4/12				0				0	ホソハリカメムシ1
	4/12				0				0	
宇佐市乙女	4/18				0				0	
	4/18				0				0	
宇佐市下矢部	4/17				0				0	
	4/17				0				0	
合 計	40	0	0	0	0	0	0	0	0	
平 均（ほ場当り）		0.00	0.00	0	0.00	0	0	0	0	
平年値（ほ場当り）		0.29	0.34	0.01	0.64	0.08	0.06	0.01	0.15	
前年値（ほ場当り）		0.50	0.30	0	0.80	0	0	0	0	

(イ) 早期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2024 年 6 月)

調査場所	調査 月日	クモヘリ カメムシ		ホソハリ カメムシ		シラホシ カメムシ類		その他	合計	備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	アカシジカシカメ		(その他の種名)
杵築市杵築	6/13								0	
	6/13			2			1		3	
国東市国東町原	6/13								0	
	6/13			2					2	
佐伯市木立	6/12			1					1	
	6/12			2		1	1		4	
佐伯市須留木	6/12			1		2			3	
	6/12								0	
宇佐市院内町香下	6/18								0	
	6/18	1		3					4	
合 計	10	1		11		5		0	17	
平 均		0.1		1.1		0.5		0	1.7	
平年値		1.4		0.8		0.2		6.7	2.3	
前年値		0		0.8		0.3		1	1.0	

※合計は「その他」を除く

(ウ) 普通期水稻の斑点米カメムシ類すくい取り調査結果 (2024 年 7～8 月)

調査場所	調査 月日	クモヘリ カメムシ		ホソハリ カメムシ		シラホシ カメムシ類		ミナミアオ カメムシ		アカシジ カスミカメ	計		備 考
		成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫		成虫	幼虫	
国東市安岐町掛樋	8/1	0	0	26	9	3	0	0	0	1	29	9	ウスハラカメムシ成虫5幼虫5
	8/1	1	0	13	2	1	1	0	0	17	15	3	ウスハラカメムシ幼虫8
速見郡日出町真那井	8/1	3	0	10	0	0	0	0	0	1	13	0	イネカメムシ成虫14幼虫4
	8/1	1	0	7	0	0	0	0	0	0	8	0	
杵築市新庄	8/1	0	0	3	0	2	13	0	0	0	5	13	
	8/1	0	0	24	10	10	3	0	0	27	34	13	イネカメムシ成虫1
大分市丹川	8/1	1	0	8	0	1	0	0	0	2	10	0	
	8/1	11	0	22	4	1	0	0	0	6	34	4	イネカメムシ幼虫5
臼杵市家野	8/1	17	1	7	1	3	2	0	0	18	27	4	
	8/1	0	0	8	2	2	4	0	0	6	10	6	
臼杵市野津町菅無田	8/1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	
	8/1	4	2	25	7	1	0	0	0	0	30	9	
佐伯市弥生山梨子	7/29	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	1	ウスハラカメムシ幼虫4
	7/29	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	1	
豊後大野市千歳町前田	7/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
豊後大野市三重町芦刈	7/29	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	
	7/29	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
豊後大野市緒方町上自在	7/29	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	
	7/29	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
竹田市倉木	7/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7/29	1	0	5	0	1	0	0	0	1	7	0	
竹田市荻町政所	7/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7/29	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
玖珠郡九重町恵良	7/31	0	0	8	0	0	0	0	0	8	8	0	
	7/31	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
玖珠郡玖珠町戸畑北山田	7/31	0	0	4	0	1	0	0	0	0	5	0	
	7/31	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	ウスハラカメムシ幼虫1
日田市求来里	7/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7/31	5	2	3	1	0	0	0	0	0	8	3	
豊後高田市田染	7/31	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	3	
豊後高田市払田	7/31	0	0	17	2	0	0	0	0	12	17	2	
中津市湯屋	7/31	7	0	45	8	1	4	0	0	58	53	12	
	7/31	0	0	0	0	0	1	0	0	6	0	1	イネカメムシ幼虫1
宇佐市安心院町古市	7/31	0	0	9	2	0	1	0	0	2	9	3	
	7/31	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	3	
宇佐市上高	7/31	2	4	3	1	0	0	0	0	120	5	5	イネカメムシ幼虫9
	7/31	0	0	13	2	0	0	0	0	0	13	2	イネカメムシ幼虫1
宇佐市下矢部	7/31	0	0	25	3	1	0	0	0	76	26	3	
	7/31	0	0	8	2	10	16	0	0	0	18	18	
合 計	40	56	9	309	59	40	50	0	0	365	405	118	
平 均		1.4	0.2	7.7	1.5	1	1.3	0	0	9.1	10.1	3.0	
平年値		0.6	0.1	1.4	0.3	0.3	0.2	0.005	0.004	3.3	2.3	0.6	アカシジカスミカメ除く
前年値		2.4	0.2	3.2	1.1	0.5	0.6	0	0.025	2.7	6.0	1.8	

(エ) 普通作病害虫発生程度別面積(麦類)

病害虫名	栽培 面積	発生程度別面積					発生 面積率	実防除 面積	延防除 面積	被害 面積	平年比	発生 概評	平年発 生面積	平年発生 面積率
		少	中	多	甚	計								
大 麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
小さび病	2,050	10	0	0	0	10	0.5	0	0	0	70.6	やや少	15.4	0.7
黄さび病	2,050	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
黒さび病	2,050	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0	0
うどんこ病	2,050	50	2	0	0	52	2.5	0	0	0	85.8	並	66.3	3.0
赤かび病	2,050	400	10	5	1	416	20.3	2,050	3,075	16	128.2	やや多	351.8	15.8
斑葉病	2,050	30	0	0	0	30	1.5	0	0	0	28.7	少	112.0	5.1
裸黒穂病	2,050	45	0	0	0	45	2.2	—	—	0	86.2	並	56.5	2.5
黒節病	2,050	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	43.6	少	50.0	2.2
縞萎縮病	2,050	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	90.4	並	24.3	1.1
網斑病	2,050	350	30	5	0	385	18.8	500	500	35	125.9	やや多	340.5	14.9
アブラムシ類	2,050	50	0	0	0	50	2.4	1	1	0	12.1	少	451.0	20.2
ハモグリバエ類	2,050	20	0	0	0	20	1.0	0	0	0	65.4	やや少	33.0	1.5
小 麦	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
赤さび病	2,855	50	0	0	0	50	1.8	0	0	0	65.9	やや少	72.2	2.7
黄さび病	2,855	10	0	0	0	10	0.4	0	0	0	—	—	1.1	0.0
黒さび病	2,855	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	—	—	0.0	0
うどんこ病	2,855	400	10	5	1	416	14.6	0	0	16	108.1	並	365.8	13.5
赤かび病	2,855	700	50	1	0	751	26.3	2,855	4,283	51	125.6	やや多	571.2	20.9
黄斑病	2,855	250	40	5	0	295	10.3	800	800	45	71.6	やや少	390.3	14.4
裸黒穂病	2,855	40	0	0	0	40	1.4	0	0	0	79.6	やや少	48.0	1.8
縞萎縮病	2,855	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	65.4	やや少	1.5	0.1
アブラムシ類	2,855	80	0	0	0	80	2.8	2	2	0	9.4	少	820.7	29.9
ハモグリバエ類	2,855	20	0	0	0	20	0.7	0	0	0	37.2	少	51.0	1.9
麦 類	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
さび病類	4,905	70	0	0	0	70	1.4	0	0	0	79.9	やや少	88.7	1.8
うどんこ病	4,905	450	12	5	1	468	9.5	0	0	16	110.4	並	432.1	8.6
赤かび病	4,905	1,100	60	6	1	1,167	23.8	4,905	7,358	67	127.1	やや多	923.0	18.7
斑葉病	2,050	30	0	0	0	30	1.5	0	0	0	28.7	少	112.0	5.1
黒穂病類	4,905	85	0	0	0	85	1.7	0	0	0	82.4	並	104.5	2.1
黒節病	2,050	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	43.4	少	50.0	2.2
大麦縞萎縮病	2,050	20	0	0	0	20	1.0	—	—	0	89.9	並	24.3	1.1
大麦網斑病	2,050	350	30	5	0	385	18.8	500	500	35	125.6	やや多	340.5	15.0
小麦黄斑病	2,855	250	40	5	0	295	10.3	800	800	45	70.6	やや少	390.3	14.6
小麦縞萎縮病	2,855	1	0	0	0	1	0.0	—	—	0	64.8	やや少	1.5	0.1
アブラムシ類	4,905	130	0	0	0	130	2.7	3	3	0	10.4	少	1,271.7	25.6
ハモグリバエ類	4,905	40	0	0	0	40	0.8	0	0	0	47.6	少	84.0	1.7

(オ) 普通作病害虫発生程度別面積 (大豆)

病害虫名	栽培面積	発生程度別面積					発生面積率	実防除面積	延防除面積	被害面積	平年比	発生概評	平年発生面積	平年発生面積率
		少	中	多	甚	計								
大豆	ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	ha	ha	ha	%		ha	%
紫斑病	1,260	85	4	1		90	7.1	1,134	1,134	5	135.2	やや多	87.0	5.3
さび病	1,260	7	0	0	0	7	0.6	0	0	0	64.2	やや少	14.2	0.9
べと病	1,260	600	10	0	0	610	48.4	0	0	10	60.7	やや少	1,314.4	79.7
葉焼病	1,260	30	0	0	0	30	2.4	0	0	0	79.4	やや少	46.7	3.0
モザイク病	1,260	10	0	0	0	10	0.8	—	—	0	90.9	並	14.3	0.9
アブラムシ類	1,260	80	0	0	0	80	6.3	0	0	0	61.5	やや少	170.9	10.3
コカネムシ類	1,260	100	0	0	0	100	7.9	0	0	0	38.2	少	343.3	20.8
ハスモンヨトウ	1,260	1,000	100	10	1	1,111	88.2	1,260	1,260	111	124.0	やや多	1,180.0	71.1
ハタニ類	1,260	100	10	0	0	110	8.7	0	0	10	82.1	並	175.6	10.6
タノイヌサヤマハエ	1,260	—	—	—	—	—	0.0	1,260	1,260	0	—	—		
マメシクイガ	1,260	—	—	—	—	—	0.0	1,260	1,260	0	—	—		
シロイモシマタラメイガ	1,260	—	—	—	—	—	0.0	1,260	1,260	0	—	—		
カメムシ類	1,260	250	20	0	0	270	21.4	1,260	1,386	20	76.7	やや少	460.6	28.0
ウコンノメイガ	1,260	10	0	0	0	10	0.8	1,260	1,260	0	10.6	少	123.3	7.5

(9) 果樹病害虫の発生及び防除状況

ア 病害虫発生程度別面積（2024年10月1日現在）

(ア) カンキツ

病害虫名	対象品種	栽培 面積 A	発生程度別面積（h a）					発生程度別面積割合（%）					発生面積率			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
そうか病	温州 カボス 計	ha 720	ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%		ha	ha	ha
		537																	
		1173	300	40	5	0	345	87.0	11.6	1.4	0.0	100	29.4	24.3	121.2	やや多い	45	821	1,642
かいよう病	カボス 夏ミカン ネーブル 計	537																	
		68																	
		14																	
	計	537	85	5	5	0	95	89.5	5.3	5.3	0.0	100	17.7	22.7	77.9	やや少ない	10	376	1,504
黒点病	全品種	1417	900	50	1	0	951	94.6	5.3	0.1	0.0	100	67.1	86.0	78.1	やや少ない	51	992	4,960
アブラムシ類	全品種	1417	280	5	1	0	286	97.9	1.7	0.3	0.0	100	20.2	23.0	87.8	平年並	6	425	2,126
ミカンハダニ	全品種	1417	850	50	5	0	905	93.9	5.5	0.6	0.0	100	63.9	66.7	95.7	平年並	55	425	2,126
ミカンサビダニ	全品種	1417	1,000	100	10	0	1,110	90.1	9.0	0.9	0.0	100	78.3	69.6	112.6	平年並	110	992	2,976
ミカンサビダニ	全品種	1417	35	1	0	0	36	97.2	2.8	0.0	0.0	100	2.5	3.7	68.2	やや少ない	1	992	2,480
チャノキアザミヤ	全品種	1417	50	1	0	0	51	98.0	2.0	0.0	0.0	100	3.6	4.1	88.1	平年並	1	425	638
カイガラムシ類	全品種	1417	300	20	3	0	323	92.9	6.2	0.9	0.0	100	22.8	24.1	94.7	平年並	23	992	1,488
果樹カメムシ類	全品種	1417	75	5	3	0	83	90.4	6.0	3.6	0.0	100	5.9	7.7	76.0	やや少ない	8	709	2,126

(イ) ナ シ

病害虫名	対象品種	栽培 面積 A	発生程度別面積（h a）					発生程度別割合（%）					発生面積率（%）			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
		ha	ha	ha	ha	ha	ha	%	%	%	%	%	%	%	%		ha	ha	ha
黒星病	全品種	349	170	10	0	0	180	94.4	5.6	0.0	0.0	100	51.6	64.2	80.3	平年並	10	349	3,839
赤星病	全品種	349	60	3	1	0	64	93.8	4.7	1.6	0.0	100	18.3	21.2	86.4	平年並	4	349	698
輪紋病	豊水 幸水 計	140	8	0	0	0	8	100.0	0.0	0.0	0.0	100	5.7	6.7	85.2	平年並	0	140	700
うどんこ病	全品種	349	18	0	0	0	18	100.0	0.0	0.0	0.0	100	5.2	6.3	81.6	平年並	0	349	698
アブラムシ類	全品種	349	140	5	1	0	146	95.9	3.4	0.7	0.0	100	41.8	35.3	118.4	平年並	6	279	558
ニセナシハダニ	全品種	349	70	2	1	1	74	94.6	2.7	1.4	1.4	100	21.2	17.0	124.5	やや多い	4	175	349
ナシナシコイ	全品種	349	9	0	0	0	9	100.0	0.0	0.0	0.0	100	2.6	2.2	118.8	平年並	0	349	1,745
ハダニ類	全品種	349	295	15	1	0	311	94.9	4.8	0.3	0.0	100	89.1	75.0	118.8	平年並	16	349	772
果樹カメムシ類	全品種	349	70	5	1	0	76	92.1	6.6	1.3	0.0	100	21.8	31.7	68.6	やや少ない	6	349	1,158

(ウ) ブ ド ウ

病害虫名	対象品種	栽培 面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別割合 (%)					発生面積率 (%)			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少	中	多	甚	計	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
晩腐病	全品種	279	75	1	0	0	76	98.7	1.3	0.0	0.0	100	27.2	27.2	100.2	平年並	1	279	837
黒とう病	全品種	279	35	3	0	0	38	92.1	7.9	0.0	0.0	100	13.6	11.5	118.2	平年並	3	279	837
べと病	全品種	279	180	5	0	0	185	97.3	2.7	0.0	0.0	100	66.3	83.2	79.7	やや少ない	5	279	1,116
灰色かび病	全品種	279	18	0	0	0	18	100.0	0.0	0.0	0.0	100	6.5	7.8	82.3	平年並	0	279	279
褐斑病	全品種	279	130	2	1	0	133	97.7	1.5	0.8	0.0	100	47.7	60.0	79.5	やや少ない	3	279	837
うどんこ病	全品種	279	55	0	0	0	55	100.0	0.0	0.0	0.0	100	19.7	17.0	116.3	平年並	0	279	279
さび病	全品種	279	10	0	0	0	10	100.0	0.0	0.0	0.0	100	3.6	4.7	75.7	やや少ない	0	279	558
ブドウこぼれ病	全品種	279	50	2	0	0	52	96.2	3.8	0.0	0.0	100	18.6	19.4	96.3	平年並	2	279	558
ブドウこぼれ病	全品種	279	60	0	0	0	60	100.0	0.0	0.0	0.0	100	21.5	23.1	93.0	平年並	0	279	558
ハダニ類	全品種	279	60	2	0	0	62	96.8	3.2	0.0	0.0	100	22.2	21.2	104.6	平年並	2	28	42

(エ) チ ャ

病害虫名	対象品種	栽培 面積 A	発生程度別面積 (h a)					発生程度別面積割合 (%)					発生面積率			発生 概評	被害 面積 C-B	防除 面積	延べ 防除 面積
			少 B	中	多	甚	計 C	少 B	中	多	甚	計 C	本年 D(C/A)	平年 E	対比 D/E				
炭疽病	全品種	479	150	50	0	0	200	75.0	25.0	0.0	0.0	100	41.8	51.0	81.8	平年並	50	287	862
もち病	全品種	479	25	15	5	0	45	55.6	33.3	11.1	0.0	100	9.4	8.4	111.7	平年並	20	240	240
輪斑病	全品種	479	80	0	0	0	80	100.0	0.0	0.0	0.0	100	16.7	15.6	106.8	平年並	0	240	240
ブドウこぼれ病	全品種	479	40	20	0	0	60	66.7	33.3	0.0	0.0	100	12.5	15.3	82.0	平年並	20	284	345
ブドウこぼれ病	全品種	479	10	2	0	0	12	83.3	16.7	0.0	0.0	100	2.5	3.5	72.3	やや少ない	2	287	345
ブドウこぼれ病	全品種	479	215	20	0	0	235	91.5	8.5	0.0	0.0	100	49.1	41.4	118.4	平年並	20	335	570
ブドウこぼれ病	全品種	479	180	80	15	0	275	65.5	29.1	5.5	0.0	100	57.4	49.2	116.8	平年並	95	383	690
ブドウこぼれ病	全品種	479	160	50	20	0	230	69.6	21.7	8.7	0.0	100	48.0	43.5	110.3	平年並	70	383	690
カンザワハダニ	全品種	479	160	110	40	0	310	51.6	35.5	12.9	0.0	100	64.7	55.0	117.7	平年並	150	431	1,293
ブドウこぼれ病	全品種	479	50	25	0	0	75	66.7	33.3	0.0	0.0	100	15.7	13.3	117.4	平年並	25	96	105
ブドウこぼれ病	全品種	479	200	160	30	10	400	50.0	40.0	7.5	2.5	100	83.5	82.4	101.4	平年並	200	335	838

注) カンキツ、ナシ、ブドウの面積はR5年3月大分の園芸」による。
 チャの栽培面積は、大分県農林水産部園芸振興課果樹・花き特用班調べの数値による。

(10) 野菜病虫害の発生及び防除状況

ア 病虫害発生程度別面積 (2024年10月1日現在)

病虫害名	栽培 面積	発生程度別面積					実防除 面積	延防除 面積	被害 面積	発生 面積率	平 年 面積率	平年 対比	発生 概評
		少	中	多	甚	計							
トマト													
モザイク病	152	5	0	0	0	5	—	—	0	3.3	3.9	85.4	平年並
青枯病	152	23	1	0	0	24	76	76	1	15.8	13.2	119.8	平年並
かいよう病	152	13	0	0	0	13	76	114	0	8.6	10.1	84.4	平年並
疫病	152	5	0	0	0	5	76	76	0	3.3	5.0	65.2	やや少
灰色かび病	152	16	1	0	0	17	152	608	1	11.2	15.0	74.8	やや少
葉かび病	152	15	0	0	0	15	152	608	0	9.9	12.2	80.7	平年並
すすかび病	152	56	0	0	0	56	152	760	0	36.8	60.5	60.9	やや少
うどんこ病	152	32	5	3	0	40	152	608	8	26.3	22.6	116.6	平年並
黄化葉巻病	152	3	0	0	0	3	—	—	0	2.0	2.0	98.2	平年並
アブラムシ類	152	3	0	0	0	3	152	304	0	2.0	2.6	76.6	やや少
アザミヤカ類	152	2.5	0	0	0	2.5	152	456	0	1.6	1.8	89.9	平年並
オシロイバナ	152	65	8	0	0	73	152	760	8	48.0	46.2	103.9	平年並
タバコナシ	152	12	0	0	0	12	152	760	0	7.9	7.8	100.6	平年並
オタバコ	152	5.5	0	0	0	5.5	95	190	0	3.6	3.3	110.1	平年並
ハモグリバエ類	152	45	2	0	0	47	152	456	2	30.9	38.9	79.6	やや少
ピーマン (夏秋)													
モザイク病	121	6	0	0	0	6	0	0	0	5.0	6.6	75.6	やや少
黄化えそ病	121	4	1	0	0	5	0	0	1	4.1	5.1	81.1	平年並
青枯病	121	20	2	0	0	22	60	60	2	18.2	16.1	112.8	平年並
斑点細菌病	121	5	0	0	0	5	35	70	0	4.1	7.1	57.9	少
軟腐病	121	6	1	0	0	7	121	363	1	5.8	4.5	128.9	やや多
うどんこ病	121	30	10	1	0	41	121	605	11	33.9	61.8	54.9	少
灰色かび病	121	4	0	0	0	4	15	30	0	3.3	4.2	78.1	やや少
菌核病	121	2	0	0	0	2	9	18	0	1.7	1.7	96.8	平年並
斑点病	121	90	10	1	0	101	80	400	11	83.5	65.9	126.6	やや多
アブラムシ類	121	30	1	0	0	31	121	605	1	25.6	37.2	68.9	やや少
タバコ	121	33	1	1	0	35	121	605	2	28.9	22.4	129.4	やや多
ヒラズハナアザミウマ	121	55	10	2	1	68	113	339	13	56.2	42.2	133.2	やや多
ミカンキイロアザミウマ	121	22	7	1	1	31	113	339	9	25.6	21.5	119.1	平年並
タバコナシ	121	15	1	0	0	16	80	160	1	13.2	13.5	97.7	平年並
カメムシ類	121	20	1	0	0	21	50	100	1	17.4	14.1	122.7	やや多

病害虫名	栽 培 面 積	発生程度別面積					実防除 面 積	延防除 面 積	被害 面積	発 生 面積率	平 年 面積率	平年 対比	発生 概評
		少	中	多	甚	計							
ねぎ (秋冬)													
さび病	678	200	40	0	0	240	678	1356	40	35.4	43.7	81.1	平年並
黒斑病	678	200	40	3	0	243	678	2034	43	35.8	35.5	101.0	平年並
べと病	678	450	50	5	0	505	678	2034	55	74.5	57.8	128.8	やや多
小菌核腐敗病	678	55	10	0	0	65	678	1356	10	9.6	15.3	62.6	やや少
シロイモシヨウ	678	150	50	25	3	228	678	2034	78	33.6	39.5	85.0	平年並
アブラムシ類	678	15	0	0	0	15	50	50	0	2.2	3.3	67.3	やや少
ネギハモグリバエ	678	400	50	10	0	460	678	2034	60	67.8	58.5	116.0	平年並
ネギアザミウマ	678	400	100	30	5	535	678	2034	135	78.9	69.9	112.9	平年並
ハスモンヨウ	678	22	4	1	0	27	678	678	5	4.0	5.3	75.7	やや少
ネギコガ	678	70	10	0	0	80	678	678	10	11.8	19.5	60.5	やや少
いちご													
うどんこ病	66	20	5	2	1	28	66	264	8	42.4	34.1	124.6	やや多
灰色かび病	66	20	3	2	0	25	66	330	5	37.9	39.5	95.9	平年並
菌核病	66	2	0	0	0	2	22	22	0	3.0	3.3	92.5	平年並
萎黄病	66	3	0	0	0	3	15	15	0	4.5	4.7	97.3	平年並
炭疽病	66	8	2	1	0	11	66	66	3	16.7	16.2	103.2	平年並
アブラムシ類	66	8	3	1	0	12	66	462	4	18.2	19.4	93.6	平年並
ハスモンヨウ	66	15	3	0	0	18	66	132	3	27.3	34.3	79.6	やや少
ハダニ類	66	12	1	0	0	13	66	66	1	19.7	23.2	85.0	平年並
アザミウマ類	66	28	9	3	0	40	66	198	12	60.6	70.0	86.6	平年並
コナジラミ類	66	13	2	1	1	17	66	330	4	10.6	—	—	—

(11) 予察圃場等に関する調査

ア 水稻

(ア) 予察圃場の耕種概要

病虫害予察圃場の概要

圃場設置場所	豊後大野市三重町赤嶺 農業大学校圃場
供試品種	ひとめぼれ、つや姫、ヒノヒカリ
種子消毒方法	5月19日 温湯消毒 (60℃、10分)
浸種月日・条件	5月19日～5月24日 室内にて浸種
播種月日・播種量	5月24日、湿籾重 150g/箱
床土の種類	水稻培土 (清新産業)
出芽条件	平置き出芽 (太陽シート)
移植月日・移植方法	6月14日 稚苗機械植え
栽植密度	栽植密度 13.9株/m ²
施肥	
基肥	化成肥料 14-14-14 28.5kg/10a (成分量 N:4.0kg/10a、P ₂ O ₅ :4.0kg/10a、K ₂ O:4.0kg/10a) (6月14日)
追肥 (穂肥)	化成肥料 16-0-16 16.0kg/10a 施用 (8月7日)
中干し期間	—
出穂期	ひとめぼれ (8月13日)、つや姫 (8月10日) ヒノヒカリ (8月20日)

(イ) 病虫害に関する調査成績

a いもち病

葉いもちは、‘ひとめぼれ’、‘ヒノヒカリ’で認められた。発病株率は9月下旬まで平年より低く推移し、発病度も8月下旬まで平年より高く推移した。イネ葉いもち発生予測モデル (BLASTAM) によると各アメダス観測地点での葉いもち感染好適条件や準好適条件は、6月に県内の広い範囲 (国見、中津、院内、杵築、日田、玖珠、湯布院、大分、犬飼、竹田、佐伯、宇目、蒲江) で複数回出現していた。

穂いもちの初発生は‘ひとめぼれ’、‘ヒノヒカリ’ともに9月13日に確認された。

穂いもちの発病株率および発病穂率は、‘ひとめぼれ’、‘ヒノヒカリ’ともに平年より高く推移した。

予察田におけるいもち病発生状況(2024)

いもち病		ひとめぼれ				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率		発生株率		発病度 発病穂率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0.8	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	0.0	12.4	0	2.1	0	0	0	0	0.0	9.8	0.0	3.8
	下旬	14.0	45.6	3.5	15.5	0	0	0	0	2.7	41.0	0.7	9.7
8月	上旬	30	72.8	7.5	28.0	0	0	0	0	21.3	71.0	5.3	17.5
	中旬	28.0	62.8	7	18.8	0	0	0	0	14.7	58.2	3.7	24.9
	下旬	10.0	48.8	0.5	20.5	0	0	0	0	1.3	41.7	0.3	26.8
9月	上旬	2.0	10.2	1	1.0	0	0	0	0	0	2	0	0.2
	中旬	8.0	28.4	0.5	2.3	0	0	0	0	5.3	3.8	0.3	0.3
	下旬	0.0	29	0.0	3.2	0	0	0	0	10.7	23.0	0.8	1.6

※ 平年値は2014～2023年の平均値、`つや姫` は2017年欠測

※ 8月下旬までは発病度、9月以降は発病穂率

b 紋枯病

紋枯病の初発生は`ひとめぼれ`、`ヒノヒカリ`では8月19日に、`つや姫`では8月26日に確認された。発病株率は平年より高く推移し、病斑高率は平年より低く推移した。

予察田における紋枯病発生状況(2024)

紋枯病		ひとめぼれ				つや姫				ヒノヒカリ			
		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率		発生株率		平均病斑高率	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月	上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	上旬	0	0	0	0.2	0	0.4	0	0	0	0	0	0
	中旬	4.0	0.4	0.9	3.4	0	1.8	0	2.3	2.0	0.8	0.4	0.1
	下旬	0	2.8	0	9.2	2.0	4.0	0.9	13.9	0	3.0	0	4.4
9月	上旬	8.0	3.3	4.0	19.2	8.0	3.2	3.6	17.8	18.0	2.1	4.6	12.9
	中旬	22.0	6.2	11.4	29.8	26.0	8.0	11.4	23.1	22.7	4.5	15.0	15.7
	下旬	50.0	8.6	27.0	30.0	48.0	13.9	22.4	31.6	70.0	6.7	24.5	11.6

※ 平年値は2014～2023年の平均値、`つや姫` は2017年欠測

c もみ枯細菌病、内穎褐変病

もみ枯細菌病は認められなかった。内穎褐変病は少発生が認められた(データ省略)。

d セジロウンカ

予察灯における初誘殺は6月30日（平年7月7日）で平年より早く、誘殺数は7月3半旬、8月1半旬、9月1半旬を除き平年並か平年より少なく推移した。巡回調査では、栽培期間中を通して平年より低く推移した。予察田での発生量は7月中旬、8月上旬を除き平年より少なく推移した。

予察田におけるセジロウンカの発生状況（2024）

		7月上 7/5	7月中 7/16	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/19	8月下 8/26	9月上 9/5	9月中 9/13	9月下 9/25	10月上旬 10/4
本年	成虫	0.3	1	4.3	1.7	1.7	0.7	2	0.3	2.3	1
	幼虫	0	19.3	11.7	37.3	6.7	5	3.3	1.3	2.7	0.3
	計	0.3	20.3	16	39	8.3	5.7	5.3	1.7	5	1.3
平年	成虫	0	1.3	1.2	5.5	4.2	10.2	10.0	4.4	1.6	1.1
	幼虫	0	2.5	20.8	25.2	32.3	41.4	32.9	18.6	27.7	3.8
	計	0	3.9	22.0	30.7	36.5	51.6	38.6	23	29.3	4.9
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	75.2	371.4	30.4	39.5	6.5	20.0	7.5	145.8	90.6
	幼虫	#DIV/0!	763.2	56.0	148.0	20.7	12.1	10.1	7.2	9.6	8.8
	計	#DIV/0!	526.4	72.8	127.0	22.8	11.0	13.8	7.2	17.0	27.3

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

e トビイロウンカ

予察灯における初誘殺は7月19日（平年8月3日）で平年より早く、その後の誘殺は平年より少なく推移した。巡回調査では、早期水稻は6月18日に発生が確認され、過去10年間で最も早い確認であったことから、早期水稻及び普通期水稻の早植地域に対して病害虫発生予察注意報を6月20日付で発表した。普通期水稻は7月11日に発生が確認され、坪枯れの発生は県内数圃場で確認された。予察田では、7月下旬に初発生が確認され、8月上旬は多くなったが、8月の気温がかなり高く推移したためか、その後の発生は平年より少なく推移した。

予察田におけるトビイロウンカの発生状況（2024）

		7月上 7/5	7月中 7/16	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/19	8月下 8/26	9月上 9/5	9月中 9/13	9月下 9/25	10月上旬 10/4
本年	成虫	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0.7
	幼虫	0	0	0.3	14.7	0	1.3	3	3	7.7	14
	計	0	0	0.3	14.7	0	1.3	3	3.3	8	14.7
平年	成虫	0	0.03	0	0.5	0.5	0.6	30.1	27.4	9.0	11.4
	幼虫	0	0	0.6	2.5	4.9	52.0	49.0	121.0	71.2	1334.3
	計	0	0.03	0.6	2.9	5.3	52.7	71.2	148.4	80.1	1345.7
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	0	#DIV/0!	0	0	0	0	1.2	3.7	5.8
	幼虫	#DIV/0!	#DIV/0!	55.6	594.7	0	2.6	6.1	2.5	10.8	1.0
	計	#DIV/0!	0	55.6	500.1	0	2.5	4.2	2.2	10.0	1.1

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

3) 10月上旬の平年値については2017年の大量発生（11,982頭/25株）に伴う増加である

4) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

f ヒメトビウンカ

予察灯における初誘殺は7月19日(平年7月3日)で平年より遅かった。巡回調査では、8月上旬は発生圃場率が平年より高かったが、その他の時期は平年より低く推移した。株当たり虫数は平年並か平年より少なかった。予察田では、7月は平年より多く、その後は平年並に推移した。4月中旬に行ったすくい取り調査では確認されなかった。

予察田におけるヒメトビウンカの発生状況(2024)

		7月上 7/5	7月中 7/16	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/19	8月下 8/26	9月上 9/5	9月中 9/13	9月下 9/25	10月上旬 10/4
本年	成虫	1	1	1.3	1	1.3	4	1.7	0.7	4.3	1.3
	幼虫	0	26	19	13.7	24	12.3	12.7	14.7	35.3	29.7
	計	1	27	20.3	14.7	25.3	16.3	14.3	15.3	39.7	31
平年	成虫	0.3	0.6	0.5	1.7	3.0	2.8	2.6	5.1	1.6	1.2
	幼虫	0.03	4.4	8.4	14.1	15.6	18.7	12.0	14.4	9.8	6.1
	計	0.3	5.0	8.9	15.7	18.6	21.5	13.2	19.5	11.3	7.3
平年比 (%)	成虫	375	166.7	250	59.4	44.4	143.7	62.9	13.0	276.6	111.4
	幼虫	0	597.7	226.3	97.2	153.7	66.0	105.9	102.0	361.8	487.1
	計	333.3	545.5	227.7	93.1	136.1	76.0	109.0	78.6	350	425.4

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

g ツマグロヨコバイ

予察灯における初誘殺は6月10日(平年6月3日)で平年より遅く、総誘殺数は平年より少なかった。巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、株当たり虫数も平年より少なかった。予察田では、7月下旬を除き平年より少なく推移した。4月中旬に行ったすくい取り調査では、発生が確認されなかった。

予察田におけるツマグロヨコバイの発生状況(2024)

		7月上 7/5	7月中 7/16	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/19	8月下 8/26	9月上 9/5	9月中 9/13	9月下 9/25	10月上旬 10/4
本年	成虫	0	0.7	0.3	1.7	0	3.7	1.3	0.3	0	0.3
	幼虫	0	1	6.3	5	16.7	26	6	2	1.3	0.3
	計	0	1.7	6.7	6.7	16.7	29.7	7.3	2.3	1.3	0.7
平年	成虫	0	0.07	0.4	0.9	1.4	4.3	4.7	2.4	1.8	1.6
	幼虫	0.2	2.0	1.4	15.9	36.0	28.8	20.9	35.7	24.8	18.3
	計	0.2	2.1	1.8	16.8	37.4	33.0	23.1	38.1	26.6	19.9
平年比 (%)	成虫	#DIV/0!	1000	83.3	196.1	0	85.9	28.2	14.1	0	20.8
	幼虫	0	49.2	451.0	31.4	46.2	90.4	28.6	5.6	5.4	1.8
	計	0	79.4	369.5	39.7	44.5	89.9	31.7	6.1	5.0	3.4

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

h コブノメイガ

普通期水稻の巡回調査では、発生圃場率は7月中旬から9月中旬まで平年より高めに推移し、25株当たり被害苞数は8月中旬までは平年並か平年より少なかったが、9月中旬は平年より多かった。予察田では、7月中旬に初発生を確認したが、7月下旬以降は平年より少なかった。

予察田におけるコブノメイガの発生状況(2024)

		7月上 7/5	7月中 7/16	7月下 7/25	8月上 8/5	8月中 8/19	8月下 8/26	9月上 9/5	9月中 9/13	9月下 9/25	10月上旬 10/4
本年	苞数	0	1	0	2.3	2.7	0	0	0	0	0
平年	苞数	0.03	0.5	2.3	9.8	14.9	13.3	0.7	2.3	0	0
平年比(%)		0	195.1	0	23.7	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの被害苞数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

i フタオビコヤガ

予察灯では調査期間を通して誘殺されなかった。巡回調査では調査期間を通して幼虫は確認されなかった。予察田でも調査期間を通して幼虫は確認されなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況（2024）

		7月上	7月中	7月下	8月上	8月中	8月下	9月上	9月中	9月下	10月上旬
		7/5	7/16	7/25	8/5	8/19	8/26	9/5	9/13	9/25	10/4
本年	幼虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平年	幼虫	0	0.3	0.2	1.3	2.4	1.7	0.2	0.2	0	0
平年比(%)		#DIV/0!	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!

注1) 数値は25株当たりの生息虫数

2) 平年値は豊後大野市三重町における2014～2023年の10年間平均値

3) 表中の#DIV/0!については、平年が0のため平年比が計算できない事を示す

j 斑点米カメムシ類

7月29日～8月1日に行ったすくい取り調査では、1か所あたり斑点米カメムシ類成幼虫計13.1頭で平年（2.8頭）と比較して多く、過去10年間で最も多かった。

予察灯における主要害虫の誘殺状況（2024）

豊後大野市三重町60w白熱灯

月	半 旬	セジロウンカ				トビイロウンカ				ヒメトビウンカ				ツマグロヨコバイ				フタオビコヤガ	
		♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	♂	♀	計	平年値	計	平年値
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
	6	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.9	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.7	0	0
	2	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	1	0	1	3.8	0	0.0
	3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2.5	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1.5	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4	0	0
	6	1	0	1	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0
7	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	1	0	1	0.4	0	0.1
	2	0	0	0	0.6	0	0	0	0.8	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0	0.1
	3	1	10	11	1.8	0	0	0	0.7	0	0	0	0.0	1	1	2	0.4	0	0.3
	4	0	0	0	0.9	1	0	1	0	1	0	1	0	5	0	5	1.3	0	0.2
	5	0	0	0	1.0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.6	2	2	4	5.3	0	0.7
	6	0	0	0	0.9	0	0	0	0.1	0	0	0	0.4	0	2	2	7.2	0	1.0
8	1	7	2	9	0.8	0	0	0	1.2	1	0	1	0.5	4	2	6	7.7	0	4.3
	2	1	1	2	1.1	0	0	0	1.0	0	0	0	0.2	7	2	9	7.6	0	9.3
	3	0	0	0	11.7	0	0	0	0.7	1	0	1	0.6	1	4	5	16.5	0	15.1
	4	2	1	3	1.1	0	1	1	0.4	2	0	2	0.5	6	3	9	10.7	0	7.5
	5	0	0	0	5.8	0	1	1	1.2	2	0	2	1.0	5	4	9	11.6	0	6.1
	6	2	4	6	8.4	1	0	1	3.7	1	0	1	1.2	2	0	2	17.5	0	2.3
9	1	17	3	20	6.0	3	0	3	4.6	0	0	0	0.7	4	5	9	12.5	0	1.9
	2	1	0	1	8.2	0	0	0	39.7	1	0	1	1.0	0	0	0	16.8	0	0.2
	3	0	0	0	10.8	0	0	0	39.2	0	0	0	0.9	3	0	3	19.9	0	0.2
	4	0	0	0	11.7	0	0	0	10.5	0	0	0	1.0	1	2	3	11.3	0	0.1
	5	1	0	1	9.9	0	4	4	3.1	0	0	0	0.1	1	1	2	6.2	0	0
	6	0	0	0	5.1	1	3	4	26.8	0	0	0	0	6	2	8	4.6	0	0.1
10	1	4	0	4	4.0	13	14	27	25.7	0	0	0	0.9	3	2	5	3.8	0	0.1
	2	4	1	5	1.0	8	5	13	15.3	0	0	0	0.3	5	5	10	2.0	0	0
	3	0	0	0	0.3	0	0	0	65.9	0	0	0	0.2	1	0	1	0.6	0	0
	4	0	0	0	0.2	0	0	0	2.5	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	5	2	0	2	0.7	2	2	4	4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		43	22	65	92.7	29	30	59	248.0	9	0	9	11.8	62	41	103	175.6	0	49.6

注1. 平年値は♀＋♂の合計数であり、2014～2023年のデータを用い平年値を算出している。

イ 麦類

(ア) 予察圃場の耕種概要

病害予察圃場の概要（麦類）

供試品種	裸麦：トヨノホシ、ハルアカネ 大麦：サチホゴールドデン、ニシノホシ 小麦：チクゴイズミ、はるみずき
播種月日	令和5年11月17日
播種量	7.5g/m ² /1品種
播種方法	六条植
圃場面積	14m ² /1品種
施肥	令和5年11月10日に化成肥料（14-14-14）40kg/10a
追肥	令和6年3月8日に化成肥料（16-0-16）15kg/10a
出穂期	トヨノホシ：4月4日、ハルアカネ：4月7日 サチホゴールドデン：4月4日、ニシノホシ：4月4日 チクゴイズミ：4月5日、はるみずき：4月6日

(イ) 病害虫に関する調査成績

a 赤かび病

令和6年5月7日に‘サチホゴールドデン’‘ニシノホシ’‘ハルアカネ’‘チクゴイズミ’で、5月15日に‘ハルミズキ’で初発が認められた。期間を通じて微発生で推移した。

b さび病類、うどんこ病

発生は認められなかった。

c 網斑病、黄斑病

令和6年4月5日に‘トヨノホシ’‘ハルアカネ’‘サチホゴールドデン’‘ニシノホシ’で網斑病の初発生が認められた。また、4月5日に‘チクゴイズミ’‘はるみずき’で黄斑病の初発生が認められた。

d 黒穂病類

発生は認められなかった。

e アブラムシ類

発生は認められなかった。

f 斑葉病

発生は認められなかった。

g その他の病害虫

発生は認められなかった。

県予察圃場における麦類病害虫発生状況（令和6年度、令和5年播種）

品種	麦種	出穂期	調査 月日	赤かび病		赤さび病		うどんこ病		黒穂病類		網斑病・黄斑病		アブラムシ類		備考
				発病粒 率	発生 程度	発病 度	発生 程度	発病 度	発生 程度	発病 基率	発生 程度	発病 度	発生 程度	寄生 程度	発生 程度	
サチホゴールド	二条大麦	3月30日	4/5									14.7	少			
			4/15									12.3	少			
			4/25									13.7	少			
			5/7	0.2	微							0				赤かび病のみ調査
			5/15	0								0				赤かび病のみ調査
			5/23	0.2	微							0				赤かび病のみ調査
ニシノホシ	二条大麦	4月1日	4/5									13.3	少			
			4/15									35.0	中			
			4/25									49.7	中			
			5/7	0.7	微							0				赤かび病のみ調査
			5/15	0								0				赤かび病のみ調査
			5/23	0.2								0				赤かび病のみ調査
トヨノホシ	裸麦	4月3日	4/5									17.3	少			
			4/15									29.0	少			
			4/25									23.0	少			
			5/7	0								0				赤かび病のみ調査
			5/15	0								0				赤かび病のみ調査
			5/23	0.2	微							0				赤かび病のみ調査
ハルアカネ	裸麦	4月4日	4/5									6.3	少			
			4/15									10.0	少			
			4/25									0				赤かび病のみ調査
			5/7	0.1	微							0				赤かび病のみ調査
			5/15	0.6	微							0				赤かび病のみ調査
			5/23	0.1	微							0				赤かび病のみ調査
チクゴイズミ	小麦	4月8日	4/5									8.0	少			
			4/15									12.3	少			
			4/25									16.3	少			
			5/7	0.4	微							26.0	少			
			5/15	0.5	微							30.7	少			
			5/23	0.1	微							0				赤かび病のみ調査
はるみずき	小麦	4月8日	4/5									9.7	少			
			4/15									10.3	少			
			4/25									17.0	少			
			5/7	0								21.0	少			
			5/15	0.8	微							33.3	中			
			5/23	0.2	微							0				赤かび病のみ調査

ウ 大豆

(ア) 予察ほ場の耕種概要

ほ場面積：2.8 a (14m×20m)

品 種：フクユタカ

播 種：7月16日(手播)

栽植密度：条間 70cm×株間 20cm 2粒播種

施 肥：豆化成 50kg/10a

種子消毒：クルーザーMAXX (8ml/kg) 7月9日

除 草 剤：ラクサー乳剤 (500ml/100L/10a) 播種直後

中耕培土：8月13日(歩行型管理機)

(イ) 病虫害発生状況調査

病虫害発生状況は、8月5日から10月15日までの間、概ね10日間隔でランダムに抽出した50株についてカメムシ類、ハスモンヨトウの生息虫数を見取りで調査した。ハスモンヨトウは農林水産研究指導センターの本館屋上に乾式トラップ(旧住化武田農薬株式会社製)を設置し、4～11月の間に雄成虫の誘殺数を調査した。大豆予察ほ場における子実の病虫害被害状況は、収穫時に圃場内10地点から1株ずつ(1株1茎)計10茎の子実を採取・分解し、病虫害別に被害粒率を算出した。

a カメムシ類

大豆予察ほ場では、イチモンジカメムシは9月5日に確認され平年より10日程度遅かった。アオクサカメムシは8月26日に確認され平年並の発生時期であった。ミナミアオカメムシは10月4日に確認され平年より30日程度遅かった。ホソヘリカメムシは10月15日に確認され平年より50日程度遅かった。カメムシ類全体では10月上旬は平年より多く、10月中旬は平年並の発生で、そのほかの時期は平年より少なく推移した。子実分解調査の結果、カメムシ類による被害粒率は41.3%(平年16.9%)で、平年に比べ被害が多かった。

b ハスモンヨトウ

乾式フェロモントラップでは、4月1半旬に初誘殺を確認した。9月3半旬までは誘殺数の増減はあったものの総誘殺数は平年より少なかったが、9月4半旬以降概ね平年より多く誘殺され、総誘殺数は平年より多かった。

c シンクイムシ類

子実分解調査の結果、被害粒率3.1%(平年8.9%)であり、平年に比べ被害が少なかった。

d 紫斑病

子実分解調査の結果、被害粒率18.5%(平年1.7%)であり、平年に比べ被害が多かった。

e モザイク病(褐斑粒)

子実分解調査の結果、被害粒は認められなかった(平年の被害粒率1.3%)。

予察ほ場における害虫の発生調査結果(2024)

害虫名		8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月上旬	9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬
		8月5日	8月19日	8月26日	9月5日	9月13日	9月25日	10月4日	10月15日
イチモンジカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	1	4
		平年	0	0	0	0	0.1	0.1	1.5
	成虫	本年	0	0	0	2	1	0	2
		平年	0	0	1.2	1.4	2.6	0.8	0.7
アオクサカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0.2	0.3	1.1	1.5	7.4
	成虫	本年	0	0	1	1	0	0	1
		平年	0	0	0.6	1.1	1.6	3.7	1.3
ミナミアオカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	3
		平年	0	0	0	0	0	0.6	1.8
	成虫	本年	0	0	0	0	0	0	8
		平年	0	0	0	0.2	0.1	0.9	0.2
ホソヘリカメムシ	幼虫	本年	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0.1	0.1	0	1.0	1.0
	成虫	本年	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0.3	0.5	0.6	1.2	0.4
カメムシ類計	幼虫	本年	0	0	0	0	0	1	7
		平年	0	0	0.3	0.4	1	3.2	11.7
	成虫	本年	0	0	1	3	1	0	11
		平年	0	0	2.1	3.2	4.9	6.6	2.6
ハスモンヨトウ	卵塊	本年	0	0	0	0	0	0	0
		平年	0	0	0	0	0.0	0.5	0
	幼虫	本年	0	0	2	1	203	347	89
		平年	0	0	0.7	13.8	108.1	54.6	12.9

注1) 数値は50株当たりの生息虫数
注2) 平年値は過去10カ年(2014~2023年)の豊後大野市三重町赤嶺のデータ
注3) 播種は7月16日

予察ほ場における子実分解調査結果(2024)

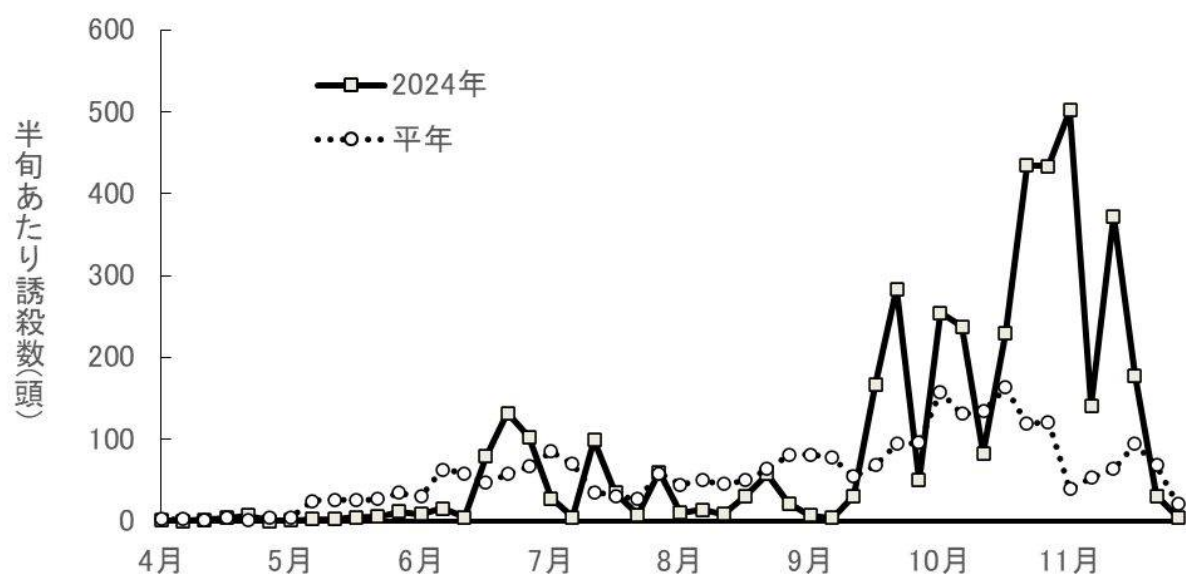
調査年	調査英数	調査粒数																					ダイズサヤタマバエ被害英数	同率（％）					
			健全粒数	被害粒数	同率（％）																	その他被害粒数			同率（％）				
						病害被害粒数	同率（％）	紫斑病	同率（％）	褐斑粒	同率（％）	その他病害	同率（％）	害虫被害粒数	同率（％）	カメムシ類	同率（％）	シンクイムシ類	同率（％）	ハスモンヨトウ	同率（％）					フタスジヒメハムシ	同率（％）	その他害虫	同率（％）
本年	34.7	42.1	13.4	28.7	68.2	8.9	21.1	7.8	18.5	0	0	1.1	2.6	19.7	46.8	17.4	41.3	1.3	3.1	0	0	0	0	1.0	2.4	0.1	0.2	2.9	8.4
前年	35.0	48.9	39.0	39.0	79.8	0.2	0	0	0	0	0.2	0.3	8.3	17.0	4.6	9.3	2.7	5.4	0.1	0.2	0	0	1.0	2.0	1.4	2.9	0.9	2.6	
平年	71.8	84.4	45.7	41.6	49.3	13.0	15.4	1.4	1.7	1.1	1.3	10.5	12.4	25.1	29.7	14.3	16.9	7.5	8.9	0.4	0.5	2.2	2.6	0.7	0.9	0.6	0.7	2.4	3.3

備考: 数値は1茎当たりの平均値。調査英数は稔実英数。ダイズサヤタマバエは被害粒数ではなく被害英数。

乾式フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数（頭）（2024 年）

月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数		月	半旬	誘殺数	
		本年	平年			本年	平年			本年	平年
4	1	1	2.4	7	1	28	85.4	10	1	255	158.4
	2	0	2.5		2	5	70.2		2	238	131.1
	3	2	2.0		3	99	35.6		3	83	134.6
	4	4	4.0		4	35	31.1		4	230	163.6
	5	7	1.9		5	8	27.1		5	435	119.3
	6	0	4.1		6	60	58.4		6	434	121.8
5	1	1	5.1	8	1	10	44.8	11	1	502	39.5
	2	3	25.1		2	14	49.9		2	141	53.4
	3	3	26.7		3	9	45.3		3	373	64.1
	4	5	25.8		4	31	50.2		4	178	94.7
	5	6	27.0		5	58	64.1		5	31	68.3
	6	12	34.5		6	22	81.1		6	5	21.0
6	1	9	30.3	9	1	7	81.5	計		4,215	2,771.7
	2	16	63.0		2	4	78.1				
	3	5	58.6		3	31	54.5				
	4	79	46.8		4	167	68.7				
	5	132	58.2		5	284	94.3				
	6	103	67.4		6	50	96.2				

*平年値は2014年から2023年の豊後大野市三重町における10年間の平均データ



ハスモンヨトウ誘殺数の推移（2024 年）

エ 果樹

(ア) 予察圃場における発生状況

a 目的

果樹の主要病害虫の発生状況を調査し、定期的な予察情報を発表するとともに、状況に応じ注意報や防除技術情報等を的確かつ迅速に情報提供するための基礎資料とする。

b 調査方法

(a) 調査場所 果樹グループ内（宇佐市）ナシおよびウメ栽培圃場、病害虫圃場

(b) 対象病害虫

【病害】ナシ黒星病

ブドウベと病

【害虫】ナシヒメシנקイ、チャノコカクモンハマキ、アザミウマ類

(c) 調査方法

【病害】

ナシ黒星病

無防除‘豊水’28年生において、芽基部病斑を約100芽基部（3反復）調査し、芽基部病斑率を算出した。

ブドウベと病

無防除‘巨峰’32年生において、6月以降10日間隔で100葉（3反復）について、発病の有無を調査した。

【害虫】ナシヒメシנקイはウメ園とナシ園内に、チャノコカクモンハマキはナシ園に粘着式フェロモントラップを各1基、アザミウマ類はブドウ園に粘着トラップ（ホリバー黄）を設置し、半旬ごとの誘殺数を調査した。なおルアーおよび粘着シートは1か月毎に交換した。

c 結果及び考察

【病害】

(a) ナシ黒星病の芽基部病斑率は0.1%で平年より少なかった（表1）。また、幼果、葉の発病は4月2半旬から確認された。

(b) ブドウベと病の初発生は6月5日だった（データ略）。

【害虫】

(a) ナシヒメシנקイはナシ園において4月、6月中旬、7月中旬月～8月上旬、9月と4回ピークが認められた。全体としては平年並であったが、平年より遅くまで発生が続いた（図1）。ウメ園において4月上旬、6月上旬～7月下旬、8月～9月までの3回ピークが認められ、平年より遅くまで発生が続いた（図2）。

(b) チャノコカクモンハマキは4月中旬、5月上下、6月上旬、7月下旬、8月下旬、9月中下旬、10月下旬にピークが認められ、ピーク時は平年を大きく上回った（図3）。

(c) チャノキイロアザミウマは初誘殺を5月2半旬に確認し、定期的に発生は見られたがピークは不明瞭であった（図4）。

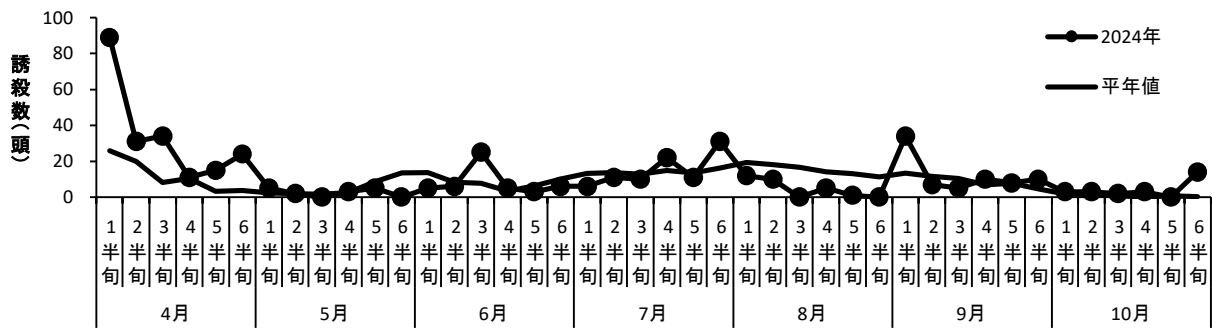


図1 ナシヒメシンクイの発生消長（ナシ園）

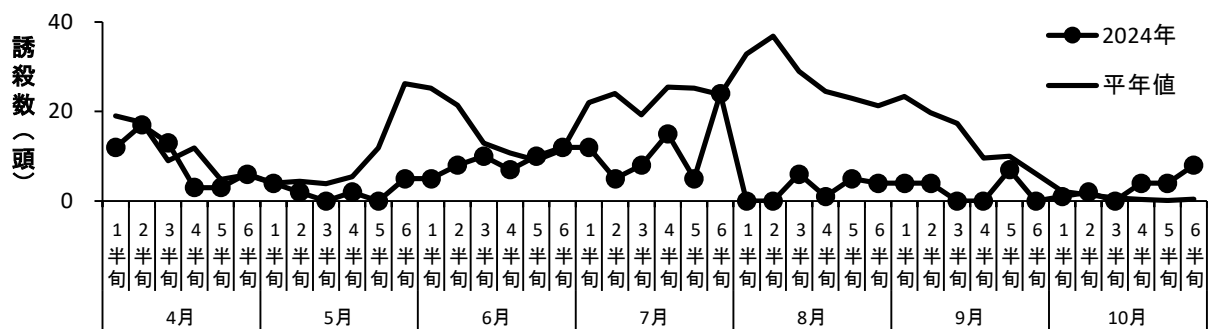


図2 ナシヒメシンクイの発生消長（ウメ園）

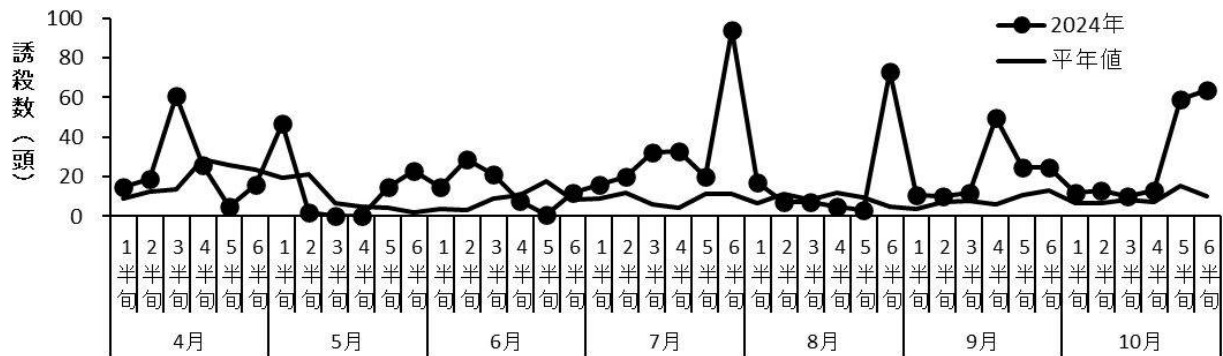


図3 チャノコカクモンハマキの発生消長

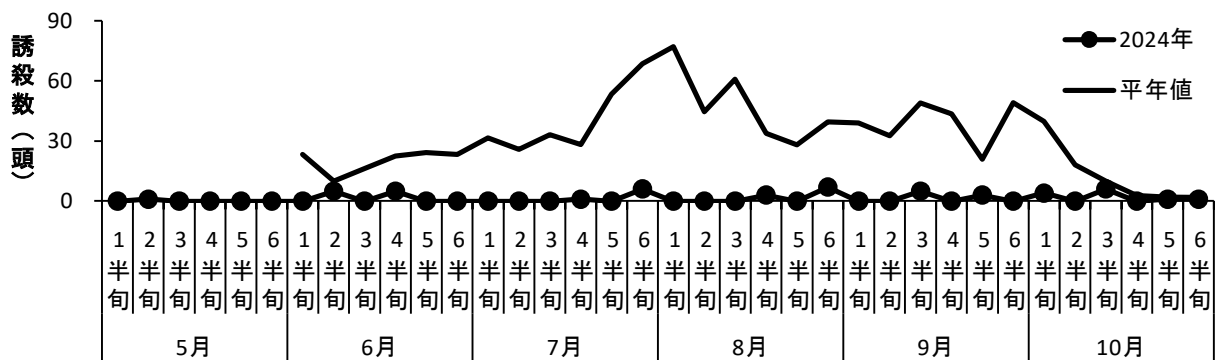


図4 チャノキイロアザミウマの発生消長

表 1 無防除‘豊水’の満開日と黒星病発生状況

年	満開日	黒星病芽基部病斑		
		初確認日	調査日	病斑率(%)
2000	4/13	4/20	4/20	2.1
2001	4/10	4/17	4/27	5.9
2002	4/2	4/10	4/24	8.7
2003	4/11	4/9	4/24	12.0
2004	4/5	4/20	4/22	4.0
2005	4/11	4/14	4/21	3.3
2006	4/11	4/11	4/21	2.5
2007	4/4	4/9	4/20	1.0
2008	4/11	4/9	4/21	3.6
2009	3/30	4/20	4/20	0.5
2010	3/30	4/22	4/26	2.7
2011	4/11		4/20	0
2012	4/12	4/18	4/18	0.4
2013	4/3	4/16	4/26	4.8
2014	4/6		4/24	0.7
2015	4/6	4/20	5/1	10.3
2016	4/5	4/21	4/28	1.3
2017	4/14		4/28	0
2018	4/2		4/27	2.6
2019	4/5		4/26	0.3
2020	4/7		4/28	0
2021	3/29	4/21	4/21	6.5
2022	4/4		4/26	0
2023	4/1	4/12	4/28	4.3
2024	4/5	4/26	4/30	0.1
平年	4/4	4/18		2.6

※平年値は最新年を除いた直近 10 年の平均。

(イ) 果樹カメムシ類の発生状況調査

越冬量調査

2024 年 1 月に 6 地点、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量を調査した。調査は、1 地点当たり 1 m²の落葉を 3 か所採取し、ビニール袋に入れて持ち帰り、20～23℃の部屋に静置した後、チャバネアオカメムシ成虫を計数した。

フェロモントラップ誘殺数調査

県果樹試験場 3 地点にフェロモントラップを設置し、4～10 月の半旬ごとに誘殺された果樹カメムシ類を種別に調査した。トラップは、サンケイ化学コガネコール用誘引器（黄色）を使用し、フェロモンルアーは、約 30 日間隔で交換した。

ヒノキ毬果における口針鞘数調査

日田市、宇佐市において 7 月と 8 月の下旬に、ヒノキ毬果における口針鞘数を調査した。調査は、1 地点当たり 3 樹、1 樹当たり概ね 5 枝から採取した毬果のうち任意の 20 果を、酸性フクシン水溶液 0.1% で染色した後、縫合部に形成された口針鞘を検鏡、計数した。

越冬世代成虫の発生状況

- ① 2024 年 1 月に行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬量調査では、平年よりも多く確認された（図 1）。
- ② 初誘殺は、3 地点とも 4 月 3～4 半旬に認められ、やや多かった。
- ③ 誘殺数は、3 地点とも平年よりも多かった（図 2）。

新世代虫の発生状況

- ① 主な餌となるスギ・ヒノキ毬果の着果量は地域間差が大きいですが、8 月中旬以降のフェロモントラップへの誘殺数は、宇佐市、国東市、津久見市は平年よりもやや高く推移した。（図 2）。
- ② 新世代幼虫及び成虫によるヒノキ毬果の口針鞘は、7 月下旬の調査結果では日田市（6.3）、宇佐市（3.2）であった。
7 月下旬の口針鞘数から飛来予測時期を計算した結果、日田市は 9 月 8 日、宇佐市は 8 月 31 日であった（表 1）。

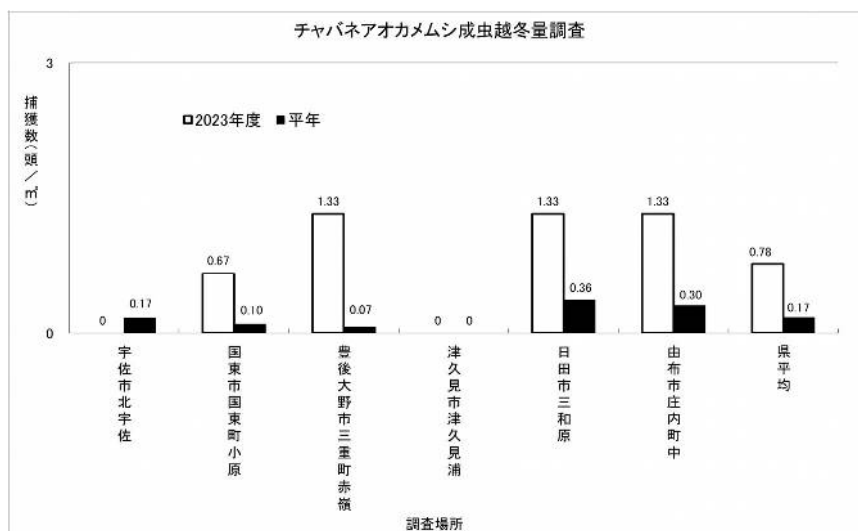


図1 果樹カメムシ類越冬量調査結果(2024年1月調査)

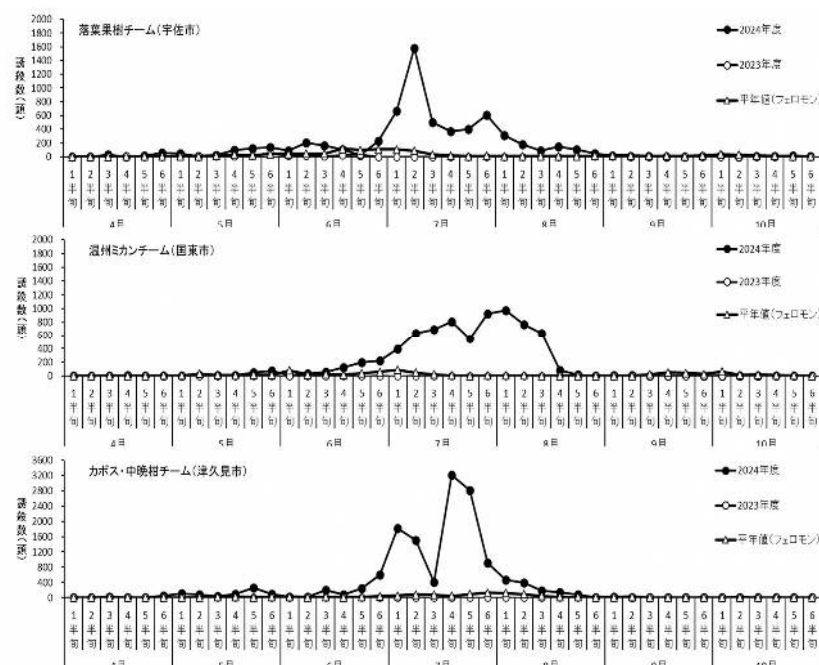


図2 果樹カメムシ類の誘殺状況(2024年度)

表1 ヒノキ毬果の口針鞘数の推移

調査地点	7月 下旬	8月 下旬	発生予測日 (7月下旬)
日田市三和	6.3	7.7	9月8日
宇佐市北宇佐	3.2	9.3	8月31日

※日田市7月18日及び8月20日調査、宇佐市7月22日及び8月22日調査

※園地飛来日の予測式

$$y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$$

(y : 7月下旬からの日数、 X : 7月下旬の口針鞘数)

オ 茶

(ア) 主要病害虫の発生状況調査

a 目的

チャの主要病害虫に対する発生状況調査を行い、現地での効率的な防除が可能となるように防除情報を発信する。

b 調査方法

(a) 調査場所 大分県農林水産研究指導センター内（豊後大野市）茶栽培圃場

(b) 対象病害虫

【害虫】 チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ

(c) 調査方法

【害虫】 今年度から無防除園にて害虫の発生活消長を調査した。

フェロモントラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に粘着式フェロモントラップを各1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチョウ目害虫を種別に調査した。ルアーは1ヶ月毎に交換し、粘着シートは誘殺数に応じて交換した。

黄色粘着トラップ誘殺数調査

センター内の茶栽培圃場に黄色粘着トラップを1基設置し、3～11月の半旬ごとに誘殺されたチャトゲコナジラミを調査した。粘着板は計数時に毎回交換した。

c 結果及び考察

【害虫】

- (a) チャノホソガは、3月6半旬に106頭と越冬世代の誘殺数が少なかった。また、夏季の気温が平年より高く、日中の気温が発育停止温度の30℃を超える日が多かったため、発生数の増加が平年より抑えられた。10月4半旬に418頭と年間で最も多い発生となったが、10月下旬の秋整枝による秋芽の切り落とし及び気温の低下により、その後の発生数は減少した（図1）。
- (b) チャノコカクモンハマキは、越冬世代の成虫が4月下旬に発生し、7月5半旬に114頭、10月4旬には300頭と平年より発生量が増加した。他県でも世代数及び発生量が増加していることから、当県においても同様の傾向が見られたと考えられる。また、圃場での巻葉数が多いことから、越冬する幼虫数が多くなると推測される（図2）。
- (c) チャハマキは、昨年の11月3半旬の発生数が年間で最も多かったことから、越冬数の増加が予想されていた。越冬世代の成虫が4月に確認され、4月4半旬の80頭が年間で最も多い発生となった。また、空梅雨であったことや秋季の気温が高かったことから、年間を通して発生数が多かった（図3）。
- (d) チャトゲコナジラミは、越冬世代の成虫が4月4半旬に1,044頭と年間で最も多く、平年と同様に一番茶摘採期にピークとなった。その後は生育ステージのばらつきにより誘殺数は減少したが、第1世代から第4世代までの発生が確認された（図4）。

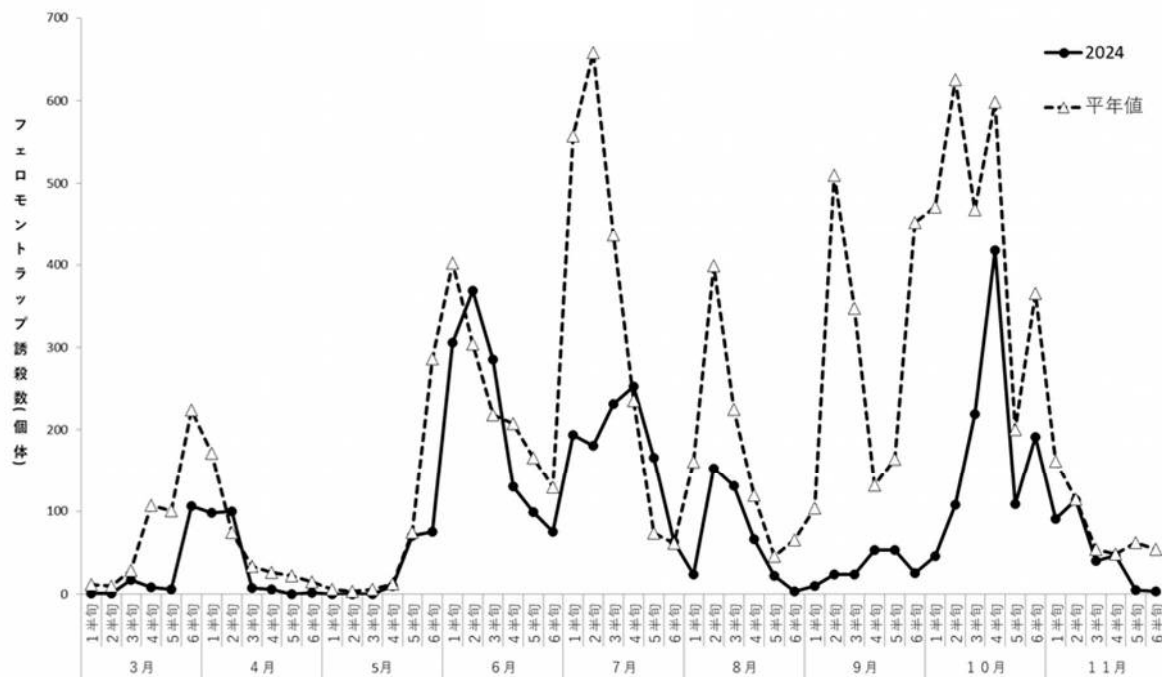


図1 チャノホソガの発生消長

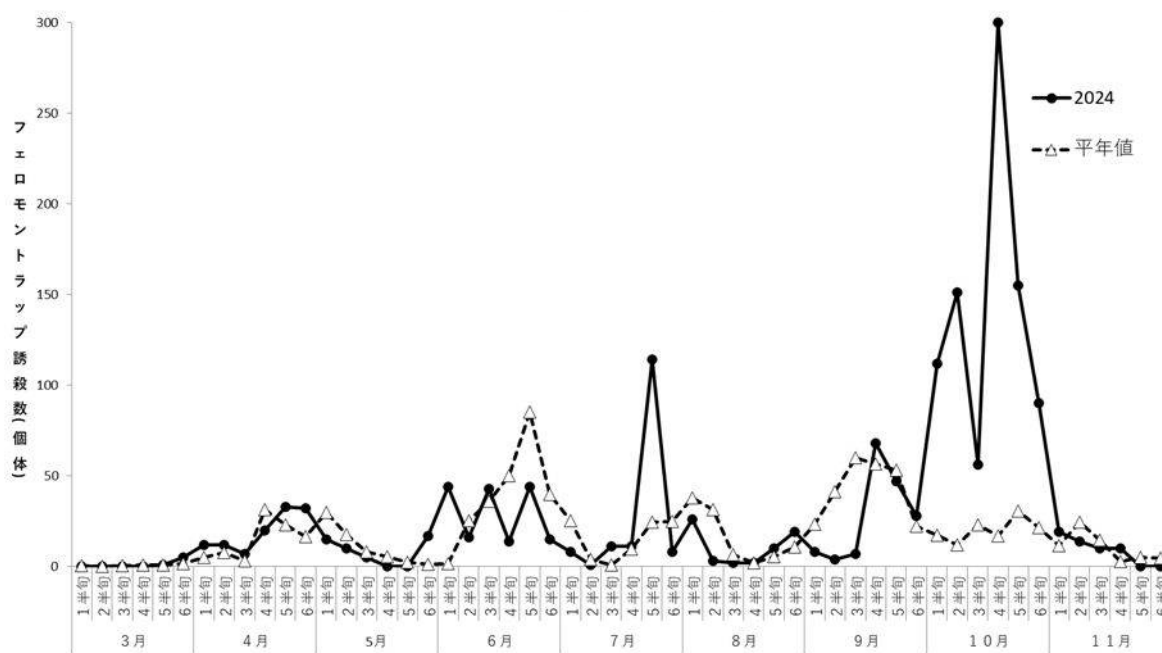


図2 チャノコカクモンハマキの発生消長

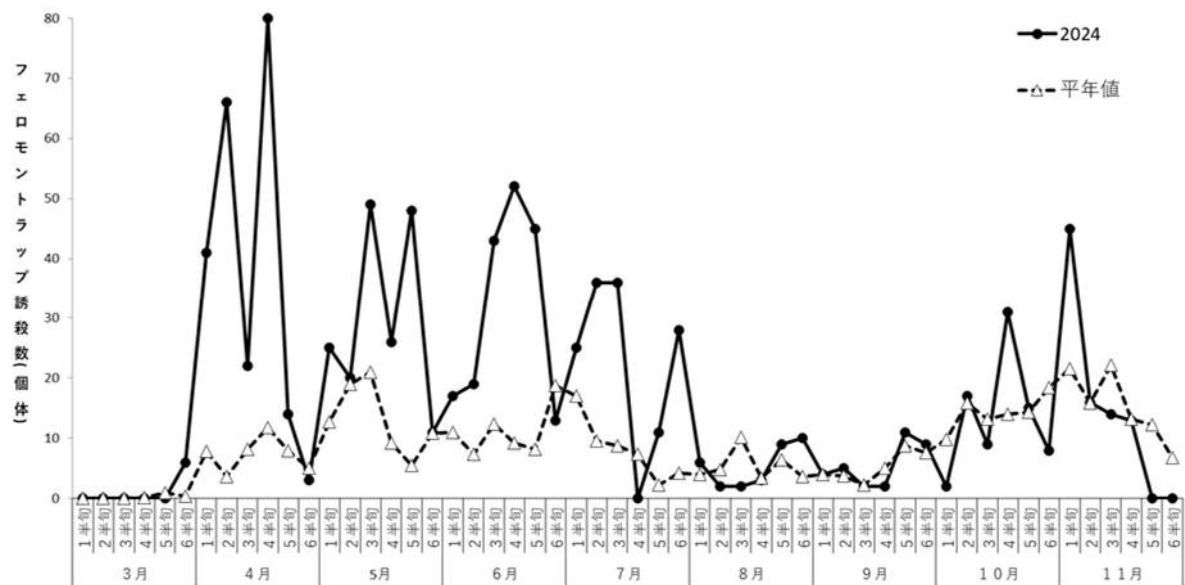


図3 チャハマキの発生消長

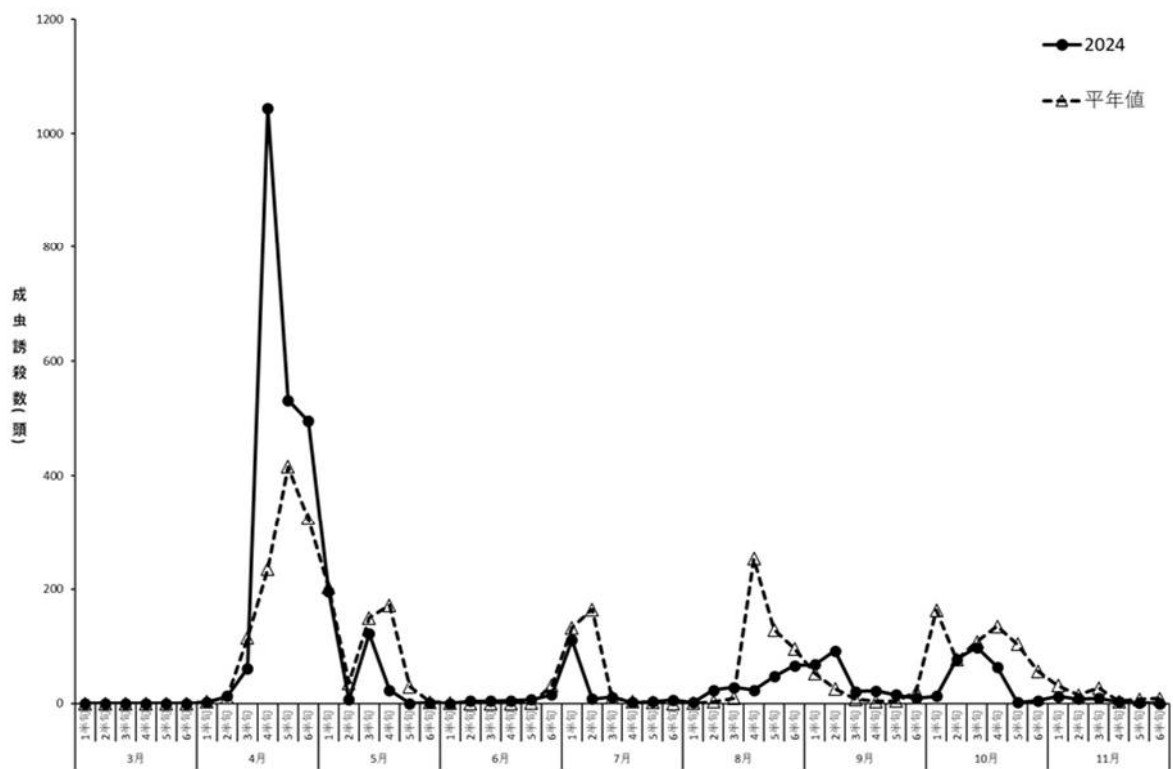


図4 チャトゲコナジラミの発生消長

3 侵入調査事業

植物防疫事業実施要綱に基づく侵入調査の対象となる有害動物又は有害植物の内 25 種について侵入調査を実施した。対象有害動植物及び対象作物は下表のとおり。

No.	対象有害動植物	対象作物	No.	対象有害動植物	対象作物
1	ミカンコミバエ種群	カンキツ、 果菜類（うり類）	13	トマトキバガ	トマト
2	ウリミバエ		14	<i>Meloidogyne enterolobii</i>	
3	クインスランドミバエ		15	<i>Columnnea latent viroid</i>	
4	チチュウカイミバエ	カンショ	16	Pepper chat fruit viroid	
5	アリモドキゾウムシ		17	トマト退緑萎縮ウイロイド	
6	火傷病菌	なし	18	Tomato apical stunt viroid	
7	カンキツネモグリセンチュウ	かんきつ	19	Pepino mosaic virus	
8	カンキツグリーンニング病菌		20	Tomato brown rugose fruit virus	
9	<i>Spiroplasma citri</i>		21	Tomato mottle mosaic virus	
10	<i>Xylella fastidiosa</i>		22	Tomato leaf curl New Delhi virus	
11	イネミイラ穂病菌等その他国内未発生 のイネの病害	いね	23	パナナネモグリセンチュウ	
12	ウメ輪紋ウイルス	うめ	24	コロンビアネコブセンチュウ	
			25	ジャガイモやせいもウイロイド	

(1) ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、クインスランドミバエ、チチュウカイミバエ

ア 調査方法及日調査時期

調査はスタイナー型トラップにより、誘引剤としてユーゲルア D8（ミカンコミバエ種群、ウリミバエ、クインスランドミバエ対象）、メドフライコール（チチュウカイミバエ対象）を使用して誘殺状況を調査した。調査は令和 6 年 4～12 月まで毎月 2 回実施し、誘引剤は毎月 1 回取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の 10 地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調 査 場 所	調査期間の累計誘殺数（頭）			
				ミカンコミバエ	ウリミバエ	クインスランドミバエ	チチュウカイミバエ
共通 柑 橘	試験場	1	果樹グループ落葉果樹チーム（宇佐市北宇佐）	0	0	0	0
		2	果樹グループ温州ミカンチーム（国東市国東町小原）	0	0	0	0
	集出荷場	3	JAおおいた杵築柑橘選果場（杵築市杵築）	0	0	0	0
		4	JAべっふ日出柑橘選果場（日出町日出）	0	0	0	0
		5	JAおおいた柑橘選果場（大分市津守）	0	0	0	0
共通	市庁舎	6	佐伯市上浦振興局（佐伯市上浦津井浦）	0	0	0	0
		7	佐伯市米水津振興局（佐伯市米水津浦代浦）	0	0	0	0
		8	佐伯市蒲江振興局（佐伯市蒲江元猿）	0	0	0	0
	県庁舎	9	大分県豊肥振興局（竹田市竹田）	0	0	0	0
		10	大分県西部振興局（日田市城町）	0	0	0	0

(2) アリモドキゾウムシ

ア 調査方法及び調査時期

粘着板の簡易トラップに誘引剤としてアリモドキルアーII を使用して誘殺状況を調査した。

令和 6 年 9～11 月に毎月 1 回調査し、誘引剤は調査時に取り替えた。

イ 調査場所及び調査結果

下表の 2 地点で調査した結果、対象害虫は調査期間を通じて誘殺されなかった。

対象作物	設置区分	No.	調 査 場 所	調査期間の累計確認数（頭）
				アリモドキゾウムシ
カンショ	集出荷場	1	JAおおいた大野野菜集荷場（豊後大野市大野町）	0
		2	JAおおいた野津野菜集荷場（臼杵市野津町）	0

(3) 火傷病菌

巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

ア 調査品目、調査場所及び調査時期

ナシ（品種：豊水）を対象として新梢伸長期及び果実肥大期にあたる 5， 7， 8 月に調査を実施した。

調査場所は以下のとおり。

火傷病菌

No.	調査場所	No.	調査場所
1	中津市是則	5	日田市美濃
2	日田市東有田	6	玖珠郡九重町恵良
3	日田市東有田	7	由布市庄内町小松台
4	日田市美濃	8	由布市庄内町小松台

- イ 調査結果
発生は確認されなかった。

- (4) カンキツネモグリセンチュウ、カンキツグリーニング病、*Spiroplasma citri*、*Xylella fastidiosa*
巡回調査時に調査圃場において、目視による調査を実施した。

- ア 調査品目、調査場所及び調査時期
温州ミカンの春・夏・秋芽の各伸長時期に当たる4，6，8月に調査を実施した。
調査場所は以下のとおり。

No.	調査場所	No.	調査場所
1	杵築市茅場	6	津久見市平岩
2	杵築市日野	7	佐伯市海崎
3	速見郡日出町川崎	8	佐伯市米水津色利浦
4	大分市大在	9	宇佐市宇佐
5	津久見市平岩	10	宇佐市和間

- イ 調査結果
発生は確認されなかった。

- (5) イネミイラ穂病菌等その他国内未発生のイネの病害

- ア 調査場所、調査方法、調査時期、調査結果等
7～9月の巡回調査時に調査圃場にて目視による調査を実施した。いずれも発生は確認されなかった。
調査場所は下表のとおり。

No.	調査場所
1	竹田市倉木
2	宇佐市下矢部

- (6) ウメ輪紋ウイルス

- ア 調査場所、調査時期及び調査方法
日田市に調査園を設定し（ウメ、スモモ各4園地）、令和6年5月20日に調査対象植物の目視調査を行った。また、1園あたり5樹から5葉ずつ葉を採取し、門司植物防疫所に送付して、イムノクロマト法による検定を依頼した。

対象作物	設置区分	No.	調査場所	品種	症状	イムノクロマト法 検定結果
ウメ	栽培地	1	日田市大山町東大山	七折	無	(－)
スモモ	栽培地	2	日田市大山町西大山	ソルダム	無	(－)

- イ 調査結果
下表のとおり調査した結果、疑義症状は認められなかった。門司植物防疫所の検定結果は全て陰性であった。

- (7) トマトキバガ

令和6年1月から12月まで、フェロモントラップで合計28,594頭のトマトキバガが誘殺された。トマト及びミニトマトの栽培施設でトマトキバガによる被害が確認されたほか、野外においてナス科のイヌホオズキ類（恐らく、テリミノイヌホオズキ）で本種の寄生が確認された（ハウス外：3か所、ハウス内：1か所）。

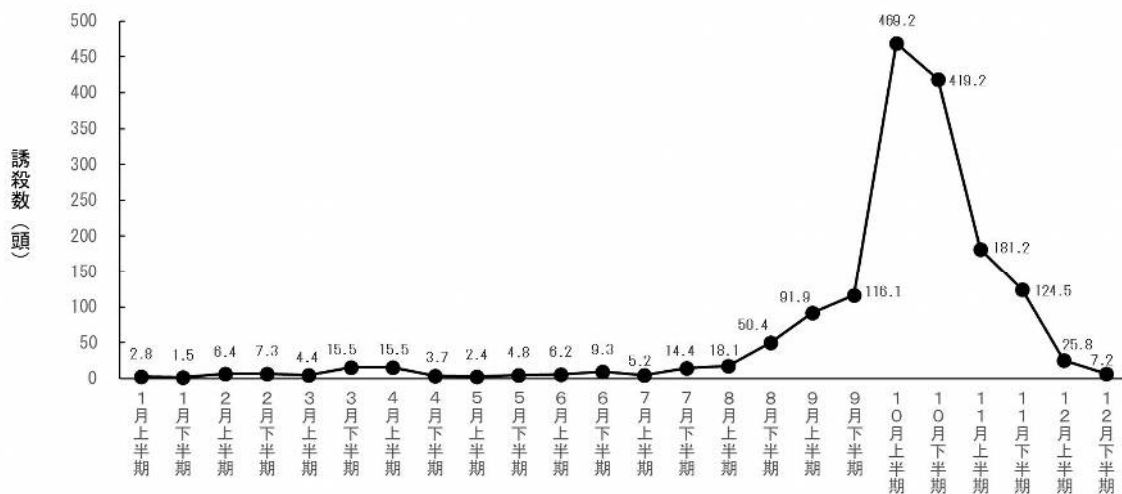
ア フェロモントラップによる調査方法

トマトキバガのフェロモンルアーを誘引剤として、ジャクソン型トラップをトマト栽培圃場周辺に一つ設置し、県内8～19か所において令和6年1月以降1か月に2回の間隔で誘殺状況を調査した。

イ フェロモントラップの設置場所、調査期間、誘殺数

対象作物	No.	設置場所	設置区分	調査期間	誘殺数 (頭)	備 考
夏秋トマト	1	豊後大野市三重町	試験場	令和6年1～12月	1,511	県農林水産研究指導センター
	2	竹田市荻町①	育苗センター	令和6年1～12月	2,232	JAおおいた
	3	竹田市荻町②	栽培施設	令和6年1～12月	2,810	
	4	竹田市荻町③	栽培施設	令和6年1～12月	2,711	
	5	竹田市荻町④	栽培施設	令和6年3～12月	5,739	
	6	竹田市荻町⑤	栽培施設	令和6年3～12月	4,135	
	7	竹田市荻町⑥	栽培施設	令和6年3～12月	4,290	
	8	竹田市久住町①	栽培施設	令和6年1～12月	266	
	9	竹田市久住町②	栽培施設	令和6年3～12月	1,323	
	10	玖珠郡九重町①	栽培施設	令和6年1～12月	811	
	11	玖珠郡九重町②	栽培施設	令和6年1～12月	284	
	12	玖珠郡九重町③	栽培施設	令和6年1～12月	154	
	13	玖珠郡九重町④	栽培施設	令和6年3～12月	628	
	14	玖珠郡九重町⑤	栽培施設	令和6年4～12月	836	
	15	玖珠郡九重町⑥	栽培施設	令和6年4～12月	104	
	16	玖珠郡玖珠町①	栽培施設	令和6年4～12月	445	
	17	玖珠郡玖珠町②	栽培施設	令和6年4～12月	229	
	18	国東市武蔵町	栽培施設	令和6年5～12月	68	
冬春トマト	19	臼杵市	栽培施設	令和6年3～6月、 11～12月	18	
計					28,594	

※誘殺数は令和6年1～12月の調査結果の総数。



トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数 (2024年)

ウ 圃場調査結果

トマト、ミニトマトの夏秋栽培施設では、葉及び果実の被害が５月から継続的に確認された。

(8) トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種

ア 調査対象有害動植物及び調査場所及び調査時期

トマトにおけるトマトキバガ以外の侵入調査対象種は 12 種で、いずれも巡回調査圃場 10 か所の調査圃場において、４～11 月に目視による調査を実施した。

No.	調査場所	No.	調査場所
1	竹田市荻町恵良原①	6	竹田市久住町白丹①
2	竹田市荻町恵良原②	7	竹田市久住町白丹②
3	竹田市荻町藤渡	8	玖珠郡九重町栗原①
4	竹田市荻町高練木	9	玖珠郡九重町栗原②
5	竹田市荻町政所	10	玖珠郡九重町栗原③

イ 調査結果

発生は確認されなかった。

IV 参考資料

1 令和6年気象概況

(1) 月別気象概況（大分地方気象台「大分県気象月報」から抜粋）

1月

天気は、上旬、中旬は気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。下旬は高気圧に覆われて晴れる日もあったが、23日から24日はこの冬一番の強い寒気の影響で北部、西部で大雪となった所があった。気温は、平年より高いか、かなり高かった。降水量は、竹田、蒲江で平年よりかなり少なく、他は少ないか、平年並だった。日照時間は、豊後高田、日田、竹田で平年並、他は平年より多かった。

2月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、佐伯、蒲江で平年より多く、他はかなり多かった（多雨）。日照時間は、国見、豊後高田、杵築で平年より少なく、他はかなり少なかった（寡照）。

19日は九州北部地方（山口県を含む）で「春一番」が吹いた。

3月

天気は、低気圧や前線などの影響で雨の降る日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より高かった。降水量は、平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、平年並か、平年より多かった。

4月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、蒲江で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、平年よりかなり少なかった（寡照）。

5月

天気は、周期的に変化したが、中旬は高気圧に覆われて晴れる日が多く、下旬は大雨となった日があった。気温は、日田、大分で平年より高く、他は平年並か、低かった。降水量は、平年並か、平年より多かった。日照時間は、平年並だった。

6月

天気は、上旬と中旬は高気圧に覆われて晴れる日もあったが、下旬は低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。九州北部地方（山口県を含む）は、17日ごろに梅雨入りしたと見られる。気温は、豊後高田、日田で平年よりかなり高く、他は平年並か、高かった。降水量は、蒲江で平年より多く、他は平年並か、少なかった。

日照時間は、平年並か、平年より多かった。

7月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中旬は梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、月のはじめは大雨となった日もあった。九州北部地方（山口県を含む）は、22日ごろに梅雨明けしたと見られる。気温は、平年より高いか、かなり高かった（高温）。降水量は、宇目、蒲江で平年よりかなり少なく、他は平年並か、少なかった。日照時間は、平年より多いか、かなり多かった。

8月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、台風第10号や湿った空気の影響で大雨となった日があった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、中津、椿ヶ鼻で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、平年より多いか、かなり多かった（多照）。

9月

天気は、前線や湿った空気の影響で雨の降る日があり、大雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、平年並か、平年より少ないか、かなり少なかった。日照時間は、蒲江で平年より多く、他はかなり多かった（多照）。

10月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もあった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、武蔵で平年より少なく、他は平年並か、多かった。日照時間は、中津で平年より少なく、他はかなり少なかった（寡照）。

11月

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、中旬は低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多く、月のはじめは大雨となった日もあった。気温は、平年より高いか、かなり高かった（高温）。降水量は、蒲江で平年より少なく、他は平年並か、多いか、かなり多かった。日照時間は、犬飼、竹田で平年よりかなり少なく、他は平年並か、少なかった。

12月

天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より低かった。降水量は、日田、佐賀関で平年より少なく、他はかなり少なかった（少雨）。日照時間は、大分、玖珠で平年より多く、他はかなり多かった（多照）。

(2) 大分地方気象台における気象表

観測地点：大分市長浜町

平年値：1991～2020年

月	旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		相対湿度 (%)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	上	7.9	7.0	12.7	11.4	3.4	2.8	65.0	62.0	2.0	10.1	56.5	51.6
	中	9.5	6.6	13.5	10.6	5.4	2.7	71.0	63.0	8.5	20.0	57.7	45.6
	下	6.1	6.1	10.7	10.3	2.2	2.2	67.0	63.0	8.0	19.7	59.6	52.3
	月間	7.8	6.6	12.3	10.8	3.7	2.6	67.7	62.7	18.5	49.8	173.8	149.5
2	上	7.7	6.4	10.7	10.7	4.6	2.3	78.0	62.0	51.5	14.5	23.4	54.0
	中	11.1	7.2	16.5	11.5	6.0	3.0	72.0	63.0	13.0	26.9	61.0	51.3
	下	9.1	8.2	12.1	12.6	6.9	4.0	76.0	65.0	91.0	22.7	26.7	43.8
	月間	9.3	7.3	13.1	11.6	5.8	3.1	75.3	63.3	155.5	64.1	111.1	149.1
3	上	8.3	9.0	12.4	13.4	4.7	4.9	64.0	64.0	39.0	33.2	65.8	55.1
	中	10.6	10.1	15.6	14.8	6.0	5.6	65.0	65.0	26.5	28.9	71.2	56.5
	下	13.8	11.3	18.4	15.7	10.1	7.1	73.0	65.0	75.5	37.2	52.7	63.3
	月間	10.9	10.1	15.5	14.6	6.9	5.9	67.3	194.0	141.0	99.3	189.7	174.9
4	上	15.5	13.2	19.3	18.0	12.5	8.7	79.0	65.0	92.5	38.1	36.4	61.5
	中	18.1	14.9	23.1	19.7	13.8	10.4	69.0	65.0	20.0	36.4	62.0	63.7
	下	17.6	16.3	20.2	21.3	15.2	11.7	92.0	66.0	76.5	45.2	18.6	64.9
	月間	17.1	14.8	20.9	19.7	13.8	10.3	80.0	65.3	189.0	119.7	117.0	190.1
5	上	18.2	18.4	22.6	23.2	14.2	13.9	72.0	68.0	15.5	38.7	67.5	63.2
	中	19.5	19.2	24.3	24.0	14.7	14.8	63.0	67.0	19.0	50.4	79.9	63.9
	下	21.1	20.4	25.6	25.0	17.3	16.1	72.0	69.0	115.5	44.4	60.9	67.4
	月間	19.6	19.3	24.2	24.1	15.4	14.9	69.0	68.0	150.0	133.5	208.3	194.5
6	上	20.9	21.4	25.1	25.7	17.2	17.7	75.0	73.0	46.0	53.6	69.1	54.8
	中	24.2	22.6	29.0	26.6	20.1	19.4	77.0	77.0	98.0	114.7	68.2	47.4
	下	24.2	23.7	27.1	27.4	21.8	20.9	90.0	81.0	128.0	145.3	8.1	33.6
	月間	23.1	22.6	27.1	26.6	19.7	19.3	80.7	77.0	272.0	313.6	145.4	135.8
7	上	29.5	25.5	34.0	29.4	25.7	22.5	71.0	80.0	32.0	140.2	78.8	46.0
	中	26.7	26.8	30.6	31.0	23.9	23.6	86.0	77.0	123.5	70.3	46.9	57.2
	下	30.4	27.9	35.5	32.3	26.7	24.5	74.0	75.0	0.5	50.8	121.6	77.5
	月間	28.9	26.7	33.4	30.9	25.4	23.5	77.0	77.3	156.0	261.3	247.3	180.7
8	上	31.3	28.2	35.9	32.8	27.5	24.7	70.0	74.0	0	63.9	108.8	70.5
	中	29.7	27.9	34.6	32.4	25.9	24.6	71.0	75.0	39.0	50.1	91.7	64.8
	下	28.8	27.1	32.9	31.5	25.8	23.7	80.0	75.0	323.5	51.6	77.3	67.6
	月間	29.9	27.7	34.5	32.2	26.4	24.3	73.7	74.7	362.5	165.6	277.8	202.9
9	上	28.1	25.9	32.7	30.1	24.3	22.5	74.0	75.0	6.0	72.6	96.0	54.7
	中	29.3	24.4	33.8	28.4	26.0	21.0	78.0	74.0	6.0	106.6	73.4	51.6
	下	25.8	22.5	29.8	26.2	22.5	19.1	75.0	74.0	119.5	76.1	55.9	45.3
	月間	27.7	24.3	32.1	28.2	24.3	20.9	75.7	74.3	131.5	255.3	225.3	151.6
10	上	22.6	21.1	25.4	25.1	20.2	17.4	82.0	72.0	27.5	43.1	30.8	51.1
	中	22.0	19.2	26.1	23.6	18.6	15.2	79.0	70.0	35.5	57.7	37.8	55.3
	下	20.1	17.3	22.9	21.6	17.6	13.3	84.0	69.0	62.0	44.1	19.3	57.8
	月間	21.6	19.2	24.8	23.4	18.8	15.3	81.7	70.3	125.0	144.9	87.9	164.2
11	上	17.9	15.7	21.4	20.1	14.8	11.4	76.0	70.0	60.0	26.0	40.3	52.1
	中	16.9	13.8	20.2	18.1	13.6	9.6	78.0	68.0	4.0	28.7	33.6	48.8
	下	12.1	11.9	16.5	16.3	8.5	7.6	65.0	68.0	7.0	18.3	44.8	47.2
	月間	15.6	13.8	19.4	18.2	12.3	9.5	73.0	68.7	71.0	73.0	118.7	148.1
12	上	10.5	9.9	15.3	14.3	6.0	5.8	61.0	66.0	0	20.0	65.5	48.5
	中	8.0	8.4	12.4	12.7	3.8	4.3	63.0	64.0	0	11.9	50.0	47.2
	下	8.0	7.8	12.5	12.2	4.2	3.7	57.0	63.0	0	15.2	63.4	55.4
	月間	8.8	8.7	13.4	13.1	4.7	4.6	60.3	64.3	0	47.1	178.9	151.1

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

(3) 農業研究部における半旬別気象表

観測地点：大分県豊後大野市三重町

平年値：1981～2010年

月	半旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
1	1	5.6	4.5	1.1	13.1	10.9	2.2	-1.6	-1.3	-0.3	77.5	75.3	2.2	1.0	5.1	19.7	30.9	26.6	116.1
	2	4.8	4.3	0.5	11.8	10.5	1.3	-1.6	-1.4	-0.2	71.5	75.2	-3.7	0.0	6.3	0.0	27	25.9	104.1
	3	7	4.1	2.9	14.6	10.1	4.5	-1	-1.5	0.5	68.5	75.7	-7.2	0.0	7.6	0.0	40.6	24.4	166.7
	4	8.1	3.9	4.2	13.9	9.7	4.2	3	-1.6	4.6	84.7	75.8	8.9	12.0	8.0	150.1	18.6	23.2	80.0
	5	4	3.7	0.3	9.2	9.6	-0.4	-0.7	-1.8	1.1	67.3	75.0	-7.7	3.0	7.4	40.3	30.6	24.0	127.6
	6	4.4	3.6	0.8	12.1	9.7	2.4	-2.3	-2.0	-0.3	76.1	74.1	2.0	2.0	8.2	24.4	33.8	31.4	107.8
	月間	5.7	4.0	1.6	12.5	10.1	2.4	-0.7	-1.6	0.9	74.3	75.2	-0.9	18.0	42.6	42.2	181.5	155.5	116.7
2	1	6.7	4.0	2.7	10.1	10.3	-0.2	3.9	-1.9	5.8	94.2	74.2	20.0	49.0	6.7	736.5	1.6	28.2	5.7
	2	4.8	5.2	-0.4	11.5	9.9	1.6	-1.3	0.3	-1.6	78.2	70.6	7.6	0.0	7.7	0.0	25.3	28.6	88.3
	3	8.9	5.7	3.2	17.5	10.5	7.0	0.6	0.7	-0.1	69.5	71.2	-1.7	0.0	11.0	0.0	35.2	29.7	118.6
	4	10.9	5.9	5.0	17	10.7	6.3	3.6	1.0	2.6	78.6	73.0	5.6	8.5	14.2	59.7	29.2	28.8	101.3
	5	8.6	6.1	2.5	11.2	10.8	0.4	6.5	1.2	5.3	88.6	74.3	14.3	81.5	16.2	503.8	3	28.2	10.6
	6	6	6.3	-0.3	11	11.1	-0.1	1.4	1.4	-0.0	77.5	74.6	2.9	12.5	10.5	119.3	18.4	17.1	107.7
	月間	7.7	5.5	2.1	13.1	10.6	2.5	2.5	0.5	2.0	81.1	73.0	8.1	151.5	66.3	228.5	112.7	160.6	70.2
3	1	6.7	6.5	0.2	12.8	12.8	0.8	0.3	0.4	-0.1	71.0	75.5	-4.5	33.0	13.5	243.9	64.6	26.6	242.4
	2	6.8	7.1	-0.3	12.7	13.6	0.8	1.7	0.8	0.9	66.8	75.0	-8.2	1.0	15.8	6.3	81.3	27.6	294.5
	3	9.0	7.9	1.1	17.2	14.3	1.0	1.8	1.5	0.3	70.7	75.5	-4.8	17.0	20.0	85.2	92.2	27.6	334.6
	4	9.4	8.6	0.8	15.3	14.9	0.6	3.0	2.3	0.7	68.1	76.2	-8.1	9.5	22.1	42.9	71.9	26.9	267.7
	5	10.8	9.2	1.6	15.3	15.4	3.5	6.0	3.1	2.9	82.9	76.6	6.3	84.0	21.8	385.9	41.9	26.1	160.2
	6	14.7	9.9	4.8	21.7	16.3	4.7	8.7	3.8	4.9	65.8	75.6	-9.8	18.0	25.1	71.6	100.6	32.3	311.7
	月間	9.6	8.2	1.4	15.8	14.6	1.3	3.6	2.0	1.6	70.9	75.7	-4.8	162.5	118.3	137.3	452.5	167.1	270.8
4	1	15.8	11.1	4.7	20.9	17.7	3.2	10.4	4.6	5.8	81.6	74.1	7.5	50.0	20.3	246.7	15.0	28.9	51.9
	2	14.0	12.2	1.8	18.5	18.9	-0.4	9.7	5.7	4.0	85.1	73.6	11.5	38.5	20.0	192.1	17.2	29.8	57.8
	3	16.2	13.1	3.1	22.4	19.7	2.7	10.5	6.6	3.9	73.6	73.5	0.1	13.0	20.0	65.0	23.4	29.9	78.4
	4	17.4	13.9	3.5	25.4	20.5	4.9	10.2	7.4	2.8	73.5	73.5	0.0	1.5	20.5	7.3	33.2	30.0	110.7
	5	17.0	14.7	2.3	21.5	21.4	0.1	13.1	8.1	5.0	90.2	73.5	16.7	33.5	21.2	158.1	15.4	30.2	51.0
	6	18.3	15.6	2.7	21.9	22.2	-0.3	15.3	9.1	6.2	90.5	74.4	16.1	20.5	22.5	91.3	5.0	29.7	16.9
	月間	16.5	13.4	3.0	21.8	20.1	1.7	11.5	6.9	4.6	82.4	73.8	8.6	157.0	124.5	126.1	109.2	178.4	61.2
5	1	16.9	16.6	0.3	22.2	23.1	-0.9	11.3	10.2	1.1	78.7	75.5	3.2	5.5	23.9	23.0	25.6	28.6	89.4
	2	17.3	17.3	0.0	22.7	23.7	-1.0	11.9	11.0	0.9	69.0	75.9	-6.9	13.5	24.2	55.8	26.7	28.1	95.2
	3	18.2	17.6	0.6	24.7	24.0	0.7	11.2	11.5	-0.3	71.8	75.7	-3.9	20.0	24.3	82.3	32.1	27.6	116.3
	4	18.8	18.0	0.8	27.1	24.3	2.8	11.3	11.9	-0.6	57.8	75.7	-17.9	0.0	23.1	0.0	47.1	27.5	171.4
	5	20.2	18.5	1.7	26.3	24.8	1.5	14.9	12.5	2.4	74.2	76.2	-2.0	1.0	22.3	4.5	22.4	27.6	81.3
	6	19.7	19.2	0.5	26.7	25.3	1.4	12.5	13.3	-0.8	76.5	77.5	-1.0	95.0	28.3	335.5	30.6	32.4	94.6
	月間	18.5	17.8	0.7	25.0	24.2	0.7	12.2	11.7	0.4	71.3	76.1	-4.8	135.0	146.1	92.4	184.5	171.7	107.5
6	1	18.9	19.9	-1.0	26.7	25.9	0.8	12.1	14.2	-2.1	71.7	78.9	-7.2	0.0	24.9	0.0	48.2	26.1	184.8
	2	20.2	20.5	-0.3	24.9	26.2	-1.3	16.9	15.2	1.7	85.8	80.4	5.4	38.5	29.9	128.9	11.6	24.0	48.4
	3	23.6	21.0	2.6	30.0	26.4	3.6	18.0	16.2	1.8	76.2	82.6	-6.4	1.0	40.5	2.5	36.9	21.5	171.8
	4	22.7	21.7	1.0	29.0	26.7	2.3	17.8	17.4	0.4	81.2	84.5	-3.3	79.0	52.6	150.2	24.8	19.7	125.6
	5	24.0	22.5	1.5	27.7	27.2	0.5	21.1	18.5	2.6	88.0	85.4	2.6	58.5	62.1	94.2	6.0	18.2	32.9
	6	23.6	23.3	0.3	27.3	28.0	-0.7	21.5	19.4	2.1	92.8	85.3	7.5	55.0	66.6	82.6	0.3	18.3	1.6
	月間	22.2	21.5	0.7	27.6	26.7	0.9	17.9	16.8	1.1	82.6	82.9	-0.2	232.0	276.6	83.9	127.8	127.8	100.0

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

月	半旬	平均気温 (℃)			最高気温 (℃)			最低気温 (℃)			相対湿度 (%)			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
		本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	較差	本年	平年	比	本年	平年	比
7	1	27.9	24.1	3.8	32.9	28.9	4.0	23.2	20.0	3.2	76.8	84.7	-7.9	24.5	64.2	38.2	41.6	20.5	203.0
	2	29.7	24.8	4.9	34.7	29.8	4.9	24.5	20.5	4.0	64.6	83.9	-19.3	0.0	55.0	0.0	43.5	22.6	192.7
	3	24.5	25.4	-0.9	27.8	30.5	-2.7	22.5	21.0	1.5	91.6	83.2	8.4	135.5	45.8	295.6	4.0	23.9	16.7
	4	28.2	25.8	2.4	34.0	31.1	2.9	22.9	21.3	1.6	78.0	82.6	-4.6	0.0	42.2	0.0	41.3	26.1	158.1
	5	29.3	26.0	3.3	35.5	31.4	4.1	24.6	21.5	3.1	76.1	82.3	-6.2	9.0	44.5	20.2	46.2	28.4	162.4
	6	29.8	26.1	3.7	35.6	31.6	4.0	25.1	21.6	3.5	72.9	82.4	-9.5	0.0	56.0	0.0	51.5	35.5	145.0
	月間	28.2	25.3	2.9	33.4	30.6	2.9	23.8	21.0	2.8	76.7	83.2	-6.5	169.0	307.8	54.9	228.1	157.0	145.2
8	1	30.2	26.1	4.1	37.0	31.7	5.3	24.7	21.5	3.2	76.0	82.5	-6.5	0.0	44.0	0.0	51.6	30.1	171.5
	2	29.0	26.0	3.0	36.4	31.6	4.8	23.7	21.5	2.2	76.0	82.8	-6.8	0.0	41.2	0.0	51.4	29.5	174.4
	3	28.7	25.9	2.8	36.1	31.4	4.7	22.7	21.5	1.2	72.3	83.1	-10.8	0.0	38.4	0.0	44.6	28.3	157.7
	4	28.6	25.7	2.9	34.3	31.2	3.1	24.1	21.3	2.8	78.2	83.1	-4.9	17.5	35.5	49.3	32.6	28.4	114.9
	5	29.3	25.3	4.0	36.4	30.9	5.5	24.5	20.9	3.6	76.1	83.2	-7.1	17.5	35.0	50.0	42.1	29.3	143.8
	6	25.9	24.9	1.0	29.5	30.4	-0.9	23.9	20.4	3.5	90.7	83.5	7.2	455.5	44.9	1015.5	7.5	34.7	21.6
	月間	28.6	25.6	3.0	35.0	31.2	3.8	23.9	21.2	2.7	78.2	83.0	-4.8	490.5	238.9	205.3	229.8	180.2	127.5
9	1	26.4	26.1	0.3	33.2	31.7	1.5	21.3	21.5	-0.2	79.3	82.5	-3.2	0.0	44.0	0.0	46.6	30.1	154.9
	2	26.9	26.0	0.9	33.8	31.6	2.2	32.5	21.5	11.0	78.8	82.8	-4.0	5.0	41.2	12.1	45.4	29.5	154.0
	3	27.2	25.9	1.3	33.1	31.4	1.7	23.2	21.5	1.7	83.6	83.1	0.5	13.0	38.4	33.8	32.4	28.3	114.6
	4	27.8	25.7	2.1	33.3	31.2	2.1	23.8	21.3	2.5	82.2	83.1	-0.9	3.0	35.5	8.4	35.9	28.4	126.5
	5	24.0	25.3	-1.3	28.6	30.9	-2.3	19.9	20.9	-1.0	83.4	83.2	0.2	76.5	35.0	218.7	20.8	29.3	71.1
	6	23.6	24.9	-1.3	30.0	30.4	-0.4	19.0	20.4	-1.4	83.4	83.5	-0.1	0.0	44.9	0.0	30.3	34.7	87.3
	月間	26.0	25.6	0.3	32.0	31.2	0.8	23.3	21.2	2.1	81.8	83.0	-1.3	97.5	238.9	40.8	211.4	180.2	117.3
10	1	20.8	18.8	2.0	24.1	24.2	-0.1	18.3	14.0	4.3	91.5	84.0	7.5	32.0	29.2	109.7	9.6	24.8	38.7
	2	20.8	17.9	2.9	25.9	23.5	2.4	17.5	12.9	4.6	87.0	83.8	3.2	14.0	25.5	54.9	21.0	25.9	81.2
	3	18.6	17.0	1.6	24.8	23.0	1.8	13.8	11.8	2.0	85.4	83.2	2.2	2.0	24.6	8.1	26.9	28.0	96.1
	4	20.9	16.0	4.9	25.1	22.2	2.9	17.8	10.6	7.2	90.4	82.6	7.8	20.5	22.5	91.1	10.4	29.0	35.9
	5	18.4	14.9	3.5	21.6	21.2	0.4	14.5	9.4	5.1	91.9	82.3	9.6	10.5	16.8	62.5	10.5	27.9	37.7
	6	18.8	14.0	4.8	22.8	20.4	2.4	16.2	8.4	7.8	90.8	82.7	8.1	15.3	14.0	109.5	15.3	31.6	48.4
	月間	19.7	16.4	3.3	24.1	22.4	1.7	16.4	11.2	5.2	89.5	83.1	6.4	94.3	132.5	71.2	53.0	167.2	31.7
11	1	17.5	13.4	4.1	22.8	19.8	3.0	12.9	7.7	5.2	87.4	83.0	4.4	39.5	11.1	355.7	20.2	26.0	77.6
	2	13.9	12.8	1.1	19.7	19.0	0.0	8.9	7.1	1.8	82.4	82.5	-0.1	10.0	11.7	85.2	24.0	25.7	93.2
	3	15.6	11.7	3.9	20.9	18.0	2.9	11.2	6.1	5.1	91.7	81.7	10.0	2.0	10.6	18.8	17.8	25.1	70.8
	4	13.8	10.5	3.3	18.1	16.9	1.2	9.8	4.7	5.1	81.8	81.2	0.6	0.5	8.6	5.8	14.8	25.1	59.0
	5	18.4	9.5	8.9	21.6	16.0	5.6	14.5	3.6	10.9	80.4	80.7	-0.3	0.0	8.6	0.0	22.7	24.9	91.2
	6	9.3	8.7	0.6	14.8	15.2	-0.4	4.5	2.8	1.7	75.0	79.8	-4.8	10.5	9.3	112.4	16.8	24.5	68.5
	月間	14.8	11.1	3.7	19.7	17.5	2.2	10.3	5.3	5.0	83.1	81.5	1.7	62.5	60.0	104.2	116.3	151.4	76.8
12	1	8.8	7.8	1.0	17.0	14.3	2.7	1.9	1.8	0.1	74.5	78.9	-4.4	0.0	8.6	0.0	38.5	25.2	152.6
	2	5.9	6.9	-1.0	12.9	13.5	-0.6	-0.6	1.0	-1.6	68.1	78.1	-10.0	0.0	7.3	0.0	33.5	25.9	129.2
	3	5.5	6.2	-0.7	12.7	12.7	0.0	-0.6	0.4	-1.0	71.9	77.4	-5.5	0.0	6.3	0.0	28.9	25.5	113.5
	4	4.3	5.6	-1.3	11.1	12.0	-0.9	-1.9	-0.2	-1.7	73.8	77.8	-4.0	0.0	5.4	0.0	21.3	24.9	85.4
	5	5.0	5.3	-0.3	12.7	11.7	1.0	-1.6	-0.6	-1.0	64.2	86.6	-22.4	0.0	4.7	0.0	38.8	25.5	152.3
	6	6.2	4.9	1.3	12.6	11.4	1.2	-0.1	-1.0	0.9	64.5	65.6	-1.1	0.0	5.3	0.0	36.7	31.7	115.9
	月間	6.0	6.1	-0.2	13.2	12.6	0.6	-0.5	0.2	-0.7	69.5	77.4	-7.9	0.0	37.6	0.0	197.7	158.7	124.6

備考) 月間の数値は気温・湿度については平均値、降水量・日照時間については積算値

令和6年度 植物防疫事業成績書（年報）

発行年月 令和7年3月
編集・発行 大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チーム
大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
TEL (0974) 28-2078
FAX (0974) 22-0940
